

北大時報

April 2009

No.661

平成21年

4

平成21年度入学式の挙行

トポロジー理工学教育研究センターを設置

平成21年度科学技術分野の 文部科学大臣表彰に3氏

お知らせ

- 平成21年度北海道大学公開講座等開設一覧
- 平成22年度採用分日本学術振興会特別研究員の募集
- 平成22年度採用分日本学術振興会特別研究員—RPDの募集
- 平成21年度総合博物館の開館時間・休館日ならびに臨時休館日のお知らせ
- 省エネルギー月間(平成21年2月)の実施状況



入学式(2009. 4. 8, 関連記事6頁に掲載)

目 次

全 学 ニ ュ ー ス

○平成20年度学位記授与式の举行……………	1
○〈総長告辞〉……………	4
○平成21年度入学式の举行……………	6
○〈総長告辞〉……………	7
○平成21年度北海道大学の予算……………	9
○「トポロジー理工学教育研究センター」を設置……………	10
○「施設保全センター」を開設……………	10
○本学永年勤続者表彰に144氏……………	11
○名誉教授に35氏……………	13
○平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰に3氏 ー科学技術賞（研究部門）：理学研究院 中村 玄教授，若手科学者賞：獣医学研究科 石塚真由 美准教授，農学研究院 高野順平助教……………	14
○筑波大学と教育改善に関する協定を締結……………	17
○北海道地区国立大学法人の教員の免許状更新講習に おける事務の共同実施に関する協定を締結……………	18
○「北海道大学一名古屋大学合同大学デイズ（南京・ 北京）」開催……………	19
○北海道大学大塚賞授与式を举行ー平成20年度博士課 程修了者ー……………	21
○平成20年度クラーク賞の表彰式を举行……………	22
○平成20年度知的財産セミナーを開催……………	23
○北大フロンティア基金……………	24
○「平成20年度魅力ある大学教育フォーラム・パネル 展ー学びの大地・北海道ー」の実施……………	26
○「北海道大学卒業パーティ2009」開催……………	28

部 局 ニ ュ ー ス

○低温科学研究所がドイツ・ブレーメン州の3教育研 究機関と部局間交流協定を締結……………	29
○農学研究院が旭川市との連携協定を締結……………	30
○水産学部練習船おしよろ丸に対し内閣府から感謝状 ……………	31
○水産学部附属練習船「おしよろ丸」就航100周年記 念事業始まる……………	32
○函館キャンパスで各賞の授与式を举行……………	33
○触媒化学研究センター訪問団 キングファハド石油 鉱物資源大学（サウジアラビア）を訪問，シンポ ジウムを開催……………	34
○総合博物館土曜市民セミナー「北大植物園のアイヌ 資料 その歴史と特徴」開催……………	35
○第2回北海道大学教育GPセミナー「世界の博物館 における鉱物展示から見えるもの」開催……………	36
○第3回北海道大学教育GPセミナー「北方地域人間 環境科学教育プログラムの取り組みと問題点」開 催……………	37
○脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第5期修了 生に修了証書授与……………	38
○大学文書館で札幌農学校生の受講ノートの目録を作 成・公開……………	39

○大学文書館に「北大紛争」関係資料を移管……………	40
○小学生とその家族を対象に「冬の植物園ウォッチン グ・ツアー」を開催……………	41
○「生命科学院・理学院合同FD研修会」を実施……………	42
○「理学部・理学院・生命科学院合同FD研究会」を実 施……………	43

お 知 ら せ

○平成21年度北海道大学公開講座等開設一覧……………	44
○平成22年度採用分日本学術振興会特別研究員の募集 ……………	49
○平成22年度採用分日本学術振興会特別研究員-R P Dの募集……………	50
○平成21年度総合博物館の開館時間・休館日ならびに 臨時休館日のお知らせ……………	51
○省エネルギー月間（平成21年2月）の実施状況……………	52

レ ク リ エ ー シ ョ ン

○函館キャンパスフットサル大会“FISHCUP”を開 催！……………	53
---------------------------------------	----

博 士 学 位 記 授 与

○課程博士320人，論文博士30人……………	54
------------------------	----

表 敬 訪 問

……………	69
-------	----

同 窓 会 と の 交 流

……………	70
-------	----

諸 会 議 の 開 催 状 況

……………	71
-------	----

学 内 規 程

……………	73
-------	----

人 事

○新任部局長等紹介……………	81
○新任部局長等紹介……………	106
○理事・部局長等（再任）紹介……………	111
○新任教授紹介……………	114
○新任部課長等紹介……………	119

訃 報

○名誉教授 若井邦夫 氏……………	129
○教授 山本克之 氏……………	130

資 料

○平成21年度日本学術振興会特別研究員選考結果一覧 ……………	132
○平成21年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ ……………	133
○平成21年度入学者の都道府県分布及び地域比率……………	134

表 紙：入学式（2009.4.8）

裏表紙：北の息吹㊤アズマイチゲ（*Anemone raddeana*）

平成20年度学位記授与式の挙行

平成20年度学士学位記授与式

平成20年度学士学位記授与式が3月25日(水)に、本学第一体育館において行われました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長等の列席の下、北大交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、水産学部を除く11学部の卒業生2,373名に対し学士学位記が授与されました。また、翌日の3月26日(木)に、函館キャンパス講堂において水産学部卒業生217名に学士学位記が水産学部長から授与されました。

佐伯総長は告辞の中で、エルムのキャンパスで得られた貴重な体験と学びの成果を、これからの人生に生かしていただきたいと述べました。また、昨年北海道洞爺湖で開催された主要

国首脳会議G8サミットについても触れ、持続可能な社会を構築するために、それぞれの立場で課題解決に努力してほしいと伝えました。

最後に、卒業生の皆様の前途に「明るい未来が開けていくことと、その未来を皆さん自身が切り開いてくれること」を祈念するはなむけの言葉が贈られました。

続いて、来賓を代表し、北海道大学連合同窓会会長 数土文夫氏から卒業生へ向けて、「この日が皆さんの人生において新たなコメンズメント(新しい人生を開拓する日、出発点)になることを祈念する」とのお祝いの言葉が贈られ、その後学士学位記授与式出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。



告辞を述べる佐伯総長



「都ぞ弥生」の斉唱



学位記を受ける総代



祝辞を述べられる数土会長

平成20年度修士・専門職学位・博士学位記授与式

平成20年度修士・専門職学位・博士学位授与式が、学士学位授与式終了後に本学第二体育館において、行われました。

修士・専門職学位・博士学位記授与式は、研究科長等の列席の下、水産科学院、水産科学研究科を除く10研究科、6学院の修士課程修了者1,351名に対し修士学位記が、また、法科大学院（法学研究科法律実務専攻）修了者107名、経済学研究科会計情報専攻修了者21名及び公共政策学教育部公共政策学専攻の専門職学位課程修了者26名に対し専門職学位記が各研究科等の長から授与されました。

引き続き、水産科学院及び水産科学研究科を除く14研究科、4学院の博士課程修了者302名

及び論文博士29名に博士学位記が佐伯総長から授与されました。

この後、総長告辞があり、最後に北大交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。

また、翌日の3月26日（木）に、函館キャンパス講堂において水産科学院、水産科学研究科の修士課程修了者82名に修士学位記が水産科学院長・研究科長から、博士課程修了者18名及び論文博士1名に博士学位記が佐伯総長から授与されました。

学部・研究科等別の卒業者数、修了者数及び論文博士者数は次表のとおりです。

博士学位記授与者については、本号54ページに掲載しています。



学位記を受ける総代



水産学部応援団のエール

学部別卒業生数一覧

学部名	卒業生
文学部	207
教育学部	60
法学部	224
経済学部	188
理学部	312
医学部	294
歯学部	60
薬学部	75
工学部	700
農学部	212
獣医学部	41
水産学部	217
計	2,590

研究科等別大学院修士課程・専門職学位課程修了者数一覧

研究科等名	修了者	研究科・教育部・専攻名	修了者
文学研究科	82	法科大学院(法学研究科法律実務専攻)	107
法学研究科	18	経済学研究科会計情報専攻	21
経済学研究科	32	公共政策学教育部公共政策学専攻	26
医学研究科	24		
工学研究科	381		
情報科学研究科	171		
水産科学大学院	81		
水産科学研究科	1		
環境科学大学院	115		
地球環境科学研究科	1		
理学院	179		
理学研究科	1		
農学院	153		
生命科学大学院	122		
教育学院	25		
教育学研究科	9		
国際広報メディア・観光学院	33		
国際広報メディア研究科	5		
計	1,433	計	154

研究科等別大学院博士課程修了者及び論文博士数一覧

研究科等名	課程博士	論文博士
文学研究科	21	
教育学研究科	6	1
法学研究科	3	
経済学研究科	3	
医学研究科	62	7
歯学研究科	33	1
薬学研究科	1	1
工学研究科	35	3
獣医学研究科	12	
国際広報メディア研究科	2	
情報科学研究科	26	2
水産科学大学院	17	1
水産科学研究科	1	
環境科学大学院	15	2
地球環境科学研究科	2	
理学院	23	
理学研究科	11	1
農学院	25	11
農学研究科	6	
生命科学大学院	16	
計	320	30

(学務部教務課)

総長告辞

学士学位記授与式

総長 佐伯 浩

本日、ここに平成20年度学士学位記授与式を挙行するに当たり、北海道大学を代表しまして、卒業生の皆様ならびにご列席のご家族、関係者の皆様に対して、心よりお祝い申し上げます。

本日の学士学位記授与者は12学部合わせて2,590名で、その内には女子学生が761名、留学生20名が含まれています。

この卒業式を迎えるに当たって、4年前、あるいは6年前に入学された時、皆さんがそれぞれ抱いていた夢、希望、期待をどの程度実現できたでしょうか。多くの友人や先輩、後輩に巡り合うことができた方、多くの本を読んだ方、充実したクラブ活動・サークル活動ができた方、ボランティア活動等による社会貢献をされた方、そして、幅広い教養と専門分野の知識とそれを活用する能力を得ることができた方、学生生活が本当に充実していた方、いろいろいらっしやると思います。

エルムのキャンパスで得られた貴重な体験と学びの成果を、これからの人生に生かしていただきたいと思います。

さて、皆様の多くは、これから社会に出ることになります。最初のうちは、仕事に慣れることに精一杯で、この先やっていけるかどうか不安になる方もおられると思いますが、徐々に慣れていきますので、我慢することが大切です。社会に出ると、経済、社会の変化が激しいことに気づかれるはずですし、皆さんの周りには才能豊かな先輩が数多くいることに驚かれることもあるでしょう。ある人は、外国語のコミュニケーション能力にたけ、またある人は論理的な説明能力にたけ、またある人は社会や経済の変化を的確に読み取る等、種々の才能を持った人が多くいることに

気づくはずですが、しかし、それらの能力や才能は、日々の努力、日々の学びによってのみ培われるものであります。卒業後も自ら学び、継続的に学ばいぬる「自学自習」の習慣を身につけることにより、加速するであろう国際化や経済・社会の変化に柔軟に対応できる人材へ育っていくと思います。皆様方はそのような能力を持つに十分な基礎的素養を有していることに自信を持っていただきたいと思います。

さて、現在、我々の住む地球は、地下資源、食糧、水それにエネルギー等、人類にとって不可欠であるものが有限であることが判ってまいりました。今のような人類の活動が続くならば、地球環境の劣化を加速し、人類の持続的な発展を不可能とするような事態を招きかねない状況になっています。このような中で、本学は平成17年、持続可能な社会の実現に貢献するため、「持続可能な開発」国際戦略本部を立ち上げました。平成19年には、「サステナビリティ・ウィーク」を設け、本学の地球規模の環境問題や環境改善技術それに、低炭素社会に向けての政策学等、持続可能な社会を目指した国際シンポジウム等を開催しました。また、昨年は北海道洞爺湖で開かれた主要国首脳会議G8サミットに合わせて、世界の主要大学の学長35名が集まり、初めてのG8大学サミットが本学をホスト校として実施されました。持続可能な社会の実現に向けての「札幌サステナビリティ宣言」を採択し、それを当時の福田康夫首相に手交し、その一部がG8サミットの宣言文に盛り込まれました。また同時期に本学はサステナビリティ・ウィークーG8サミットラウンドを実施し、30を超える国際シンポジウムやフォーラム等を実施しました。その中で、本学の持

持続可能な社会構築を目指した意気込みとレベルの高さを世界に示し、国際的にも高い評価を受けております。

持続可能な社会を構築するためには、我々一人一人の努力、地域の人々が協力して行う活動、大学や企業の努力が必要です。さらに、自治体や国がより組織的に行う政策や活動とともに、世界中の国々が持続可能な社会の実現に向けての共通の目的を持って、共同で取り組むことによってのみ解決が可能であります。特に先進国である我が国の責任は極めて大きいと思います。皆さんは卒業後、それぞれの立場で、この大きな課題解決に努力していただきたいと思います。本学も持続的にこの課題解決に挑戦していきます。

本日、卒業式を迎えられた皆さんには、本学で学んだ知識や能力、課外活動やボランティア活動で得た貴重な経験があります。多くの思い出そして生涯を友とするような友人、それらは全て人生の宝物であります。これからの新しい人生を、高い倫理観と夢、勇気そして大志を持って歩んでいただきたいと思います。そして、母校である北海道大学のこと、皆さんの後輩のことも時折思い出していただきたいものです。

最後に、皆様の前途に明るい未来が開けていくこと、その未来を皆さん自身が切り開いてくれることを信じて、告辞の結びとします。

平成21年度入学式の挙行

平成21年度の入学式が、4月8日（水）に札幌コンベンションセンターにおいて行われました。

式は、来賓の連合同窓会会長 数土文夫氏、本学名誉教授 岡田弘氏、中華人民共和国駐札幌総領事館、ロシア連邦総領事館、オーストラリア領事館からの領事等、役員及び部局長の列席の下、北海道大学交響楽団による「エルムの鐘」の演奏により開始され、佐伯総長から新入生に対し告辞が述べられました。

総長は告辞の中で、新入生に対し自学自習の習慣を身に付けること及び想像力豊かな挑戦者になることを呼びかけました。これから人間として、社会人として必要なこと、あるいは国際的な場で活躍するために必要なことの基本を、入学後履修することになる全学教育で学び、学部在学中も自ら学び続ける必要があるとし、学んだ内容について、自らが考え、それに対する

自らの意見や考えを持つこと、また幅広い知識と教養に裏打ちされた健全な批判力と本質を見る目を養い、自らの行動についても確固たる信念に基づいたものであってほしいと述べられました。また、想像力を高める第一歩は、学部教育課程における基本的知識の習得と論理的思考とそれに基づく分析能力の向上にあり、学部教育をしっかりと身に付け、想像力溢れた人材に成長し、未来に向かって挑戦する意欲を持って、世界のために貢献してほしいと激励の言葉を述べられました。

続いて、留学生21名を含む2,559名の入学者を代表して、法学部 佐藤友紀子さんによる入学者宣誓が行われました。

その後、来賓の紹介、本学役員の紹介、部局長の紹介と続き、北海道大学交響楽団による「都ぞ弥生」の演奏で式は終了しました。

入学式終了後には、本学卒業生で名誉教授であり現在、NPO 法人 環境防災総合政策研究機構 理事である岡田弘氏から「本学卒業生からのメッセージ」と題しご講演いただきました。続いて、脇田副学長から「北大生活を送るにあたっての心構え」についてガイダンス、北海道大学応援団による「永遠の幸」の合唱、北海道大学合唱団による「都ぞ弥生」及び「さらに高い道」の合唱が行われ、すべての行事が終了しました。



総長告辞



入学者宣誓



岡田弘氏によるご講演

(学務部教務課)

総 長 告 辞

入 学 式

総長 佐 伯 浩

新入生の皆さん、北海道大学へのご入学おめでとうございます。北海道大学の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。また、今日まで皆さんの勉学と生活を支えてこられたご家族並びに保護者の方々に対して、心より敬意を表します。今後ともお子さん方を温かく見守り、励まして下さいますよう、お願い申し上げます。

さて、今年の本学への入学者は2,559名で、そのうち男子学生1,847名、女子学生712名であります。また入学者の中には、留学生21名、帰国子女7名が含まれています。また道内の出身者が1,259名、道外出身者が1,300名となっていて、道外出身者が41名多くなっています。今、皆さんは、大学受験という重責から解放され、これからの大学での生活に期待し、胸躍らせている方もいるでしょう。生まれた地域も、育った環境も異なっている多くの同期生が、この北海道大学で学び、課外活動やボランティア活動を通じ、切磋琢磨することになります。生涯の友となるような友人をたくさん作って下さい。

さて、ここで北海道大学の概要を簡単に述べたいと思います。本学は1876年、日本で最初に学士の学位を出した札幌農学校に始まり、東北帝国大学農科大学、北海道帝国大学、北海道大学と変わり、2004年4月、現在の国立大学法人北海道大学となり、創立以来134年の歴史を積み重ねてまいりました。また、大学の規模も12学部、17の研究科・学院等を有する我が国の基幹総合大学に成長してまいりました。この間、多くの優れた研究成果を生み出すとともに、社会に貢献する有為な人材を輩出してまいりました。5年前に、本学が法人化されるに際し、本学の教育研究理念として「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」それに「実学の重視」の4つを

掲げました。これは創立時の教頭であったウィリアム・S・クラーク博士以来およそ130年の本学の歴史の中で醸成されてきた、本学の教育研究の基本姿勢をもとに決定したものであります。本学は、これら4つの理念のもと、教育研究をとおして、皆さんを、我が国のみならず、これからの世界を勇気を持って先導していくような、国際性豊かで、人格に優れ、「高邁なる大志」を持った人材に育てることを意図しているところです。

御存知のように、21世紀は知識基盤社会と言われていまして、特に資源も乏しく面積も狭い我が国にとって、現在の豊かさを持続するためには、科学技術と文化を、さらに発展させることが極めて重要であります。また、グローバル化の波と情報化はさらに加速するものと考えられます。そのような中で、高等教育については、北米を中心とする教育圏とともに、この10年間でEU諸国を中心にヨーロッパが一つの大きな教育圏を構築しつつあります。そこで、日本、中国、それに韓国を中心とする東アジア教育圏の構築が急務となっています。国内だけでなく、東アジアあるいは世界の大学間での競争がますます激しくなっていくことが予想されています。北海道大学も我が国のみならず、東アジアのリーディング・ユニバーシティを目指して努力していく所存であります。それが国際的評価を高めることとなります。そのためには、本学を卒業する人材が世界の有力大学を卒業する学生諸君の能力と同等あるいはそれ以上であることを示す「質の保証」が必要であります。そのため本学にとっては、国際標準の教育システムの構築と個々の講義内容の質とレベルの向上が重要であります。学生諸君にとっては、講義内容の理解をより確実にすることと同時に、その内容に関連した幅広い知識を自らが獲得していく努力が必要で

す。いわゆる「自学自習」の習慣を身に付けてください。ただ卒業のみを目的とするのではなく、皆さん自身が付加価値をつける努力が必要です。さらに、国際化の進展に伴い卒業後は外国語、特に英語によるコミュニケーション能力が必要となります。本学卒業生に対するアンケート調査結果でも、多くの本学卒業生が、学生時代にもっと英語の実務能力をつけておくべきであったと反省しています。国際化の進展により、ますます、英語によるコミュニケーション能力の向上が必要で、その実現のためには皆さん自身の努力が必要です。語学習得に王道はありません。

本学には、現在81ヶ国、1,000名を超える留学生が学んでいます。折をみて、留学生諸君と交流し、異文化の理解と外国語能力の向上に努力することも良いと思います。本学では、今年度から学生の海外の協定大学への留学を積極的に支援することに決めました。そのためには、あるレベル以上の外国語能力が必要です。皆さんも是非挑戦し、世界へ向けてはばたいて欲しいものです。

もう一つお願いがあります。

現在、全人類的課題として地球温暖化の問題があります。人類の化石燃料依存型の経済発展が原因とされていますが、これにより化石燃料そのものの枯渇、温暖化に伴う、気象変動による水や食料の不足など、人類が持続的に生存できるかどうか大きな課題となっています。国連に設置された「環境と開発に関する世界委員会」が1987年に出した報告書の中で、「将来世代のニーズを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たす開発」という「持続可能な開発 Sustainability development」の概念を提唱しました。本学では、2005年に、「持続可能な開発」国際戦略本部を設置し、Sustainabilityに関して、海外の大学等との教育研究のネットワーク形成、人材育成を通じた国際協力、国際シンポジウムの開催等を実施し、低炭素社会に向けた努力を積極的に行っています。2008年には「サステイナビリティ学教育研究センター」を開設し、持続可能な開発に向けての分野横断的な教育プログラムの開発と大学院共通講義を実施し

ています。また、皆さんが入学後、最初の学びであります全学教育の科目の中にも数多くの環境や Sustainability に関連する科目があります。さらに、本学には、研究林6ヶ所、臨海・臨湖実験所等6ヶ所、牧場等のほか、水産科学研究院が2隻の船を有していて、フィールド環境科学の研究体制も全国一整っていますし、フィールド体験型の科目もあります。大学としても積極的に人類の持続可能な開発に寄与しているところでもあります。しかし、この人類共通の課題を解決するためには、皆さん方一人一人の努力、企業や大学といった組織体としての努力と国や自治体の政策にそった活動が一体となって、初めて可能になります。さらには世界の国々が協力してこそ解決が可能となります。皆さんは、その大きな課題の解決に向けて一生かけて努力して下さい。大学も全力を挙げて低炭素社会の実現に向けて持続的に努力します。

本日、入学した皆さんは、最初に述べましたように、大学入学後にいろいろやりたいことがあると思います。私が皆さんにお願いしたことその他に、他の学部の学生や、先輩・後輩との交流を深めることもできる課外活動も、学生にとっては非常に重要です。皆さん自身がやりたいこと、学生としてやらねばならないことは数多くあります。これは、皆さん自身が時間をいかにうまく配分するかにかかっています。充実した学生生活を送れることを願っています。

本学は、創立以来、大学あげて人材の育成に取り組んでまいりましたし、有為な人材を社会に送り出してまいりました。皆さんが充実した学生生活を送れるよう、教育研究環境の整備、学生支援活動のさらなる充実、加えて大学キャンパスの環境整備に向けて力を入れていく所存であります。

この伝統ある北海道大学に入学された皆さんが、4年後あるいは6年後に卒業される時、多くのかげがえのない友人に恵まれ、社会で必要とされる幅広い教養と専門的知識と加えて豊かな発想力を持って、未来に挑戦し、活躍されることを祈念申し上げて、入学式の告示を結びます。

平成21年度北海道大学の予算

平成21年度収入・支出予算書

【総表】

(単位：千円)

収 入				支 出			
事 項	前 年 度 予 算 額	21 年 度 予 算 額	増△減額	事 項	前 年 度 予 算 額	21 年 度 予 算 額	増△減額
〔一般会計〕	47,833,927	47,304,567	△ 529,360	〔一般会計〕	47,833,927	47,304,567	△ 529,360
運営費交付金収入	36,960,214	36,333,950	△ 626,264	人件費	29,580,184	29,440,084	△ 140,100
学生納付金	10,297,475	10,366,323	68,848	基盤配分経費	8,187,851	8,147,900	△ 39,951
学校財産処分収入	60,000	0	△ 60,000	特別教育研究経費	777,850	1,707,909	930,059
雑収入	516,238	604,294	88,056	特殊要因経費	5,372,757	3,874,519	△ 1,498,238
				退職手当	4,211,362	3,356,994	△ 854,368
				建物新営に伴う設備費	230,871	110,406	△ 120,465
				移転費	440,623	247,316	△ 193,307
				PF1事業維持管理経費等	155,986	159,224	3,238
				政策課題対応経費	326,725	0	△ 326,725
				土地建物借料等	7,190	579	△ 6,611
				特定経費	3,192,030	3,166,877	△ 25,153
				電子計算機借料	1,436,283	1,435,369	△ 914
				電子ジャーナル経費	572,842	551,358	△ 21,484
				CALLシステム経費	66,622	66,716	94
				全学経費	596,512	596,848	336
				収入見合経費等	519,771	516,586	△ 3,185
				重点配分経費	523,255	528,077	4,822
				損害賠償金		239,201	239,201
				調整費	200,000	200,000	0
〔病院会計〕	25,353,602	24,602,319	△ 751,283	〔病院会計〕	25,353,602	24,602,319	△ 751,283
運営費交付金収入	4,054,755	2,961,489	△ 1,093,266	人件費	8,853,784	8,780,300	△ 73,484
附属病院収入	21,273,127	21,616,053	342,926	基盤配分経費	125,950	125,303	△ 647
雑収入	25,720	24,777	△ 943	特別教育研究経費	415,263	703,362	288,099
				特殊要因経費	181,984	0	△ 181,984
				病院診療経費	11,675,645	11,670,452	△ 5,193
				債務償還経費	4,100,976	3,322,902	△ 778,074
〔外部資金会計〕	19,756,854	20,390,937	634,083	〔外部資金会計〕	19,756,854	20,390,937	634,083
施設費補助金等収入	1,376,832	952,938	△ 423,894	施設整備費	1,376,832	952,938	△ 423,894
保育園運営費補助金等収入	93,903	103,987	10,084	保育園運営費補助金等事業費	93,903	103,987	10,084
寄附金収入	3,117,328	2,571,414	△ 545,914	直接事業費	16,085,318	16,542,938	457,620
受託研究収入	5,600,543	6,442,365	841,822	寄附金事業費	3,039,589	2,508,594	△ 530,995
共同研究収入	1,001,559	920,788	△ 80,771	受託研究費	5,043,917	5,502,085	458,168
受託事業収入	106,437	258,359	151,922	共同研究費	915,509	850,538	△ 64,971
大学改革補助金等収入	954,699	2,114,761	1,160,062	受託事業費	97,549	248,603	151,054
文部科学省科学研究費補助金	6,398,243	6,437,148	38,905	大学改革補助金等事業費	754,929	1,697,337	942,408
21世紀C O E	320,210	0	△ 320,210	文部科学省科学研究費補助金	5,252,093	5,235,798	△ 16,295
厚生労働省科学研究費補助金	455,786	377,561	△ 78,225	21世紀C O E	291,100	0	△ 291,100
その他助成金等	331,314	211,616	△ 119,698	厚生労働省科学研究費補助金	413,748	323,911	△ 89,837
				その他助成金等	276,884	176,072	△ 100,812
				間接経費	2,200,801	2,791,074	590,273
				重点配分経費	1,179,751	1,459,884	280,133
				部局配分経費	1,021,050	1,331,190	310,140
合 計	92,944,383	92,297,823	△ 646,560	合 計	92,944,383	92,297,823	△ 646,560

〔その他繰越金等：平成19年度末〕

目的積立金	6,424,794千円
施設整備費補助金	4,464,727千円
運営費交付金債務	1,818,443千円
寄附金債務	6,080,125千円
承継剰余金	133,067千円
計	18,921,156千円

(財務部主計課)

「トポロジー理工学教育研究センター」を設置

4月1日に学内共同教育研究施設としてトポロジー理工学教育研究センターが設置されました。

本学では、平成16年度に採択された21世紀COEプログラム「トポロジー理工学の創成」において、数学、物理学、経済学、生命科学、工学をトポロジーという共通の概念を通じて議論し合える場を提供し、異分野交流の中核を担ってきました。

そこで本センターでは、当該COEにおいて構築された国際的ネットワークや異分野交流を通じて醸成された知的資源を継承・発展させることにより、トポロジー理工学の基礎から応用

までの分野横断的研究を行うとともに、当該研究の成果の国内外への発信、国内外の研究拠点との連携強化の促進および人材の育成を行うことで、自然科学の発展および工学的応用に資することを目的としています。

さらに「トポロジー理工学」の国際研究拠点として、国際会議の開催や国内外における共同研究を推進するほか、若手研究者の育成を図り、「トポロジー理工学」に関する教育プログラムの開発・運営も予定しています。

(トポロジー理工学教育研究センター)

「施設保全センター」を開設

施設部施設保全課では、4月1日付で「施設保全センター」を開設し、このほど看板上掲式を挙行了しました。

これまで学内施設の不具合による緊急対応や小規模修繕業務は、一般事務職員等が本来業務に加えて行ってきたが、迅速に対応できる体制となっていない状況にありました。

同センターは、札幌キャンパス内の施設（病院を除く）の小規模修繕や緊急時対応に加え、計画的に施設の点検業務等を実施し、施設の維持管理水準の向上と専門技術者の配置による業務の効率化と迅速化を図ることを目的として旧電話交換室に開設されたもので、より効率的な施設の維持管理や経費節減の効果が期待されています。

上掲式ではセンターの技術要員や施設部関係者ら多くの職員が見守る中、佐伯総長、嶋貫理事・事務局長により総長直筆の看板が上掲さ

れ、「施設保全センター」の門出を祝しました。



看板を上掲する佐伯総長（中央左）、嶋貫事務局長（中央右）、増川施設部長（中央右から2人目）ほか施設保全センター関係者（平成21年3月30日撮影）

(施設部施設保全課)

本学永年勤続者表彰に144氏

平成21年3月31日をもって定年、または15年以上在職し退職された方々に対する本学永年勤続者表彰式が、3月31日(火)学術交流会館小講堂で行われました。

表彰式は各部局長等列席のもとに行われ、永年勤務し退職された方々144氏の代表 大学院先端生命科学研究院 教授 矢澤道生氏に、総長から表彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われました。

次いで総長から、被表彰者の方々の北海道大学に対する永年にわたる精励と努力に対し、深い敬意と感謝の意が表せられました。

引き続き、同会館第1会議室において祝賀会が催され、被表彰者と総長はじめ関係部局長等が、思い出話に和やかなひとときを過ごしまし

た。

なお、このたび表彰を受けられた方々は、別表のとおりです。



総長からの表彰状授与

北海道大学永年勤続者表彰(退職時) 被表彰者(敬称略)

所 属	氏 名	所 属	氏 名
総 務 部	山 崎 信 二	大学院教育学研究院	須 田 勝 彦
企 画 部	南 俊 夫	〃	片 山 順 一
〃	菊 池 俊 治	教 育 学 事 務 部	武 田 孝 一
〃	前 田 輝 夫	大学院法学研究科	大 塚 龍 児
財 務 部	小 森 元 章	大学院経済学研究科	大 内 田 和 男
〃	富 桎 剛	〃	嶺 野 幸 子
学 務 部	市 山 準 一	大 学 院 理 学 研 究 院	笠 原 稔
〃	今 野 孝 明	〃	熊 谷 健 一
〃	藤 田 君 男	〃	藤 野 清 志
〃	和 田 一 男	〃	井 上 昭 彦
〃	西 田 政 利	〃	嘉 屋 俊 二
学 術 国 際 部	本 吉 博	〃	高 波 鐵 夫
〃	岸 田 勝 己	〃	前 川 徳 光
施 設 部	田 畑 清 敏	理学・生命科学事務部	橋 詰 伸 一
〃	立 川 清 修	〃	鈴 木 貞 範
〃	谷 口 修 郎	大 学 院 医 学 研 究 科	岩 崎 喜 信
附 属 図 書 館	五十嵐 哲 郎	〃	田 川 義 繼
〃	菅 原 英 一	医 学 系 事 務 部	下 山 廣 志
〃	久 保 勇 一	〃	江 坂 眞 一
〃	木 浪 昇 夫	〃	三 浦 基 郎
〃	小 峯 邦 夫	北 海 道 大 学 病 院	姫 野 宏 子
〃	村 上 豊 昇	〃	山 本 悠 子
大 学 院 文 学 研 究 科	南 部 昇	〃	菊 本 東 陽

全学ニュース

所 属	氏 名	所 属	氏 名
北海道大学病院	岡田 千子	大学院農学研究院	浦山 勝
〃	宮川 純子	〃	笠井 登
〃	船木 典子	農学事務部	徳田 成昭
〃	小西 真由美	〃	荒川 嗣雄
〃	田中 京子	〃	宮本 女恵子
〃	熊谷 雪江	〃	村上 和子
〃	桑原 潤子	大学院獣医学研究科	太田 利男
〃	濱田 礼子	獣医学研究科・獣医学部	関口 公男
〃	菅原 公恵子	〃	伊藤 貢美
〃	高橋 厚博	大学院水産科学研究院	高橋 豊一
〃	千松 政廣	〃	仲谷 汀
〃	川田 健一	水産学部	三浦 芳樹
〃	武富 信夫	函館キャンパス事務部	鈴家 勝己
〃	長町 吉雄	〃	江森 若悦
〃	柴田 吉明	大学院メディア・コミュニケーション研究院	大平 具彦
〃	三好 晴子	〃	小早川 護也
〃	堀川 雅之	〃	吉田 徹敏
〃	稲田 みち子	メディア・観光学事務部	吉埦 内博
〃	沖本 尋一	大学院情報科学研究科	大佐 義治
〃	遠藤 昌弘	〃	石藤 善久
〃	池田 正生	大学院先端生命科学研究院	加茂 直樹
〃	繪内 正道	〃	小池 達郎
〃	鍵和田 忠男	〃	矢澤 典昭
〃	工藤 一彦	大学院保健科学研究院	南川 節子
〃	山下 幹一	〃	森田 珠美
〃	大笹 悦章	大学院公共政策学連携研究部	濱々 木隆
〃	柏谷 幹男	低温科学研究所	佐川 信敬
〃	黒田 和重	〃	河村 俊博
〃	水野 忠彦	電子科学研究所	福士 城真
〃	寺町 和宏	〃	栗本 洋志
〃	北市 雅敏	遺伝子病制御研究所	小野江 和則
〃	中村 友子	アイソトープ総合センター	関野 興一
〃	野崎 豊士	北方生物圏フィールド科学センター	野田 真幸
工学研究科・情報科学研究科・工学部	小宮 修孝	〃	伊藤 幸邦
〃	宮本 忠良	〃	老井 義彦
〃	板垣 邦男	〃	井上 志津雄
〃	佐藤 俊一	〃	木村 幸夫
〃	長浦 政真	〃	原田 幸夫
〃	三内 真一	〃	若澤 悟
〃	早川 唯雄	〃	奥山村 潔
〃	大友 伸一	〃	野村 進
大学院農学研究院	島崎 敬一	〃	原田 幸男
〃	出村 克彦	〃	春名 寛久
〃	服部 昭仁	〃	水野 秀三
〃	伊藤 浩之	観光学高等研究センター	石森 三

(総務部職員課)

名誉教授に35氏

本学名誉教授称号授与規程に基づき、3月18日（水）開催の教育研究評議会において、次の35氏に対し名誉教授の称号を授与することが決定されました。

本年4月から新たに名誉教授となられる方々には、決定通知が送付されました。

なお、称号授与式は、6月2日（火）を予定しております。

北海道大学名誉教授

南 部 昇	(前大学院文学研究科教授)	熊 谷 健 一	(前大学院理学研究院教授)
大 塚 龍 児	(前大学院法学研究科教授)	藤 野 清 志	(前大学院理学研究院教授)
古 矢 旬	(前大学院法学研究科教授)	笠 原 稔	(前大学院理学研究院教授)
奥 田 安 弘	(前大学院法学研究科教授)	服 部 昭 仁	(前大学院農学研究院教授)
内 田 和 男	(前大学院経済学研究科教授)	島 崎 敬 一	(前大学院農学研究院教授)
岩 崎 喜 信	(前大学院医学研究科教授)	出 村 克 彦	(前大学院農学研究院教授)
山 下 幹 雄	(前大学院工学研究科教授)	小 池 達 郎	(前大学院先端生命科学研究院教授)
池 川 昌 弘	(前大学院工学研究科教授)	矢 澤 道 生	(前大学院先端生命科学研究院教授)
鍵和田 忠 男	(前大学院工学研究科教授)	加 茂 直 樹	(前大学院先端生命科学研究院教授)
工 藤 一 彦	(前大学院工学研究科教授)	須 田 勝 彦	(前大学院教育学研究院教授)
上 田 正 生	(前大学院工学研究科教授)	吉 田 徹 也	(前大学院メディア・コミュニケーション研究院教授)
繪 内 正 道	(前大学院工学研究科教授)	小早川 護	(前大学院メディア・コミュニケーション研究院教授)
佐 藤 義 治	(前大学院情報科学研究科教授)	大 平 具 彦	(前大学院メディア・コミュニケーション研究院教授)
大 内 東	(前大学院情報科学研究科教授)	森 下 節 子	(前大学院保健科学研究院教授)
仲 谷 一 宏	(前大学院水産科学研究院教授)	佐々木 隆 生	(前大学院公共政策学連携研究部教授)
高 橋 豊 美	(前大学院水産科学研究院教授)	栗 城 眞 也	(前電子科学研究所教授)
三 浦 汀 介	(前大学院水産科学研究院教授)	小野江 和 則	(前遺伝子病制御研究所教授)
岩 熊 敏 夫	(前大学院地球環境科学研究院教授)		

(総務部人事課)

平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰に 3 氏 —科学技術賞（研究部門）：理学研究院中村 玄教授， 若手科学者賞：獣医学研究科 石塚真由美准教授， 農学研究院 高野順平助教

理学研究院 中村玄教授が「漸近解析による散乱の逆問題の数学的研究」により、平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を、獣医学研究科 石塚真由美准教授が「野生動物のシトクロム P450と汚染環境適応能力解明の研究」により、農学研究院 高野順平助教が「ホウ素輸送の分子機構の解明と応用研究」により、それぞれ、平成21年度文

部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞され、4月14日（火）虎ノ門パストラルにおいて表彰式が挙行されました。

本賞は、日本の研究者にとって極めて名誉あるものです。3氏の功績と略歴を紹介します。

（総務部広報課）

理学研究院 なかむら 中村 げん 玄 教授



均質な既知媒質内の未知の亀裂，空洞，介在物等（以下媒質の未知不連続性とよぶ）による波の散乱の逆問題は，音波を用いた海洋音響，地震波や超音波を用いた地質調査や非破壊検査・医療診断，電磁波を用いたレーダーやリモートセンシングに不可欠です。これは固定周波数を持った平面波をある方向から入射させたとき，これが媒質の未知不連続性により散乱されて出来る散乱波の遠方における球面波の振幅を計測して，媒質の未知不連続性を同定（決定と同義語）する問題であり，古くから海洋音響，地球物理学や医療工学，電波工学のそれぞれの分野で研究されてきました。しかし，それらはボルン近似などの近似理論や非線形最適化法に基づくものであり，その適用範囲は近似が有効な範囲に限られたり，非線形最適化を行うための初期予想に大きく依存するものでした。その一方で計測データを豊富にした場合，即ち入射方向と散乱波の観測方向を十分多く取れる場合は，媒質の未知不連続性を同定する数学的に厳密な様々な解法が，この10年余りの間に急速に進展しました。

受賞対象になった研究では，この10年余りの間に提案された代表的な解法を統一的に扱う枠組みを与え，その枠組みの中でこれらの方法を位置づけるとともにこれらの解法の相互関係を明らかにしました。その結果，これまで別々の解法と思われていたものが，相互に関連していることが明確になり，それぞれの解法が持つ利点を共有出来るようになりました。また，未知不連続性が完全な空洞ではなく，その境界の一部分が例えば音響的に硬いが，他の部分では完全には硬くなく，音響インピーダンスを持つような場合にも，その未知形状と音響インピーダンスを同定する解法を与えました。しかもこれらの未知不連続性の同定解法の有効性を，数値実験により実証しました。

代表的な解法の一つである linear sampling 法は，既に工学分野および関連分野に大きな影響を与えており，受賞対象になった研究で示した枠組はその解法を包摂したより多様で利便性に富む包括的な解法を与えるもので，その影響力は多大です。

（略歴）

昭和46年 7 月 国際基督教大学教養学部理学科卒業
昭和49年 3 月 東京都立大学大学院理学研究科修士課程修了

昭和52年 3 月 東京都立大学大学院理学研究科
博士課程単位修得退学
昭和52年 4 月 城西大学理学部助手
昭和52年11月 理学博士(東京都立大学)
昭和53年 4 月 城西大学理学部講師
昭和55年 4 月 城西大学理学部助教授
昭和56年 9 月 米国 Massachusetts Institute of
昭和57年 8 月 Technology (MIT) 講師

平成 3 年 4 月 城西大学理学部教授
平成 6 年 4 月 東京理科大学理学部第二部教授
平成 9 年 4 月 群馬大学工学部教授
平成13年 4 月 北海道大学大学院理学研究科教
授
平成13年12月 中国東南大学客員教授
平成18年 4 月 北海道大学大学院理学研究院教
授

獣医学研究科 いしづか まゆみ 石塚 真由美 准教授



通常、脂溶性の高い化学物質は、環境から消えた後も、世代を経て生態系で保存されています。同氏は、環境汚染物質を代謝するシトクロム P450 をバイオマーカーとして、環境汚染の簡便なスクリーニングが可能であることを報告してきました。また、同氏は、野生ドブネズミをモデルにして蓄積する環境汚染物質の分析を行い、焼却施設近郊だけではなく、都市部などに棲息している個体でも、ダイオキシン類やジフェニルエーテルなど、新興の化学物質を高濃度に蓄積していることを報告しました。この研究の過程では、棲息環境の汚染状況が野生動物の生体にどのような影響を引き起こすのか、環境毒性学をゲノミックスの視点から解析し、新規マーカーの検索に取り組んでいます。

野生動物における個体間の P450 の発現レベルの違いは、汚染物質への曝露による一過性な酵素変動だけではなく、P450 の「多型」が野生動物にも存在することも明らかにしました。最近では、野生のクマネズミにおいて、殺鼠剤の代謝に高活性の P450 代謝酵素系をもつクマ

ネズミが出現し、殺鼠剤の抵抗性の獲得の一因となることを報告しました。これは高い毒性を持つ環境化学物質に曝露された野生クマネズミの生存のための環境適応と考えられます。

このように、同氏は、実際にフィールドにおいて幅広い生物層の野生動物を捕獲し、棲息環境の汚染状況や野生動物に蓄積する環境汚染物質の分析と共に、野生動物に現れる生体影響とそのリスクについて解析を行ってきました。野生動物を用いた同氏の研究成果は、野生動物の P450 の基礎を築く先駆的な研究であり、環境毒性学分野において一つのブレイクスルーになることが期待されています。

(略歴)

平成 6 年 3 月 北海道大学獣医学部獣医学科卒業
平成10年 3 月 北海道大学大学院獣医学研究科
博士課程修了
獣医学博士(北海道大学)
平成12年10月 北海道大学大学院獣医学研究科
助手
平成16年 4 月 北海道大学大学院獣医学研究科
助教授(平成19年 4 月同准教授)

(獣医学研究科・獣医学部)

農学研究院 ^{たかの}高野 ^{じゅんぺい}順平 助教

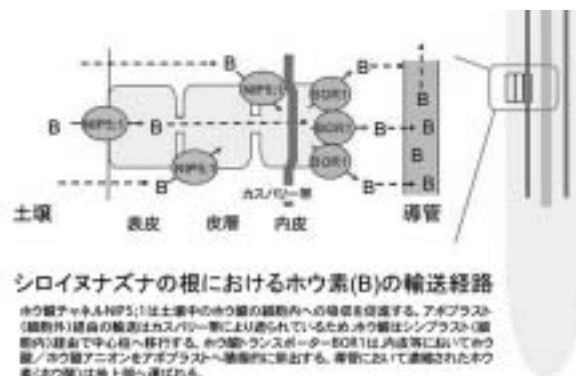


ホウ素は植物の生育に必要な必須栄養元素の一つで、ホウ素欠乏は作物生産を抑制する農業上の重大な問題点となっています。これまでにホウ素は植物において細胞壁の構造維持に寄与することが

明らかにされていましたが、植物がどのようにホウ素を吸収し、その体内で移行させているかについては分子レベルではほとんどわかっていませんでした。

同氏と東京大学藤原徹准教授らは、モデル植物であるシロイヌナズナを用いて、生物界で初めてホウ素輸送体を同定しました。また複数のホウ素輸送体が植物のホウ素欠乏環境への適応に重要であることを明らかにしました。同氏らはさらに、ホウ素輸送体の過剰発現によりホウ素欠乏耐性シロイヌナズナの作出に成功しました。本研究成果は、世界中に分布するホウ素欠乏土壌での作物収量増加につながるものと期待されます。

同氏は平成20年11月に北海道大学大学院農学研究院に着任し、植物細胞がホウ素濃度を感知し、ホウ素輸送体を細胞内の適切な膜領域に配置させるしくみについて精力的に研究されています (<http://arabi4.agr.hokudai.ac.jp/Arabi.html>)。今後も植物栄養学、植物細胞生物学の分野で先駆的な研究成果を挙げられることが期待されます。



(略歴)

- 平成11年 3月 東京大学農学部応用生命科学課程 応用生物化学専修卒業
- 平成13年 3月 東京大学農学生命科学研究科応用生命化学専攻修士課程修了
- 平成14年 4月 } ドイツ University of Hohenheim, Institute of Plant Nutrition, Guest Student
- 平成15年 9月 }
- 平成16年 3月 東京大学農学生命科学研究科応用生命化学専攻博士課程修了 博士（農学）
- 平成16年 4月 東京大学生物生産工学研究センター 日本学術振興会特別研究員(PD)
- 平成19年 8月 米国 University of Wisconsin-Madison, Fellow of Human Frontier Science Program.
- 平成20年11月 北海道大学大学院農学研究院助教

(農学院・農学研究院・農学部)

筑波大学と教育改善に関する協定を締結

去る3月30日(月)、本学と筑波大学は、教育活動を活発にし、教育の質を更に高めるために、

- ①カリキュラム改善、授業方法の向上、単位の実質化と成績評価の厳格化等に関するFD(Faculty Development)活動
- ②教育改善に関するシンポジウム等の実施
- ③人材育成プログラム(教育プロジェクト)等の企画・立案

などを目的とした教育改善に関する協定を、本学脇田教育担当副学長と筑波大学工藤教育担当副学長の間で筑波大学秋葉原キャンパスにおいて締結しました。

この協定締結により、本学はこれまでのFD活動の実績・成果を、筑波大学では現在進行中の教育GPの成果をそれぞれの大学において活用することで、両大学の教育改善の推進に資することとなり、もって、教育の質の向上が期待

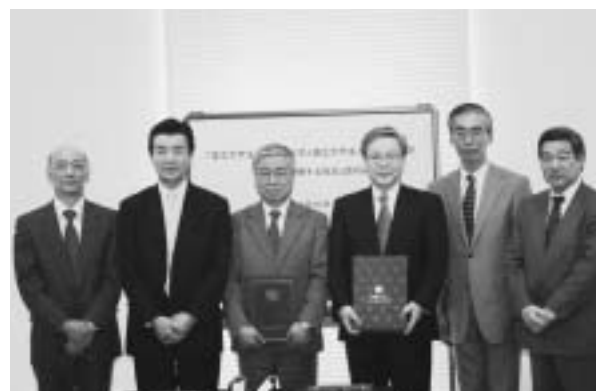
されます。

また、今後の具体的な取り組みとしては、今年7月下旬に両大学の共催により国際ワークショップ及び国際シンポジウムの開催を予定しており、この中で本学はTA研修を含む次世代型のFDを担当し、筑波大学は教養教育とTA研修に力点を置いた教育改革を担当することとし、全体として大学教育改革の現状とそのための研修の在り方を明らかにする予定です。この国際ワークショップ及び国際シンポジウムには、国内外から数名の有識者を招く予定としており、今後の我が国における教育改革の先導的役割となりうるものと期待されます。

なお、今回の調印式には本学から、責任部局である高等教育機能開発総合センターの安藤高等教育研究部長、学生支援課藤田課長補佐が陪席をしました。



握手を交わす脇田副学長と工藤副学長



筑波大学秋葉原キャンパスでの記念撮影

(学務部学生支援課)

北海道地区国立大学法人の教員の免許状更新講習 における事務の共同実施に関する協定を締結

本学は、北海道教育大学、室蘭工業大学、小樽商科大学、帯広畜産大学及び北見工業大学と、平成21年度から実施される教員免許状更新講習（以下「更新講習」）の事務を共同実施する協定を締結しました。

更新講習は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技能を身に付けることで教員が自信と誇りを持って教壇にたち社会の尊敬と信頼を得ることを目指すもので、現在教員免許を持っている現職教員等を対象に、10年毎に設定される修了確認期限前（平成21年4月1日以降の免許状取得者については有効期限前）の2年間に、大学などが開設する30時間の更新講習の受講及び修了が必要となり毎年実施されるものです。

本協定を締結した道内6国立大学法人では、更新講習を実施するにあたっての事務一元化について、情報交換を重ね、文部科学省等からの説明や各大学で実施された予備講習の実績を報告する中で、受講者の利便性の向上及び事務の効率化を図ること目的とし平成21年度は道内6国立大学法人が更新講習の事務を共同実施することの検討を重ねてきました。

本協定により、更新講習の実施情報が一元化され、受講会場の選定や受講申込手続き及び受講に関する問い合わせ等受講者の利便性の向上が期待されます。また、更新講習の事務が共同で実施され、更新講習を開設するにあたっての必要経費及び人件費等が削減され、事務の効率化が図られることが期待されます。



協定書を前に佐伯総長（左）、
北海道教育大学眞田理事（右）

（学務部教務課）

「北海道大学一名古屋大学合同大学デイズ (南京・北京)」開催

本学は、日本と中国の教育研究分野の連携推進と、グローバルな観点を持ちイノベーション精神に富む優秀な人材育成につなげることを目的として、名古屋大学と共に、3月6日(金)には中国南京市南京大学において南京大学・名古屋大学・北海道大学の合同大学デイズを、8日(日)には北京市清華大学において清華大学・北海道大学・名古屋大学の合同大学デイズを開催しました。

このイベントは、中国の学生たちに日本の大学の最先端の学術研究成果や、二つの大学の歴史と現状を紹介し、日本の教員や学生との直接的なコミュニケーションによって、日中文化の異なった魅力を味わってもらうことを目的としたものです。日本からは、両大学の総長、国際交流担当副学長をはじめ、学部・研究科等から合わせて約70名の教職員・学生が参加しました。現在中国では、北海道を舞台にした映画が人気を博しており、佐伯総長が北海道の雄大な自然や、その中で研究に打ち込める北海道大学の環境を紹介すると、参加者は強い関心を示していました。

南京会場には、南京大学洪銀興校党書記、石井哲也在上海日本国総領事館主席領事、また、北京会場では、陳旭清華大学副学長、道上尚史在中国日本大使館公使、福西浩日本学術振興会北京研究連絡センター所長を来賓に、それぞれ中国・日本の大学関係者、学生などが出席し、両大学の総長や同窓生によるトークセッションや、教員による講演に聞き入っていました。また、同時に行われた留学相談会では、参加したグローバル COE プログラムや研究科等のブースに、入りきれないほどの学生が訪れて、両大学の教職員に熱心に質問をしていました。

清華大学会場では、本学の学生サークル「民研わだち」が民舞を披露し、初めて見る日本の踊りに参加者は興味深く見入っていました。民舞発表後は、民研わだちの学生と中国人学生が、日中の文化や生活について語り合う姿が見られました。

今回のイベントでは、両会場あわせておよそ500名の参加がありました。本学は今後も海外でのPRに力を入れ、優秀な留学生の受入拡大と国際交流の推進に努めます。



挨拶をする佐伯総長



平野名古屋大学総長



南京大学会場の様子



清華大学会場の様子



学生がつめかけた留学相談会場



学生交流の様子

(学術国際部国際企画課)

北海道大学大塚賞授与式を挙 行ー平成20年度博士課程修了者ー

去る3月19日(木)、総長室において、北海道大学大塚賞授与式が行われました。

大塚賞は大学院博士課程を修了し、研究者を目指す優秀な女子学生に授与される顕彰制度です。

今回は平成20年度内の博士課程修了予定者8名及び既修了者2名、計10名が受賞者として選ばれました。

授与式には佐伯総長、脇田副学長、大塚名誉教授、長澤学務部長の出席のもと、総長より賞状が授与され、お祝いの言葉が述べられました。

また、式終了後には、大塚賞受賞者講演会が百年記念会館にて開催されました。大塚名誉教授、有賀女性研究者支援室長から受賞者へ激励のお言葉をいただき、過去の受賞者及び今回の受賞者代表からの講演が行われた後、交流会が行われました。

講演会には、研究者となった先輩や将来研究者を目指す後輩が集い、幅広く内容のある講演会となりました。また、受賞者もお互いの研究を知り、将来の活躍を誓い合う機会となりました。

これからも、女性研究者を目指す多くの女子学生が受賞されることを期待しております。



授与式の様子



記念撮影



お祝いの言葉を述べられる大塚氏

(学務部学生支援課)

受賞者

教育学研究科	澤 木 梨 沙 (当日欠席)
経済学研究科	梁 鵬
理学研究科	田 中 あ や
医学研究科	三 浦 会里子
医学研究科	芳 賀 早 苗
歯学研究科	佐 藤 真 理
工学研究科	猿 渡 亜由未
農 学 院	内 山 貴 子
獣医学研究科	村 上 真津香
情報科学研究科	塩 崎 奈々子

平成20年度クラーク賞の表彰式を挙行

去る3月24日（火）に平成20年度（財）北海道大学クラーク記念財団「クラーク賞」の表彰式がクラーク会館大集会室にて行われました。

クラーク賞は、成績優秀で、かつ、品行方正な学部卒業者に対して、本学の推薦に基づき表彰されるものです。

平成20年度（第8回）は脇田副学長、長澤学務部長、媚山学生支援課長が列席し、40名の受

賞者には中村理事長から賞状と記念品が授与されました。あわせてクラーク博士の精神に触れられ、受賞者に対し、「クラーク博士の想いを胸に抱いて、社会で大いに活躍してください。」と賞賛と激励の言葉が贈られました。

なお、水産学部4名の受賞者については、25日（水）に函館キャンパスにおいて、水産学部長から授与されました。



クラーク賞賞状



表彰式

（学務部学生支援課）

平成20年度知的財産セミナーを開催

平成20年度の知的財産セミナーを、3月2日(月)、本学百年記念会館大会議室にて開催しました。講師は知財・産学連携本部の部長及び知的財産マネージャー等が担当し、約30名の教員・事務担当者の方に知財・産学連携本部の紹介、特許出願の手続き、成果有体物(研究サンプル)の取扱い、企業との連携と研究資金について、それに研究契約の基本的な事項について、4時間にわたり説明を行いました。

知財・産学連携本部では、昨年より弁理士、弁護士等の有資格者を採用して法務関係の強化にあたっていますが、その一環として、今回の知的財産セミナーでは研究契約を題材にした契約の基本事項、注意事項に関する講義を実施し、多くの学内関係者に出席いただきました。コンプライアンス重視の世の中にあって、大学もその例外ではありません。

なお、知財・産学連携本部は平成21年4月1日より産学官連携活動の一層の強化・効率化を図るため「産学連携本部」と名称変更し、大学と産業界を結ぶ連携機能の充実を目指すことと

しております。

については、各種契約等について何かご不明な点がありましたら「産学連携本部」までお気軽にお問い合わせ下さい。

<http://www.mcip.hokudai.ac.jp/>



セミナーの様子

(産学連携本部)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、法人化後の厳しい財政状況の下、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自律性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしています。平成18年から平成23年までの5年間で15億円から25億円の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

【北大フロンティア基金情報】

基金累計額（3月31日現在）

8,024件 1,247,279,939円

教職員の寄附率 21.4% (834件/3,894人)

＜3月のご寄附状況＞

法人等11社、個人552名の方々から57,924,170円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲載、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名

(法人等)

医療法人社団なかむら整形外科クリニック、株式会社MA Tコンサルティング、株式会社神戸製鋼所、JFEホールディングス株式会社、北海道軌道施設工業株式会社、北海道大学連合同窓会

(個人)

四十物治夫、東 剛己、井口 光雄、泉 敏博、稲津 将、井上 朋子、岩館 忠雄、上野 一馬、内田 純一、内海 孝、繪内 正道、海老田憲人、太田 幸雄、大沼 孝二、大野 公裕、大橋 崇史、大畑 昇、奥山 克史、小内 透、加我 順一、角 幸博、加畑 長、川元 功、菊池 俊治、菊森 佳幹、合田 正毅、坂本 啓典、佐々木桂子、清水 忠司、菅原 隆夫、杉浦 秀一、瀬名波栄潤、高井 潔司、高橋 滉、高橋 光彦、瀧川 哲夫、武川利代己、竹田 勝子、武田 健一、田中傳右衛門、田中奈緒美、谷 久子、對馬 伸之、土本 力生、土家 琢磨、土屋 敏彦、寺澤 深雄、寺澤 睦、所 伸一、豊田 威信、中田 邦雄、中野 昭信、成田 正邦、野坂 政司、野末 秀俊、八戸 勇人、服部 昭仁、早坂 孝一、藤田 君男、藤本 康雄、逸見 勝亮、本郷きぬ子、本郷 隆二、前田 英一、松下 啓郎、松田 圭史、三浦 敏明、宮道一千代、森田 明彦、山崎 賢司、山下 政範、吉田 広志

銘板の掲示(20万円以上のご寄附)

(法人等)

医療法人社団なかむら整形外科クリニック, 株式会社神戸製鋼所

(個人)

竹田 勝子, 谷 久子, 服部 昭仁, 森田 明彦, 山下 政範

感謝状の贈呈



数土文夫様(3月25日)

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は, 本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし, ご記入の上基金事務室に提出してください。

北大ホームページ

教職員向け

学内限定情報・システム

北大フロンティア基金のご案内(申込書)

<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/fund.pdf>

② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡しします。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて, 事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は, 本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか, 各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので, ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ ————— 基金事務室(事務局1階・学内電話2012/2017)

(基金事務室)

「平成20年度魅力ある大学教育フォーラム・パネル展 —学びの大地・北海道—」の実施

3月23日(月)本学学術交流会館小講堂・ホールで、文部科学省が実施する教育支援事業に採択された10の教育取組のフォーラム(3取組)とパネル展を実施しました。

このたびのフォーラムとパネル展は、本学の優れた教育取組の活動内容や成果等を、学内や

他大学の教育改善等の取組に役立ててもらうことを目的として実施したものです。

当日のフォーラムには、本学の教職員、学生や他大学教員及び一般市民等、幅広い層から約60名の参加がありました。

プログラムの概要は以下のとおりです。

◎フォーラム 17:00~18:30

○現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)

- ・北海道臨床獣医学先進教育プログラム

—北海道の「人と動物の共存先進地域化」を目指す大学と地域の教育連携—

獣医学研究科 教授 稲 葉 睦

○専門職大学院等教育推進プログラム

- ・法学未修者対応型の教育プログラムの展開

法学研究科 教授 白 取 祐 司

○大学院教育改革支援プログラム

- ・多面的な資質伸長を促す学びの場の創成

情報科学研究科長 小 柴 正 則

(上記3取組は、パネル展も実施)

◎パネル展示 17:00~18:30

○社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム

- ・潜在助産師のための再チャレンジ支援プログラム

保健科学研究院 教授 良 村 貞 子

○大学院教育改革支援プログラム

- ・人文科学における実証的研究者の育成拠点

文学研究科 教授 仲 眞紀子

- ・バックグラウンド多様化を活かす大学院教育

法学研究科 教授 尾 崎 一 郎

- ・融合生命科学プロフェッショナルの育成

理学院 教授 川 端 和 重

○派遣型高度人材育成協同プラン

- ・実システム開発指向高度人材育成プログラム

(連携大学：室蘭工業大学、北見工業大学、筑波大学、奈良先端科学技術大学院大学、公立はこだて未来大学、慶應義塾大学)

情報科学研究科長 小 柴 正 則

○大学病院連携型高度医療人養成推進事業

- ・自立した専門医を育むオール北海道プラス1
- ー4大学連携および教育病院共有化による地域大学循環型専門研修プログラムー
(連携大学：旭川医科大学，札幌医科大学，東京慈恵会医科大学，弘前大学)

大学病院 教授 近 藤 哲

○質の高い大学教育推進プログラム

- ・博物館を舞台とした体験型全人教育の推進

総合博物館 教授 高 橋 英 樹



玄関ホールでのパネル展示



北海道臨床獣医学先進教育プログラムについて
説明する稲葉教授と学生

(学務部教務課)

「北海道大学卒業パーティ2009」開催

3月22日(日)、札幌グランドホテルにて「北海道大学卒業パーティ2009」が約250名の参加を得て開催されました。

北海道大学卒業パーティは、「卒業を大いに皆で祝いあい、結束を深めよう」というコンセプトを基に、平成18年度から始まった学生有志による企画です。

当日は、卒業パーティ実行委員長である谷口良太さん(工学研究科)の開会の挨拶に続き、佐伯浩総長のご挨拶、北海道大学東京同窓会の石山喬副理事長並びに関西同窓会を代表して五十川未央さん(平成19年度文学部卒業)の両先輩から、後輩に対して卒業を祝してのメッセージが送られました。

その後、東京同窓会の斎藤紀美子氏の乾杯のご発声を機に、立食形式の歓談へと進行しまし

た。歓談の最中には、混声合唱団、YOSAKOIソーランサークル“縁”、映画館プロジェクト実行委員会の発表が披露されました。

また、エンディングでは株式会社文藝春秋代表取締役社長の上野徹氏、宇宙飛行士の毛利衛氏からのビデオレターが流され、続く応援団の演舞の後、参加者全員で肩を組み「都ぞ弥生」を熱唱し、和やかな雰囲気の中、パーティが終了しました。

キャリアセンターでは、OB・OGとして卒業後も後輩の就職支援の協力をお願いするため、「就職サポーター」登録の案内を行いました。

卒業パーティでは、卒業生同士が親睦を深め、学部を超えた繋がり「北大ネットワーク」を築いている様子が印象的でした。



挨拶する佐伯総長



卒業パーティー実行委員長 谷口さん
による開会の挨拶

(キャリアセンター)

部局ニュース

低温科学研究所がドイツ・ブレーメン州の 3 教育研究機関と部局間交流協定を締結

低温科学研究所は、3月3日(火)から5日(木)、次の3教育研究機関と部局間交流協定

を締結しました。

- ・ アルフレッドウェゲナー極地海洋研究所-AWI- (ドイツ・ブレーマーハーフェン)
- ・ マックスプランク海洋微生物学研究所-MPI- (ドイツ・ブレーメン)
- ・ ブレーメン大学生物学・化学科 (ドイツ・ブレーメン)

ドイツ・ブレーメン州の教育研究機関(ブレーメン大学、アルフレッドウェゲナー極地海洋研究所及びマックスプランク海洋微生物学研究所)は、相互に連携しながら海洋学、寒冷圏科学及び極域科学に重点を置いた教育・研究を行っており、ドイツ・ブレーメン州で行われた締結式において、香内晃低温科学研究所長から「相互の研究開発能力及び人材を活かして総合力を発揮し、国際的に連携することにより、寒冷圏科学及び極域科学の研究と教育の発展に新たな重要な役割を果たしたい」と抱負を述べました。

また、AWIのLochte所長から「締結により、

両研究所がより一層協力し合い、極域科学の発展に寄与したい」、MPIのAmann所長から「締結により、寒冷圏科学、特に海洋微生物学の研究・教育に関して緊密な連携をはかりながら、その発展に寄与したい」、そしてブレーメン大学のKelm学科長から「締結により、AWIやMPIと連携しながら、両大学の研究者や大学院生の交流を積極的に行い、国際南極大学カリキュラムの共同実施、さらに、海洋学、寒冷圏科学および極域科学分野において研究の発展を期待する」と発言がありました。今後、3機関の長を低温科学研究所に招聘し、連携協力事業の具体的案件の検討を進めることとしています。



協定書を取り交わす AWI 所長(Prof. Karin Lochte)
(左)と北大低温研所長(香内 晃)(右)



協定書を取り交わす北大低温研所長(香内 晃)
(左)と MPI 所長(Prof. Rudolf Amann)(右)



協定書を取り交わす北大低温研所長(香内 晃)(左)と
ブレーメン大学生物学・化学科長(Prof. Sørge Kelm)(右)

(低温科学研究所)

農学研究院が旭川市との連携協定を締結

農学研究院（農学院・農学部）と旭川市は、農学関連技術の発展、農村資源の活用、地域の持続的発展、科学技術・文化の振興、人的交流・人材育成などに協力して取り組むため、3月16日（月）に旭川市役所において連携協定を締結しました。

旭川市と本研究院との交流は、旭川農業振興発展方策（昭和63年）や旭川市地域農業ビジョン（平成7年）など地域農業の指針づくり、東旭川農協における数次にわたる農業振興計画作成にわたっており、天間征名誉教授、太田原高昭名誉教授、坂下明彦教授などが関わってきました。

また、農業者が主体となった担い手の育成、農村女性の社会参加、都市と農村の交流を促進

するための取組みに対しても、太田原名誉教授が深く関わり、活動組織の立ち上げから運営にいたるまで、専門的視点から助言や指導を行ってきました。

このほか、市内養鶏業者による畜肉の高度加工などの民間レベルでの連携も進められています。

協定締結後は、個人レベルの協力から組織としての対応となり、地域営農体制の確立、都市近郊型農業等をフィールドとした研究の実施と地元への還元等といった面での相互協力が行われる予定です。

なお、同市と当研究院との連携協定は、富良野市、栗山町、標津町に続き4市町目となりました。



協定書調印後、握手する西川将人旭川市長（左）と
服部昭仁農学研究院長

（農学院・農学研究院・農学部）

水産学部練習船おしよろ丸に対し内閣府から感謝状

昨年8月20日(水)から24日(日)にかけて行われた北海道の事業「北方領土参観航海」に水産学部附属練習船「おしよろ丸」が協力要請を受けたことに対する感謝状贈呈式が3月26日(木)、水産学部長室で行われました。

航海では、元島民や本学の職員ら45人が同練習船に乗船し、水晶・秋勇留・勇留の歯舞諸島を訪ねました。

同練習船はこれまでも内閣府の協力要請を受けて航海に数多く協力し、今年は8月16日(日)からの12日間、同練習船が歯舞諸島へ向けて出航することが決定しました。

贈呈式には佐伯総長と同練習船の船長を務めた目黒教授へ内閣府北方対策本部の藤本審議官が佐伯総長、目黒船長にそれぞれ感謝状を手渡しました。



感謝状を読み上げる藤本審議官(右)、佐伯総長(中央)、目黒教授(左)



本学感謝状(上)、船員感謝状(下)

(水産科学院・水産科学研究所・水産学部)

水産学部附属練習船「おしよろ丸」就航100周年 記念事業始まる

水産学部は今年、附属練習船「おしよろ丸」の就航100周年を記念する各種事業を展開します。8月の記念式典をメイン行事とし、船の一般公開や記念グッズの製作も検討しています。

また、キックオフ・イベントとして、「おしよろ丸」の初代から現在までを振り返る写真展を開催しました。

写真展は「水産学部附属練習船100年の歩み」

と題し、水産学部創基100周年記念展示室で4月10日（金）まで実施し、歴代練習船や研究用潜艇など15枚のパネルで紹介しました。

また、おしよろ丸を題材とした写真コンテストの作品を募集し、過去の歴代船や現役船を撮影したものを1人3点まで募集することと、締め切りは5月15日（金）までとし、表彰作品を6月に展示する予定です。



写真展

北海道大学 水産学部 附属練習船 おしよろ丸 写真 コンテスト 就航100周年記念事業		
応募受付期間 2009.3.30~5.15		賞 学部長賞 1名 記念品 船長賞 1名 記念品 佳作 5名 記念品 参加賞あり
テーマ おしよろ丸を題材としたもの 応募方法 郵送のほか持参でも受け付けます お一人様最大3枚まで応募可能です 展示場所 水産学部創基100周年記念展示室 (山崎ギャラリー) 展示期間 2009.6.1~6.30		
お問い合わせ先 北海道大学 大学院水産科学研究院・水産学部 (函館キャンパス事務局 庶務担当) Tel 0138-40-5505 / Fax 0138-43-5015 入賞作品の著作権について 入賞作品の著作権は主催者に帰属します。 入賞作品については、記念事業にて使用させていただきます。 免状という船名は後援者三井物産の寄贈で、元船主である船主の船名「おしよろ丸」を継いでいます。		

写真コンテスト要項

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

函館キャンパスで各賞の授与式を挙行

3月25日(水)学部長室において、函館市長賞、日本航海学会奨学褒賞及びクラーク賞の授賞式を行いました。

函館市長賞は、函館市内の学校(高校、高専、短大、大学)を優秀な成績で卒業する者に対して、日本航海学会奨学褒賞は航海に関する教育機関に在籍する優秀な者に対して、クラーク賞は学部4年間学業成績優秀でかつ品行方正な学

生に対して授与されるものです。

平成20年度は、函館市長賞には藤吉 麗さん(水産海洋科学科4年)をはじめ4名が、日本航海学会奨学褒賞には、松川 栄輔さん(海洋生産システム学科4年)が、クラーク賞には山東 龍さん(水産海洋科学科4年)をはじめ4名が、原 彰彦学部長から賞状と記念品を授与されました。

函館市長賞受賞者

氏 名	所属学科・学年
藤吉 麗	水産海洋学科4年
佐々木智規	海洋生産システム学科4年
桑野 真也	海洋生物生産科学科4年
中村 有香	海洋生物資源化学科4年

日本航海学会奨学褒賞受賞者

氏 名	所属学科・学年
松川 栄輔	海洋生産システム学科4年

クラーク賞

氏 名	所属学科・学年
山東 龍	水産海洋学科4年
佐々木智規	海洋生産システム学科4年
金子 真弓	海洋生物生産科学科4年
藤田 真吾	海洋生物資源化学科4年

(学年は受賞当時)



各受賞者



クラーク賞の授与

(水産科学院・水産科学研究院・水産学部)

触媒化学研究センター訪問団 キングファハド石油鉱物資源大学（サウジアラビア）を訪問、シンポジウムを開催

触媒化学研究センター訪問団は、サウジアラビアで最も石油精製、石油化学の応用触媒研究が盛んなキングファハド石油鉱物資源大学（KFUPM）、及びその中核研究機関である石油精製化学研究センターを3月5日（木）から4日間の日程で訪問しました。この訪問では、研究交換やシンポジウムを通して交流を図るとともに、触媒基礎研究を推進している日本で唯一の触媒化学の公的研究機関である北海道大学触媒化学研究センターとの間での研究相互協力関係を築き、KFUPMの石油触媒研究の飛躍を図る将来構想を議論しました。なお本訪問は、国際石油交流センター（JCCP）の支援を受け、またJCCPからの派遣教授である服部英北海道大学名誉教授（触媒化学研究センター研究推進支援教授）の尽力で成立したものです。訪問団は、上田センター長を代表に、朝倉教授、竹口准教授（クラスターリーダー）及び阿部准教授（クラスターリーダー）の4名でした。

訪問団はKFUPMの研究施設である石油精製

化学研究センターを見学し、研究者から研究課題の説明を受けました。同センターでは日本からの支援を受けて整備された研究機器や設備を利用し、しっかりとした研究が進められていました。実用研究志向が強く見て取れましたが、研究者の意気込みは大変高いものでした。KFUPMでは不足している先進的な触媒のキャラクター化に対して大変強い希望を有しており、この方面で多くの実績を持っている触媒化学研究センターは協力関係を強く求められました。

KFUPM 副学長との会談では、触媒化学研究センター長からセンターの歴史、設立の理念、最近の活動の説明がありました。同副学長はこれに感銘を受け、KFUPMと触媒化学研究センターとの研究協力関係の構築と研究推進を積極的に支持することを表明し、石油精製化学研究センターとの間での具体化の希望があり、「触媒による次代エネルギーの創成」を戦略テーマに、今後検討することとなりました。



KFUPM 内研究センターの見学と
研究説明



シンポジウム



Jauwad 副学長への表敬訪問

（触媒化学研究センター）

総合博物館土曜市民セミナー「北大植物園のアイヌ資料 その歴史と特徴」開催

総合博物館では3月14日(土)土曜市民セミナー「北大植物園のアイヌ資料 その歴史と特徴」を開催しました。講師は北方生物圏フィールド科学センター 加藤克 助教です。

北海道大学植物園・博物館には2,600点にのぼるアイヌ民族資料が所蔵されています。開拓使によって収集された資料、農学部博物館の関係者によって収集された資料群は、研究資源と

してのみならず文化資料として世界有数のコレクションとして位置付けられています。さまざまな形で利用され続けているこの資料群が持つ歴史的背景について、博物館と資料管理の歴史をたどりながら紹介されました。セミナーには約90名の市民が参加し、熱心に受講していました。



ポスター



講演する加藤克助教

(総合博物館)

第2回北海道大学教育GPセミナー 「世界の博物館における鉱物展示から見えるもの」開催

総合博物館では、2月28日（土）、1階「知の交流」コーナーにおいて、元産業技術総合研究所地質標本館館長の豊^{ぶんのみちあき}遙秋氏を講師に迎え、第2回北海道大学教育GPセミナー「世界の博物館における鉱物展示から見えるもの」を開催しました。世界中の博物館に足を運び、鉱物展示を中心に展示を目にしてきたという豊かな経験をもとに各国の博物館における鉱物展示から見えてくる社会情勢や政治的意図、教育の現状などについて講演していただきました。

自ら撮影した美しい写真と現地でのエピソードを交えながら、イギリスやフランスをはじめとする西ヨーロッパや北アメリカの著名な博物館はもちろんのこと、東ヨーロッパやトルコ、南アフリカ、あるいは、あまり見る機会のない

中国の大学博物館や地質博物館の現状も紹介していただきました。教育、普及、研究など多くの目的に応じて博物館の展示室に並ぶ鉱物標本、それらが見学者に何を発信しているのか、各博物館の力量を図る指標とは何か、鉱物展示から見えてくる各国の現状とは何か、などを中心に、お話ししていただきました。

普段あまり目にする事のない他の博物館の鉱物展示、しかも、世界中の数多くの博物館の事例を臨場感あふれる写真で紹介していただいたことで、その場にいながら世界の博物館を巡り歩いているような貴重な体験ができ、また、当館の展示を見直してみる良い機会にもなりました。



講演する豊遙秋氏



当日の講演会場

（総合博物館）

第3回北海道大学教育GPセミナー「北方地域人間環境科学教育プログラムの取り組みと問題点」開催

総合博物館では、3月21日(土)、1階「知の交流」コーナーにおいて、北方生物圏フィールド科学センター教授であり、現代GP 北方地域人間環境科学教育プログラム(平成16~18年度)の事業推進責任者であった上田宏教授を講師に迎え、現代GPでの経験をもとに、その取り組みと終了後の現状、今後の課題と展望などについて講演していただきました。

現代GPの概要と採択に至る経緯、当初の目的、そして、フィールド科学センターと文学研究科、水産科学研究院という3つの核を中心に、教育プログラムが展開されたこと、そして、現代GP終了後の現状として、現在も継続的に実施されている文理融合型・フィールド体験型教育プログラムやField Science Network などについての報告がなされました。最後に、教育

GPへのアドバイスとして、a)終了後も(予算がなくとも)継続可能なプログラムの実現、b)専任のコーディネーターの配置、c)全体的な目標としての縦の線と、各プログラムの実行・問題点の抽出・解決策の提案という横の線が必要であること、d)内部評価と外部評価、そして、e)全学的教育改革であるとの認識を波及させることの重要性、などについてお話しいただきました。

あまり表に出ることない教育プログラムの裏側や問題点を詳しく紹介いただき、参加した市民らはもちろんのこと、本セミナーを主催する北海道大学教育GPの事業推進スタッフからも、今後の参考にしようと熱心に耳を傾けていました。



講演する上田宏教授



ポスター

(総合博物館)

脳科学研究教育センター発達脳科学専攻第5期 修了生に修了証書授与

去る3月25日(水)、本学修士・専門職学位・博士学位授与式当日15時半から学術交流会館第三会議室において、脳科学研究教育センターが設置する発達脳科学専攻教育プログラム修了生に対し、栗城眞也センター長から修了証書が授与されました。

今年度の修了生は第5期生として、修士課程7名、博士課程3名(内1名は20年6月修了)、計10名が所属研究科の学位取得に合わせて発達脳科学専攻所定の修了要件を充足し、修了が認定されたものです。

センターでは、修了までの研究指導の一環として研修会を実施しており、今年度は、大滝セミナーハウスで1泊2日の合宿研修を実施しました。この研修では院生・教員参加者全員が日頃の研究を口頭発表とポスター発表で行い、自分の研究との融合を考える機会としました。さらに、修了予定者は、別途行われた公開論文発表会で研究の集大成を発表しました。この発表会では、極力専門用語を使わず、他専攻の院生・教員に自分の研究内容を理解してもらう訓練の場とし、また、来聴者は発表内容から自分の研究への応用を考える機会としました。

発達脳科学専攻は、文理医系融合型の脳科学研究のバーチャル専攻として、平成15年度に発足し、現在は学内12研究科(学院)にわたる大学院生を対象として複雑な機能をもつ脳について融合した教育プログラムを編成し、研究科枠を超えた人材育成を図っており、これまでに修士課程36名及び博士課程14名、合計50名の大学院生を修了と認定しました。



祝辞を述べる栗城センター長



第5期修了生との集合写真

(脳科学研究教育センター)

大学文書館で札幌農学校生の受講ノートの 目録を作成・公開

大学文書館では、所蔵する札幌農学校生の受講ノート276冊（複製を含む）の目録を作成しました。

受講ノートとは、札幌農学校生が受講した講義を記録したノートです。大学文書館は、第1期生佐藤昌介、第2期生宮部金吾・南鷹次郎・新渡戸稲造・廣井勇、第3期生高岡直吉、第13期生高岡熊雄、第14期生平塚直治、第19期生半澤洵、第23期生川嶋一郎、東北帝国大学農科大学卒業生中島九郎ら24名の札幌農学校生の受講ノートを所蔵しています。W.S. クラーク、D.P. ペンハロー、W.P. ブルックス、C.H. ピーボディ、J.C. カッター、A.A. ブリガムといった札幌農学校前期の教育を担った外国人教師の講義や、佐藤昌介・南鷹次郎・宮部金吾・新渡戸稲造・橋本左五郎・高岡熊雄・松村松年ら札幌農学校卒業後に母校の教授となった教員の講義を記録したノートを含みます。いずれも札幌農学校の学術史や学生・生徒の学業史を考察する上で非常に貴重な資料です。



橋本左五郎講義「昆虫学」（高岡熊雄受講ノート）

受講ノートの一部は経年による傷みが激しいため閲覧を制限していますが、閲覧用複写を順次作成しています。一部の受講ノートの画像については、下記の北海道大学オープンコースウェア（OCW）のweb ページ上で閲覧することができます。

<http://ocw.hokudai.ac.jp/Heritage/>

受講ノートの目録については、「〔目録〕 受講ノート——札幌農学校生の学業記録——」として『北海道大学大学文書館年報』第4号（2009年3月刊行）に載録しています。目録のほかに、参考資料として、札幌農学校生の講義履修表と略歴を合わせて掲載しました。



『北海道大学大学文書館年報』第4号

『年報』第4号は、大学文書館において配布するとともに、下記の北海道大学学術成果コレクション（HUSCAP）で公開しています。是非、ご覧ください。

<http://hdl.handle.net/2115/38132>

（大学文書館）

大学文書館に「北大紛争」関係資料を移管

3月30日（月）、大学文書館では、経済学部から「北大紛争」関係資料の移管を受けました。

移管された資料は、『北大百二十五年史 通説編』（2003年発行）編纂の際、経済学研究科・経済学部史の執筆担当者が収集した資料1箱です。資料は、主に、1960～1970年代における「北大紛争」の経過を伝える大学新聞、藁半紙・ガリ版のビラや通知、冊子類です。

ビラ類には、1969（昭和44）年8月17日、北大全共闘による文系校舎（法学部・経済学部・文学部・教育学部）の封鎖に関するものが多く含まれています。



「北大紛争」時の大学新聞やビラ類

また、1977（昭和52）年7月9日の「北海道経済史」講義をめぐる事態とこれに対する経済学部の措置について、事態収拾をはかるために同年7月20日経済学部が出した「告示」の掲示原版も含まれています。



「告示」（1977年7月20日）

大学文書館では、これまでも、「北大紛争」に関する映像資料・写真をはじめ、ビラ類の紙媒体資料を収集しています。今後、移管資料については、これらの資料と合わせて、「北大紛争」関係資料群として整理し、沿革資料として活用いたします。

（大学文書館）

小学生とその家族を対象に「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催

北方生物圏フィールド科学センター植物園では、3月7日(土)、8日(日)に小学生及びその家族を対象とした「冬の植物園ウォッチング・ツアー」を開催しました。このウォッチング・ツアーは平成11年「大学等地域開放特別事業」の一環として始められ、10回目となる今年は児童24名、保護者20名のあわせて44名が参加しました。

ツアーの前半は、雪の植物園内で厳しい冬を暮らす生物とその多様性の観察を行いました。マツの木やマツボックリに実際に触れてそれぞれの特徴を観察し、博物館ではマツの種子と関わりのある動物の剥製を見ながら、動物と植物の「共生」を学習しました。またエゾイタヤから出る樹液を実際に飲んでみると、甘い!との声と笑顔がこぼれました。かんじき体験では

時々跳ねたり走ったりしながら、かんじきで雪を踏む感覚を楽しんでいるようでした。

後半は、園内で観察したマツボックリや木の実を使った工作を行いました。たくさんの材料を目の前に、迷いながらも子供ならではの自由な発想で魅力的な作品ができあがりました。また保護者の方も真剣な表情で工作に取り組む姿も見られました。参加した児童には植物園オリジナルの「マツボックリカード」が配られ、これが非常に好評でした。

今回は植物園からは少し離れた地域の方々の参加も多く、このようなイベントへの関心の高さを感じました。今後も、このような活動を通じて地域の子供たちが植物をより深く学ぶ場として貢献してゆきたいと考えています。



マツの木を観察



かんじきを履いて松を探す



エゾイタヤの樹液を味見



マツボックリなどを使って工作

(北方生物圏フィールド科学センター)

「生命科学院・理学院合同F D研修会」を実施

3月18日（水）16時から理学部7号館310講義室において、生命科学院・理学院F Dワーキンググループの主催による、生命科学院・理学院（先端生命科学研究院・薬学研究院・理学研究院）担当教員を対象としたF D研修会が実施されました。

研修会当日、松田生命科学院長の挨拶に引き続き、先端生命科学研究院の瀬谷 司教授による「命とこころのありようと生命科学のはざま」と題する講演が行われました。

講演では、生物には共通の遺伝子プログラムがあり、人の病気は生命プログラムが現代文化と馴染まない結果として起き、遺伝子の欠損は人に特有な疾患をもたらすことになったことが紹介されました。また、進化（ダーウィン）医学の観点から、疾病は遺伝子に由来し、遺伝子に変化を起こさせない生活習慣や食生活がいかに大切かについて力説されました。

進化（ダーウィン）医学はどのように位置付けられているのか、医学の進歩が真に人に幸福をもたらしているのか、また、完治する見込みのない患者に対する延命措置は必要かなどの質疑応答が行われました。

参加者からのアンケートでは、医療・医学の観点から「倫理」を主題とした話が研究分野の異なる教員に新鮮であったとの意見が多く寄せられました。さらに、F D研修会において取り上げるべき話題についてもいくつかの提案があり、今後のF D活動の参考となる意見が寄せられました。



瀬谷教授による講演

（理学院・理学研究院・理学部、
生命科学院・先端生命科学研究院）

「理学部・理学院・生命科学院合同F D研究会」を実施

3月24日(火)15時から理学部5号館大講堂において、理学部・理学院・生命科学院合同による、教員及び事務職員を対象としたF D研修会が実施されました。

山口理学研究院長の挨拶に引き続き、筑波大学特任教授(北海道大学名誉教授)小笠原正明先生による「国際化時代における大学・大学院教育とF D活動」と題する講演会が行われ、その後、学科・専攻毎によるF D研修の必要性和その進め方について話し合われました。

講演では、中教審答申の流れと学士課程及び大学院課程に設置基準の一部としてF D研修が義務づけられた背景について、また、急速に進む高等教育の国際化の波と、なかなか進まない教育改革の現実を踏まえ、わが国の大学教育で今何が問題であり、今後何が必要とされるのかなどが紹介されました。特に、日本と欧米における大学・大学院教育の特徴や違いを、プログラム(コース)、デパートメント(ディシプリン)及びスクールという基本概念から整理・分析し、今後の大学・大学院教育改革に向けての方向性について述べられました。

公演後は、F D研修で教員がなすべきこと、デパートメントとスクールとの関係、教育の質の保障はどのようにすべきか等について多くの質疑応答が行われました。



小笠原名誉教授による講演

また、F D参加者からのアンケートでは、講演内容についての感想や意見と共に、今後のF D活動に参考となる意見も多く寄せられました。

(理学院・理学研究院・理学部、生命科学院・先端生命科学研究院)

お知らせ

平成21年度北海道大学公開講座等開設一覧

平成21年度において、本学が実施する公開講座等の企画が下記のとおりまとまりましたので、お知らせします。

◎ 公開講座【教養型】（全学企画）

（4月15日現在）

講座名 (学外における開催場所)	講座内容	開設期間	回数 (延時間)	募集期間	受講対象 (定員)	受講料	実施部局 (問い合わせ先)
現代社会と倫理—安全・安心なくらしを実現するために—	米国のサブプライム問題に端を発した不況、建築偽装や食品の安全性をめぐる問題など、私たちの暮らしを脅かしている問題の根底には、現代社会において倫理問題が厳しく問われているという事実があります。科学技術の発展やグローバル化の深化のなかで、私たちが安全・安心な生活を実現するために私たちはどのように対応していくべきなのか、現代社会の倫理をキーワードにして多面的に考えます。	平成21年7月2日 ～ 平成21年7月30日 (毎週月・木曜日) (7/20(月)を除く) 18:30～20:30	8回 (16時間) (1回の受講も受けますので、詳細は問い合わせ先まで)	6月9日 ～ 6月24日	一般市民 100人	5,000円	高等教育機能開発総合センター (学務課教務課(教務情報システム担当)) 011-706-5429

◎ 公開講座【教養型】（各部局等の企画）

講座名 (学外における開催場所)	講座内容	開設期間	回数 (延時間)	募集期間	受講対象 (定員)	受講料	実施部局 (問い合わせ先)
英語圏の児童向け学習図書で学ぶ英語表現	英語圏で出版された絵や写真の豊富な児童向け学習図書は、実用的な日常表現が学べる良い教材です。本講座では毎回異なるシリーズを取り上げ、学校で習った英語とは一味違う表現を学びます。講義だけでなく、易しい英語(中学校で習うレベル)で書かれた薄い本を各自で読む・グループ活動を行うなど受講者参加型の講座です。	平成21年5月11日 ～ 平成21年6月29日 (毎週月曜日) 18:30～20:00	8回 (12時間)	4月6日 ～ 定員に達し次第終了	一般市民 40人	4,000円	メディア・観光学事務部 (総務担当) 011-706-5115
世紀を超えて：東欧革命後の20年を振り返る	2009年は東欧革命20周年にあたり、体制変換直後から今日に至るまで、中・東欧は絶え間なく、しかも劇的に変化し続けてきた。本講座では、20年の変化と意義を、ロシア・旧ソ連圏や他の諸国・地域との関連・比較も踏まえた上で、政治・経済・歴史・文化・社会などの様々な分野から解説することを目標とする。	平成21年5月11日 ～ 平成21年6月1日 (毎週月・金曜日) 18:00～20:00	7回 (14時間)	4月15日 ～ 5月7日	一般市民 80人	4,500円	スラブ研究センター (事務担当) 011-706-2388
老い翔る—人生の達人という夢—	多様な研究諸領域から構成される講師陣が、老いについてそれぞれ独自の視点から考察し、新鮮な驚きを引き起こす様々な知見を提示する。とりわけ、老いを肯定的に生きぬいた実例を豊富に紹介し、その上で意見交換を通じて豊かに生きるヒントを共に探る。	平成21年5月20日 ～ 平成21年7月22日 (毎週水曜日) 18:30～20:00	10回 (15時間)	4月20日 ～ 5月13日	一般市民 80人	5,000円	文学研究科 (庶務担当) 011-706-3060
世界に広がる日本の水産 (開催地：函館市)	6名の講師がそれぞれの専門的知見から、日本の水産学・水産技術の発展や貢献の歴史、グローバル化が進む現状、さらにはこれからの水産学が進むべき方向性についてわかりやすく紹介する。	平成21年10月10日 ～ 平成21年11月21日 (10/31(土)を除く) (毎週土曜日) 13:00～15:00	6回 (12時間) (1回の受講も受けますので、詳細は問い合わせ先まで)	7月15日 ～ 10月9日 定員に満たない場合は随時受付	一般市民 (高校生含む) 80人	4,000円 (1回のみ受講は1,500円、高校生は無料)	水産科学研究所 (函館キャンパス事務部研究協力担当) 0138-40-5613

お 知 ら せ

講 座 名 (学外における開催場所)	講 座 内 容	開設期間	回数 (延時間)	募集期間	受講対象 (定員)	受講料	実 施 部 局 (問い合わせ先)
経済危機と生活保障	経済危機の影響を見た上で、雇用保障と社会保障の連携すなわち生活保障が重要になることを明らかにする。ついで、労働法と社会保障法の視点から雇用保障と社会保障のそれぞれの課題を論じる。さらに民法の視点から、生活資産をめぐるセーフティネットを検討し、最後に法哲学の視点から生活保障のための連帯の原理を考える。	平成21年 7月23日 ～ 平成21年 8月27日 (毎週木曜日) 18:30～20:30	5 回 (10時間)	6月22日 ～ 7月10日 (予定)	一般市民 50人	3,500円	法学研究科・附属高等法政教育研究センター (庶 務 担 当) 011-706-3119
異分野融合によって新たな環境科学を起こす	1) 環境問題は複雑にからみあったパズル 2) ナノテク・ロジーの功罪 3) 途上国の脆弱な環境 4) 循環型社会と低炭素社会 5) 流域環境の保全 6) 水資源は自然の恵み	平成21年 8月18日 ～ 平成21年 9月29日 (毎週火曜日) (9/22(火)を除く) 18:30～20:00	6 回 (9時間) (1回の受講も受付ますので、詳細は問い合わせ先まで)	7月27日 ～ 8月5日	一般市民 50人	3,500円	地球環境科学研究所 (環境科学事務部学術助成担当) 011-706-2204 011-706-2205
くらしの中の情報科学 (副題: ネットワークからナノテク・ゲノムまで)	情報・通信からナノテク・ゲノムまで、北海道大学の研究者が情報科学の最先端をわかりやすく解説します。	未定(9月または10月の5日間を予定) 18:30～19:45	5 回 (6.5時間)	8月1日 ～ 9月5日	一般市民 (高校生を含む) 25人	無料	情報科学研究科 (グローバルCOE事務局) 011-706-7576
地球環境対応マテリアル科学の進歩	過酷な環境のもとで利用される材料、将来を嘱望される材料等多くの物質が開発されています。次世代の我々人間社会を豊かにしつつ、環境に負担をかけない材料とは何か? についての叡智が結集されつつある現況を、歴史を紐解きながら紹介して物質科学の将来を展望します。	平成21年10月17日 ～ 平成21年10月31日 (毎週土曜日) 13:30～16:30	3 回 (9時間)	未定	一般市民 50人	3,500円	工 学 研 究 科 (教 務 課) 011-706-6123
経済学の考え方 ー市場経済をどう捉えるか	本講座では、市場経済の多様な捉え方を、研究方法、貨幣・情報、経済倫理、労働などを例に紹介します。	平成21年 9月12-26日 10:00～15:00	4 回 (6時間) (1回の受講も受付ますので、詳細は問い合わせ先まで)	8月3日 ～ 8月31日	一般市民 50人	2,500円	経 済 学 研 究 科 (庶 務 担 当) 011-706-4058
イタリアの風景	近年、イタリアはわれわれにとってかなり親しい国になりました。この講座では、これこそイタリアの真髄だと思われる七つの風景をとり出して、「目に映るもの」と「心のうちで動くもの」という視点から、イタリアという風土とイタリア人の面白さを、そのひだひだをめぐるように描写します。風景を前にして意識がゆらぐその瞬間こそが「旅」です。	平成21年 8月31日 ～ 平成21年10月26日 (毎週月曜日) 18:30～20:00	7 回 (10.5時間)	7月21日 ～ 定員に達し次第終了	一般市民 50人	4,000円	メディア・観光学事務部 (総 務 担 当) 011-706-5115
地域再生と観光の力	さまざまな国や都道府県の政策も含め、「観光を通じての地域再生」の可能性への期待が高まっている。地域には潜在的、顕在的な様々な資源が存在し、それらの資源をいかに観光資源としてプロデュースするのか。この地域観光プロデュースについて、多くの国内外の事例を紹介しつつ、実学的な視点から、学習する。	平成21年10月29日 ～ 平成21年12月3日 (毎週木曜日) 18:30～20:00	6 回 (9時間)	9月1日 ～ 定員に達し次第終了	一般市民 60人	3,500円	メディア・観光学事務部 (総 務 担 当) 011-706-5115
筋トレのウォーキング～北海道らしい健康づくり:「メタボ」と転倒の予防～	ボールを持って行うノルディックウォーキングと新しい歩行法「大股歩き」の理論を学び実践学習する。	平成22年1月下旬 ～ 平成22年2月初旬 (毎週土曜日) 14:00～16:00	3 回 (6時間) (1回の受講も受付ますので、詳細は問い合わせ先まで)	12月1日 ～ 12月25日	一般市民 (75歳未満) 20人	2,500円	高等教育機能開発総合センター (生涯学習計画研究部生涯スポーツ科学研究部門) 011-706-5590

お知らせ

◎ 公開講座【専門型】(各部局等の企画)

講座名 (学外における開催場所)	講座内容	開設期間	回数 (延時間)	募集期間	受講対象 (定員)	受講料	実施部局 (問い合わせ先)
廃棄物学特別講義 ー循環型社会を創るー	省資源・環境負荷軽減を追求する持続可能な社会構築のためには、廃棄物、副産物、使用済み製品などの発生抑制、再利用し、適正処分が必要である。この公開講義は、理系や文系の専門の異なる諸分野の大学院生に対して開講されている大学院共通講義を、廃棄物処理処分、循環産業に携わる専門スタッフや、より高度な情報を求める市民に提供する。	平成21年4月9日 ～ 平成21年7月30日 (毎週木曜日) (16:30～18:00) 全15回	15回 (22.5時間) (1回の受講も受付しますので、詳細は問い合わせ先まで)	2月23日 ～ 3月27日	一般市民 30人	14,000円	工学研究科 (教務部) 011-706-6123
生命環境倫理学	今日の高度に発達した科学技術と経済システムは我々の暮らしを豊かにすると同時に、本来あるべき食べ物や環境の「豊かさ」を犠牲にして成り立っているのではないかと不安が常につきまといまいます。この問題に農学を中心とした科学はどう応えていくのかをわかりやすく解説します。	平成21年4月7日 ～ 平成21年7月14日 (毎週火曜日) (16:30～18:00) 全14回	14回 (21時間) (1回の受講も受付しますので、詳細は問い合わせ先まで)	随時	一般市民 20人	13,000円	農学研究院農学事務部 (庶務担当) 011-706-2506
生涯学習計画セミナー	地域格差の広がり、地方財政の危機のもとでの生涯学習・社会教育関連予算の削減、市町村合併の推進、指定管理者制度の導入が進み、その公共性が改めて問われている生涯学習・社会教育について、市民の学習活動を基礎にどのように展望を切り開くかについて学習します。C18	未定	2回 (6時間)	未定	生涯学習・社会教育の専門職員や地域のリーダー 20人	5,000円	高等教育機能開発総合センター (学務部教務課 (教務情報システム担当)) 011-706-5429
持続可能な低炭素社会	持続可能な社会を創造するため、地球温暖化の科学と政策とともに地域づくりの知恵を学ぶ。	平成21年4月9日 ～ 平成21年7月16日 (毎週木曜日) (16:30～18:00) 全14回	14回 (21時間) (1回の受講も受付しますので、詳細は問い合わせ先まで)	なし (受講に当たっては、問い合わせ先に連絡のこと。)	一般市民 30人	無料	公共政策大学院 (深見特任教授・秘書室) 011-706-(4716,4717) 法学研究科 (庶務担当) 011-706-3119
北大病院専門領域看護師会看護専門領域別研修講座 ー手術看護ー	・手術看護とラテックスアレルギー	平成21年6月11日 18:00～19:30 (木曜日)	1回 (1.5時間)	開催1カ月前 ～ 開催14日前の間	看護師等医療関係従事者 30人	3,000円	北海道大学病院 (看護部) 011-706-5747
北大病院専門領域看護師会看護専門領域別研修講座 ー救急看護ー	・急変時の対応：フィジカルアセスメント ・一次救命処置 ・二次救命処置	平成21年6月18日 7月2日 7月9日 18:00～19:30 (木曜日)	3回 (4.5時間) (1回の受講も受付しますので、詳細は問い合わせ先まで)	開催1カ月前 ～ 開催14日前の間	看護師等医療関係従事者 10人	5,000円	北海道大学病院 (看護部) 011-706-5747
北大病院専門領域看護師会看護専門領域別研修講座 ー重症集中ケアⅠー	・心電図の解釈1 代表的な不整脈 ・心電図の解釈2 12誘導心電図・ペースメーカー	平成21年 7月16・23日 18:00～19:30 (木曜日)	2回 (3時間) (1回の受講も受付しますので、詳細は問い合わせ先まで)	開催1カ月前 ～ 開催14日前の間	看護師等医療関係従事者 20人	4,000円	北海道大学病院 (看護部) 011-706-5747
北大病院専門領域看護師会看護専門領域別研修講座 ー重症集中ケアⅡー	・心部静脈血栓症の予防ケア	平成21年10月1日 18:00～19:30 (木曜日)	1回 (1.5時間)	開催1カ月前 ～ 開催14日前の間	看護師等医療関係従事者 10人	3,000円	北海道大学病院 (看護部) 011-706-5747

お知らせ

講 座 名 (学外における開催場所)	講 座 内 容	開設期間	回数 (延時間)	募集期間	受講対象 (定員)	受講料	実 施 部 局 (問い合わせ先)
北大病院専門領域看護師 会看護専門領域別研修講 座ーがん性疼痛看護ー	・事例から考えるペインマネ ジメント ・リンパ浮腫のセルフケア	平成21年 9月10・17日 18:00～19:30 (木曜日)	2回 (3時間) (1回の受講 も受けます ので、詳細は問 い合わせ先ま で)	開催1カ 月前～ 開催14日 前の間	看護師等医 療関係従事 者 5人	4,000円	北 海 道 大 学 病 院 (看護部) 011-706-5747
北大病院専門領域看護師 会看護専門領域別研修講 座ー患者参加型看護Ⅰー	・患者と情報を共有し、患者 の意志を反映した看護実践の 取り組み ・看護実践のプロセスがわか る看護記録	平成21年9月5日 13:30～16:00 (土曜日)	1回 (2.5時間)	開催1カ 月前～ 開催14日 前の間	看護職 50人	4,000円	北 海 道 大 学 病 院 (看護部) 011-706-5747
北大病院専門領域看護師 会看護専門領域別研修講 座ー患者参加型看護Ⅱー	・患者と情報を共有し、患者 の意志を反映した看護実践の 取り組み ・看護実践のプロセスがわか る看護記録	平成22年1月30日 13:30～16:00 (土曜日)	1回 (2.5時間)	開催1カ 月前～ 開催14日 前の間	看護職 50人	4,000円	北 海 道 大 学 病 院 (看護部) 011-706-5747
北大病院看護師会 ー看護研究発表会ー	看護研究発表会	平成21年12月5日 平成22年1月30日 9:00～12:30	2回 (7時間) (詳細は問い 合わせ先ま で)	未定	看護師 20人	無料	北 海 道 大 学 病 院 (看護部) 011-706-5747

◎ 大学等地域開放特別事業

講 座 名 (学外における開催場所)	講 座 内 容	開設期間	回数 (延時間)	募集期間	受講対象 (定員)	受講料	実 施 部 局 (問い合わせ先)
音威子府村エココミュ ニティセンター野外講座 「ビッキの木集い」 (中川研究林)	森林の観察を行い自然に対 する理解を深める。	6月上旬 8:30～14:00	1回	未定	小学生高学 年～社会人 20人	無料	北方生物圏フィールド科学 センター (中川研究林)
「葉っぱ」で学ぶ植物の 形と種類	葉の形に注目し、生きた植物 を観察・採集することによ り、植物の多様性と分類の基 礎を学ぶ。	平成21年 7月30・31日 10:00～11:45 13:15～15:00	4回 (各日2回)	未定	小学生高学 年～中学生 各10人	無料	北方生物圏フィールド科学 センター (植物園)
卵成熟・受精・初期発生 実体験講座 (厚岸臨海実験所)	ヒトデやウニの卵成熟・受 精・初期発生の実際と機構を 解析的実験とミニ研究により 学ぶ。宿泊可。	平成21年 8月17～24日 (8日間)	1回	未定	中学校理科 教諭、高等 学校生物教 諭 4人	無料	北方生物圏フィールド科学 センター (厚岸臨海実験所)
森のたんけん隊2010冬 (雨龍研究林)	真冬の森での様々な遊びを通 して、森の仕組みや森と人の 関わりを学ぶ体験型野外学習	平成22年 1月14～15日 (2日間) 12:00～15:00	1回	未定	小学4～6 年 30人	無料	北方生物圏フィールド科学 センター (雨龍研究林) 0165-38-2125
冬の植物園 ウォッチングツアー	主に針葉樹を観察し、形態や 種類、特徴を学ぶ。あわせて かんじき体験も行い、冬の自 然に触れる。	平成22年2月 9:30～11:30 13:30～15:30	4回 (各日2回)	未定	小学生およ びその保護 者 各15人	無料	北方生物圏フィールド科学 センター (植物園)
自然体験型地域公開講座 「冬の山を歩こう」	山スキーやスノーシューを使用 して、森林の観察を行い自然 に対する理解を深める。	平成22年3月20日 9:00～15:00	1回	未定	小学生高学 年～社会人 20人	無料	北方生物圏フィールド科学 センター (中川研究林)

お 知 ら せ

◎ その他（公開講演等）

講 座 名 (学外における開催場所)	講 座 内 容	開設期間	回数 (延時間)	募集期間	受講対象 (定員)	受講料	実 施 部 局 (問い合わせ先)
体育・スポーツの話題	身体, 運動, スポーツ, 文化, 教育をキーワードとして, 体育・スポーツの最近の話題を講義する。	平成21年6月9日 ～ 平成22年2月9日 (毎月1回・8月を除く) 18:30～20:00	8回 (12時間)	4月1日 ～ 4月20日	一般市民 10人	無料	教育学研究院教育学事務部 (庶務担当) 011-706-3965
市民公開講座 「側弯症の診断と治療」	脊柱側弯症の診断と治療を分かりやすく説明します。	平成21年7月11日 10:00～12:00	1回 (2時間)	未定	一般市民 100人	無料	北海道大学病院 (整形外科) 011-706-5936
市民公開特別講座	お口の中から健康を科学してみよう！	平成21年9月27日 13:00～16:00	1回 (3時間)	9月1日 ～ 9月18日	一般市民・ 医療関係者 100人	無料	歯学研究科 (庶務担当) 011-706-4314
ようこそ！ ヘルスサイエンスの世界へ	未定	11月の土曜日	1回 (3時間)	未定	一般市民 100人	無料	保健科学研究所事務室 (庶務担当) 011-706-3315

(学務部教務課)

平成22年度採用分日本学術振興会特別研究員の募集

特別研究員制度は、大学院博士課程在学者及び大学院博士課程修了者等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する若手研究者に、研究奨励金が支給される制度です。

特別研究員に採用されると、DC（大学院博士課程在学者）には月額20万円（平成21年度予定額）、PD（大学院博士課程修了者等）には月額36万4千円（博士の学位を取得していない者は月額20万円）、SPD（大学院博士課程修了者等）には月額44万6千円の研究奨励金が給付されるほか、科学研究費補助金（特別研究員奨励費）の申請資格が与えられ、所定の手続を経て毎年度150万円以内（特別研究員（SPD）については300万円以内）の研究費が交付されます。

応募資格、提出書類等は下記のとおりですので、多くの学生等が応募されるようお知らせします。

なお、参考として平成21年度の応募・採用一覧を132ページに掲載しました。

1 応募資格

平成22年4月1日現在、年齢34歳未満（医学、歯学又は獣医学を履修する課程に在学する者及び当該課程を修了した者については年齢35歳未満。法律に定める臨床研修を終了した者で、医学、歯学又は獣医学を履修する課程に在学する者及び当該課程を修了した者は36歳未満。医師法（平成12年改正法）により義務付けられた2年以上の臨床研修を終了した者で、医学を履修する課程に在学する者及び当該課程を修了した者については37歳未満）で、次の採用区分ごとにそのいずれかに該当する者

(1) 特別研究員-DC

平成22年4月1日現在、次のいずれかに該当する大学院博士課程在学者

- ① 区分制の博士課程後期に在学する者
- ② 一貫制の博士課程第3年次以上の年次に在学する者

- ③ 後期3年の課程のみの博士課程に在学する者

※①～③については、申請時点において修士課程に在学する者等で、平成22年4月に博士課程後期等に進学する予定の者は申請することができる。

- ④ 医学、歯学又は獣医学系の博士課程第2年次以上の年次に在学する者

(2) 特別研究員-PD及び特別研究員-SPD (大学院博士課程修了者等)

- ① 博士の学位を取得後5年未満の者（人文・社会科学の分野にあっては、平成22年3月31日までに博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得の上退学した者で、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者を含む。）

- ② 平成22年3月31日までに博士の学位を取得する見込みの者

- ③ 平成22年3月31日において博士課程に標準修業年限を超えて在学することになる者。

2 電子申請システムによる手続

電子申請システムを利用した申請受付となります。電子申請手続きと併せて必要書類が提出された場合のみ、有効な申請となります。

申請予定者は予めID・パスワードを取得する必要がありますので、各部局担当係に申請者用ID・パスワードの発行依頼を行ってください。（ID・パスワード発行手続期間は各部局の担当係にご確認ください。）

3 提出書類

申請書、評価書等（詳細は各部局の担当係にご相談ください。）

4 提出締切 部局毎に異なりますので、各部局の担当にご確認ください。

（学術国際部研究協力課）

平成22年度採用分日本学術振興会 特別研究員-R P Dの募集

特別研究員制度の一環として、優れた若手研究者が出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰する環境を整備するため、研究奨励金を一定期間支給し、研究活動再開を支援する特別研究員-R P Dが平成18年度より創設されました。

特別研究員-R P Dに採用されると、月額36万4千円（博士の学位を取得していないものは月額20万円）が給付されるほか、科学研究費補助金（特別研究員奨励費）の申請資格が与えられ、所定の手続を経て毎年度150万円以内の研究費が交付されます。

応募資格、申請書類等は下記のとおりですので、お知らせします。

1 応募資格

平成22年4月1日現在、次の要件を満たしている者

- ① 博士の学位を取得している者（人文・社会科学の分野にあっては、平成22年3月31日までに博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得の上退学した者で、博士の学位を取得した者に相当する能力を有すると認められる者を含む。）、又は平成22年4月1日までに博士の学位を取得する見込みの者
- ② 平成21年4月1日から遡って過去5年以内に、出産又は子の養育のため、概ね3ヶ月以上やむを得ず研究活動を中断した者
- ③ 日本国籍を持つ者、又は我が国に永住を許可されている外国人

2 採用期間

以下のいずれかを選択することが出来る。

- ① 平成22年4月1日から平成24年3月31日までの2年間
- ② 平成22年7月1日から平成24年6月30日までの2年間
- ③ 平成22年10月1日から平成24年9月30日までの2年間
- ④ 平成23年1月1日から平成24年12月31日までの2年間

※採用内定後、出産・育児等の都合により上記の中で変更することも出来る

3 電子申請システムによる手続

今回の募集から、電子申請システムを利用した申請受付となります。電子申請手続きと併せて必要書類が提出された場合のみ、有効な申請となります。

申請予定者は予めID・パスワードを取得する必要がありますので、各部局担当係に申請者用ID・パスワードの発行依頼を行ってください。（ID・パスワード発行手続期間は各部局の担当係にご確認ください。）

4 申請書類

申請書、評価書等（詳細は各部局の担当係にご相談ください。）

5 提出締切 部局毎に異なりますので、各部局の担当にご確認ください。

（学術国際部研究協力課）

平成21年度総合博物館の開館時間・ 休館日ならびに臨時休館日のお知らせ

○開館時間

- ・平成21年 4 月～平成21年 5 月 (10:00～16:00)
- ・平成21年 6 月～平成21年10月 (9 :30～16:30)
- ・平成21年11月～平成22年 3 月 (10:00～16:00)

○休館日：毎週月曜日

※月曜日が祝日の場合は翌日が休館日となります。

※5月と9月の連休は開館し、その翌日が休館日となります。

○臨時開館

- ・平成21年 8 月 3 日 (月) : オープンキャンパス

○臨時休館

- ・平成21年 9 月13日 (日) : 全学停電
- ・平成21年12月29日 (火) ～平成21年 1 月3日 (日) : 年末年始
- ・平成22年 1 月16日 (土) ～17日 (日) : 大学入試センター試験
- ・平成22年 2 月25日 (木) ・ 3 月12日 (金) : 本学第2次入学試験

(総合博物館)

省エネルギー月間（平成21年2月）の実施状況

毎年2月は省エネルギー月間として、エネルギー使用の節減に取り組んでいただいているところです。今年も各部局等のご協力をいただきありがとうございました。今年の実施状況を集計しましたので、お知らせします。

今回も平成20年8月省エネルギー月間の実施状況報告と同様に、燃料・電気・水の使用に係る「原単位」を算出し、原単位の対前年同月比率を基にエネルギー使用量の増減率を算出しました。

原単位とは、「燃料等使用量」を「エネルギー使用量と密接な関係をもつ値」で除したもので、密接な関係をもつ値に「建物の延べ床面積」を適用しています。

燃料では、重油は15.9%減少、ガスは9.2%減少、灯油は13.8%減少、電気は3.0%減少、水(井水)は1.3%減少と全ての項目において減少しました。

エネルギー全体（水は除く）では、原油換算で6.6%減少しました。

燃料、電気の主な減少要因は、平成20年はうるう年で1日多かったこと、平成20年2月は真冬日15日であったのに対し、平成21年2月は真冬日12日と暖冬だったことと、病院でESCO事業を開始した効果によるものと思われます。

水の減少は、節水意識の向上と節水器具への更新等によるものと思われます。

教職員・学生の方におかれましては、「している→している」にシフトし、引き続き、エネルギー使用の節減行動にご協力お願いいたします。

（年間エネルギー量削減目標はマイナス1%です）

1. 燃料の使用に係る原単位(燃料等使用量÷建物の延べ床面積)及び対前年同月比率

(1) 重油

平成20年2月	平成21年2月	対前年同月比率	増減率	シェア
0.442 ^{リットル} /m ²	0.372 ^{リットル} /m ²	84.1%	15.9%減	6.2%

(2) ガス

平成20年2月	平成21年2月	対前年同月比率	増減率	シェア
2.283m ³ /m ²	2.073m ³ /m ²	90.8%	9.2%減	40.6%

(3) 灯油

平成20年2月	平成21年2月	対前年同月比率	増減率	シェア
0.036 ^{リットル} /m ²	0.031 ^{リットル} /m ²	86.2%	13.8%減	0.5%

2. 電気の使用に係る原単位および対前年同月比率

平成20年2月	平成21年2月	対前年同月比率	増減率	シェア
13.174kw/m ²	12.778kw/m ²	97.0%	3.0%減	52.6%

3. 水（井水）の使用に係る原単位および対前年同月比率

平成20年2月	平成21年2月	対前年同月比率	増減率	備考
0.098m ³ /m ²	0.095m ³ /m ²	96.9%	3.1%減	

4. エネルギー全体の原油換算および対前年同月比率

平成20年2月	平成21年2月	対前年同月比率	増減率	備考
6.48 ^{リットル} /m ²	6.05 ^{リットル} /m ²	93.4%	6.6%減	

（原油換算は「新省エネ法」による換算係数を使用）

5. エネルギー全体の二酸化炭素排出量及び対前年同月比率

平成20年2月	平成21年2月	対前年同月比率	増減率	備考
9,115t・CO ₂	8,489t・CO ₂	93.1%	6.9%減	

（施設部施設保全課）

レクリエーション

函館キャンパスフットサル大会 “FISHCUP” を開催！

3月7日(土)、函館キャンパス体育館において北大教職員・学生を対象としたフットサル大会“FISHCUP”を開催いたしました。職員チームや留学生チームなど、出場6チームによる総当たり戦の熱い戦いが繰り広げられ、大きな盛り上がりを見せました。成績は下記のとおりです。

今大会は、企画運営など全てが初の試みでしたが、大きな混乱もなく無事終了することができました。普段あまり接することのない学生と職員がスポーツを通して交流できる素晴らしい機会となりました。

順位表

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 優 勝：函館 FC (学生チーム) | 4 位：チーム留学生(留学生チーム) |
| 準優勝：FC 原研(学生チーム) | 5 位：Pez (教員・学生チーム) |
| 3 位：FC 山内(職員チーム) | 6 位：軽音マドリード(学生チーム) |



白熱した試合風景



出場チーム全員での記念撮影



函館キャンパス職員フットサルチーム



優勝チームへの“FISHCUP”の授与

(函館キャンパス事務部)

博士學位記授与

3月25日(水)に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士320人、及び本学に学位論文を提出しその審査、試験等に合格した論文博士30人の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部教務課)

課程博士

博士(文学)

北村 久	Anaphora and Salience : the relation between two linguistic elements (照応と際だち：二つの言語的要素の間の関係)
日吉 大輔	アリストテレス探求論の研究－『分析論後書』における定義と論証
深水 護	農業倫理と公共の利益
アバデロス	日本近代考古学思想における「先史」の概念に関する研究－E. S. Morse 著『大森介壚古物編』(1879年)から鳥居龍蔵著『有史以前乃日本』(1918年)まで－
サントス ラファエル	
井上 敬介	立憲民政党と政党政治
上原 周子	チベット族による民族間紛争の解決に関する人類学的研究－中国青海省海東地区化隆回族自治县における事例から－
及川 琢英	近代日本における軍隊・兵士の研究
カーン ムハマド	AN INTRODUCTION TO ISLAMIC FINANCIAL SYSTEM (イスラム金融システムに関する序説)
アザール	
加藤 眞司	蘇軾『東坡易傳』に見える政治思想
加部 勇一郎	清代文人の創作様式に関する研究－『鏡花縁』と『七嬭』を中心に
籠澤 正	明治初年開拓使漁場政策とアイヌ民族
西 信康	郭店楚簡『五行』研究
原 貴史	太宰春臺の『論語』解釈に関する研究
封 安全	中国とロシアの経済・貿易関係の新展開
李 忠奎	日韓語の動詞結合に関する研究
コルクサ アリ	条件文とモダリティに関する研究－日本語の条件表現とモダリティの相互関係の分析－
アイジャン	
菅 由美子	近世・近代期における『はず』の変遷
張 阿金	吉田松陰の研究－忠孝一致論・尊王攘夷論・死生観・武士道論に関する考察－
黒田 暁	自然環境と社会の相互関係の複数性－かかわりの持続性に関する環境社会学的研究－
竹村 幸祐	集団行動原理の文化間多様性とその社会構造的原因の解明
横田 晋大	外集団脅威に対する防衛的心理機構：その多様性と性差の解明

博士(教育学)

荒井 眞一	経済学の研究成果にもとづく歴史教育の内容構成－しょうゆ醸造業に着目した資本主義的生産の成立過程の指導－
篠原 岳司	分散型リーダーシップに基づく現代米国大都市学区教育ガバナンス改革の研究
辻村 貴洋	教育専門職リーダーシップによる「教育の地方自治」の構想と展開－教育委員会制度創設期における地域教育計画と教育指導行政－
長田 真美	歯科衛生士養成教育課程における職業的能力の形成と教授-学習方略の開発
松浦 和代	日本語版「自己決定型学習のレディネス測定尺度」の看護学教育における信頼性と妥当性の検証
村田 明日香	目的指向行動におけるエラー処理に関する心理生理学的研究

博士(法学)

宋 峻杰	子どもの自己決定と憲法－米・台・日における子どもの人権・権利論の比較・分析－
孟根 巴根	中国の環境アセスメント法制度の構造・運用・効果－日本法との対比で－

李 玉 璽	台湾と中国における自訴制度の運用と機能
博 士 (経済学)	
メアス ワット ホー	A Study of Rice Production and its Marketing System in Cambodia (カンボジアにおける米の生産と流通制度の研究)
梁 鵬	The Long-run Performance of Initial Public Offerings and its Determinants: the Case of China (新規公開の長期パフォーマンスとその決定要因：中国市場の例)
神 崎 稔 章	長短金利の逆転に関する研究
博 士 (医 学)	
大 村 優	The involvement of corticotropin releasing factor (CRF) in cognitive and emotional functions— Is CRF release a cause or result of anxiety/fear? (コルチコトロピン遊離因子(CRF)と認知・情動機能との関係— CRF 遊離は恐怖・不安の原因なのか結果なのか?)
齊 藤 展 士	前頭眼野追跡眼球運動ニューロンに対する頸部固有受容器からの入力
徳 丸 信 子	ラット視交叉上核における時計遺伝子 <i>rPer1</i> 及び <i>rPer2</i> 発現細胞数の時空間的解析
平 田 力	ストレスと海馬シナプス応答機構に関する研究— Metaplasticity との関連性—
三 浦 会 里子	マウス脳における Cbln ファミリーの発現と局在、および小脳回路形成における生理機能の解明
吉 川 泰 永	Novel variations and loss of heterozygosity of <i>BRCA2</i> identified in a dog with mammary tumors (イヌ乳腺腫瘍において認められた癌抑制遺伝子 <i>BRCA2</i> の新規変異とヘテロ接合性の消失)
安 藤 佐土美	Bone Marrow-Derived Cells Are Not the Origin of the Cancer Stem Cells in Ultraviolet-Induced Skin Cancer. (紫外線誘発皮膚癌の癌幹細胞は骨髓由来ではない)
岩 崎 沙 理	ヒト末梢血における CD8陽性単球の解析
上 畠 寧 子	Artemis は AMP-activated protein kinase (AMPK) の活性化因子として機能する
江 端 真 一	薬剤誘導型 <i>Pkd1</i> コンディショナルノックアウトマウスの解析と mTOR 阻害薬による嚢胞抑制効果についての研究
大 栗 敬 幸	Identification of tumor-derived helper peptides and generation of tumor-specific Th1 cells applicable to clinical study. (腫瘍抗原由来ヘルパーペプチドの同定と腫瘍特異的 Th1細胞の臨床応用への基礎検討)
奥 健 志	抗リン脂質抗体症候群における向血栓細胞活性化機序
小 原 雅 人	ヒト成熟 B 細胞株における SDF-1刺激下流での DOCK2の役割の検討
笠 松 純	Variable lymphocyte receptor の遺伝学的解析
加 納 里 志	Tripartite motif protein 32 facilitates cell growth and migration via degradation of Abl-interactor 2 (Tripartite motif protein 32は Abl-interactor 2の分解を介して細胞増殖および運動能を促進する)
川 崎 浩 之	栄養障害型表皮水疱症に対する新規治療法の開発 ～構造蛋白補充療法～
黒 滝 大 翼	$\alpha 9$ インテグリン陽性脾臓マクロファージサブセットの機能
小 原 俊 央	SUMO リガーゼ PIAS3による HIF-1 α の転写活性制御
齋 藤 善 也	Osteopontin Small Interfering RNA Protects Mice from Fulminant Hepatitis (オステオポンチン siRNA による劇症肝炎の治療)
鈴 木 貴 之	Integral role of TCF8 in the negative regulation of tumor angiogenesis (TCF8の腫瘍血管新生における機能解析に関する研究)

- 鈴木 雅 喫煙者および慢性閉塞性肺疾患患者における転写因子 Nrf2に関する研究
 武田 真光 Administration of high-dose intact immunoglobulin has an anti-resorption effect in a mouse model of reproductive failure
 (免疫学的生殖不全モデルマウスにおいて、高用量免疫グロブリン投与は胎仔吸収抑制効果をもたらす)
- 立石 八寿貴 XⅦ型コラーゲンノックアウトマウスを用いた水疱性類天疱瘡モデルマウスの作成
 中村 昭伸 Impact of Small Molecule Glucokinase Activator on Glucose Metabolism and Beta Cell Mass
 (グルコキナーゼ活性化薬が糖代謝と膵β細胞量に及ぼす影響)
- 中山 洋佑 皮膚創傷治癒過程においてα9インテグリンとそのリガンドの相互作用の阻害は成熟肉芽組織の形成を遅延させる
- 成田 義規 Immunosuppressive tumor-escape mechanisms in tumor-bearing state.
 (担癌生体腫瘍内微小環境における免疫逃避機構に関する研究)
- 乃村 俊史 日本人における尋常性魚鱗癬とアトピー性皮膚炎患者におけるフィラグリン遺伝子変異に関する研究
- 橋本 陶子 関節リウマチ患者の末梢血単核球における Ras Guanine nucleotide releasing protein 4 (RasGRP4) 発現異常に関する検討
- 長谷川 大 3次元CT気道解析ソフトウエアを用いたCOPD患者における気道病変と気流制限の関係および吸入用抗コリン薬の気管支拡張部位と呼吸機能改善効果に関する研究
- 飛驒 陽子 脂肪毒性下における small Maf 因子の膵β細胞調節機構
- 藤澤 文絵 Trail Making Test 遂行時の脳内賦活領域についての機能的MRIによる検討ー健常日本人における検討ー
- 堀江 幸弘 Seeking for new disease susceptibility genes in Vogt-Koyanagi-Harada disease
 (原田病における新しい疾患感受性遺伝子の探求)
- 牧山 裕顕 臨床応用を目指したα-GalCer + IL-2刺激単核球培養における最適培地と培養バック素材の確立
- 町田 望 Impact of baseline sum of longest diameter in target lesions by RECIST on survival of patients with metastatic colorectal cancer
 (化学療法施行大腸癌における RECIST 標的病変長径和の予後因子としての意義)
- 松尾 綾 脊椎動物における自然免疫系の分子進化と多様性に関する研究
- 山中 快子 Expression of the Keratinocyte Lipid Transporter ABCA12 in Developing and Reconstituted Human Epidermis
 (ヒト胎生期皮膚と再構成皮膚における表皮脂質輸送蛋白 ABCA12の発現)
- 吉田 武史 食道癌における human papillomavirus 感染の解析
- 脇田 大功 The critical role of immune balance in cancer immunosurveillance
 (癌免疫監視機構における免疫バランス制御の重要性)
- 安倍 雄一郎 Enhancement of graft bone healing by intermittent administration of human parathyroid hormone (1-34) in a rat spinal arthrodesis model
 (ラット脊椎固定モデルを用いた副甲状腺ホルモン製剤間欠投与による移植骨治癒過程促進効果)
- 井上 謙一 NFBD1/MDC1 stabilizes oncogenic MDM2 to contribute to cell fate determination in response to DNA damage
 (NFBD1/MDC1はMDM2を安定化させDNA損傷におけるアポトーシス制御に寄与する)
- 内田 淳 塩基性線維芽細胞増殖因子-キトサン複合体 (bFGF-Chitosan) からのbFGFの徐放と活性維持に関する研究
- 小野 武紀 Effect of glycogen synthase kinase 3 activity on dendritic cell function to induce T helper 2 polarization
 (樹状細胞のTh2細胞誘導能とglycogen synthase kinase 3)

- 折 茂 達 也 Proteomic profiling reveals the prognostic value of Adenomatous Polyposis Coli-End-Binding Protein 1 in hepatocellular carcinoma
(肝細胞癌のプロテオーム解析による予後因子 APC-binding protein EBIの解明)
- 齋 藤 典 子 リンパ管内皮細胞が産生するラミニン421は悪性黒色腫の遊走を促進する
- 佐 藤 雅 美 Therapeutic effects of acupuncture in patients with rheumatoid arthritis: a prospective study using ^{18}F -FDG-PET
(関節リウマチ患者における鍼治療の効果： ^{18}F -FDG-PET を用いた前向き研究)
- 新 宮 康 栄 Left ventricular diastolic dysfunction in chronic aortic dissection.
(慢性大動脈解離における左室拡張機能障害に関する研究)
- 杉 木 孝 司 重症左心不全患者に対する左室形成術の心筋酸素代謝効率からみた治療効果の検討
- 田 口 大 志 INTERCEPTING RADIOTHERAPY USING A REAL-TIME TUMOR-TRACKING RADIOTHERAPY SYSTEM FOR HIGHLY SELECTED PATIENTS WITH HEPATOCELLULAR CARCINOMA UNRESECTABLE WITH OTHER MODALITIES
(切除不能肝細胞癌に対する動体追跡照射装置を用いた迎撃放射線照射に関する研究)
- 永 野 裕 介 新規脊髄誘発電位測定法の開発—微小電極を用いた複数点同時測定法—
- 芳 賀 早 苗 The survival pathways phosphatidylinositol-3 kinase (PI3-K)/phosphoinositide-dependent protein kinase 1 (PDK1)/Akt modulate liver regeneration through hepatocyte size rather than proliferation
(生存シグナルである PI3-K/PDK1/Akt 経路は、肝細胞増殖よりもむしろ肝細胞サイズを制御して肝再生を促進する)
- 濱 口 早 苗 慢性腎臓病は慢性心不全入院患者における独立した長期予後悪化の危険因子である
- 福 澤 信 之 腎虚血再灌流に対する Ischemic Preconditioning の腎保護作用
- 杉 田 純 一 Influence of conditioning regimens and stem cell sources on donor-type chimerism early after stem cell transplantation
(造血幹細胞移植後早期における移植前処置および移植細胞源のキメリズム推移に与える影響に関する研究)
- ローシャン ヒト膵癌におけるタンパク翻訳開始制御因子 eIF4E 発現の意義と eIF4E 結合タンパク-1 (4E-BP1) 遺伝子導入およびラパマイシン併用による治療法の開発
- ミシュラ (4E-BP1) 遺伝子導入およびラパマイシン併用による治療法の開発
- 丸 一 勝 彦 Transplanted Bone Marrow Stromal Cells Improves Cognitive Dysfunction due to Diffuse Axonal Injury in Rats.
(ラットびまん性軸索損傷後の高次脳機能障害に対する骨髄間質細胞の移植効果判定に関する研究)
- 池 野 多美子 生活機能改善を目的に作業療法的視点を取り入れた予防型家庭訪問の試験的研究
- 上 杉 正 人 医療用語の意味解析における数理科学的手法の適用—医学・医療文書から知識体系化を目指して—
- 河原田 まり子 The Effects of a Stress Inoculation Training Program for Civil Servants in Japan: a Pilot Study of a Non-randomized Controlled Trial
(日本人公務員を対象にしたストレス免疫訓練プログラム(SIT)の効果に関する非ランダム化比較試験研究)
- 後 藤 ゆ り 青少年の健康教育等に関する北海道・市町村議会議員調査—エイズ・健康行動等に対する知識・態度・行動—
- 谷 川 琢 海 地域医療資源の適正配置に向けた情報学的研究—小児救急における患者の移動距離に関する分析—
- 古 本 尚 樹 市町村合併による保健・医療・福祉サービス変化の質的分析
- 鷲 野 考 揚 Correlations Between Prenatal Exposure to Perfluorinated Chemicals and Reduced Fetal Growth
(有機フッ素化合物曝露と胎児発育との関連の検討)

博士(歯学)

- 小 原 三 郎 持続的圧迫による微小血管の経時的形態変化に対する加齢の影響
工 藤 悠 介 機械的刺激による微小血管径の増大に伴う白血球動態の変化
サチマリ エンドウ Research on lip sealing ability and its relation to dento-facial morphology
レオナルド (日常的な口唇閉鎖能力と顎顔面形態との関連性に関する研究)
- 佐 藤 真 理 Bone morphogenetic protein-2 enhances Wnt/ β -catenin signaling-induced osteoprotegerin expression
(Wnt/ β -catenin と BMP-2 シグナルによる OPG 遺伝子の発現調節機構の解析)
- 中 井 丈 生 Mechanical stress up-regulates RANKL expression via VEGF autocrine in osteoblastic MC3T3-E1 cells
(メカニカルストレスは VEGF autocrine を介し骨芽細胞様細胞の RANKL の発現を増強する)
- 平 松 亜紀子 生理的骨改造時における破骨細胞のアポトーシスに関する免疫組織化学的研究
藤 原 百 合 体性感覚野バレル領域におけるカルシニューリンの分子局在
三 上 紗 季 超小型コードレス筋電図計測システムの睡眠時ブラキシズム測定への応用に関する研究
秋 野 憲 一 自立高齢者における歯牙欠損部の放置と栄養摂取状況との関連性
阿 部 貴 恵 統合失調症患者における口腔ケア介入研究
大 谷 香 織 根尖切除術における切除面の封鎖法の違いが長期的治癒に及ぼす影響
亀 山 武 志 チロシンホスファターゼ PRL-3 による p53 の転写活性制御
木地村 太 基 フッ素徐放性レジンとの齲蝕抑制効果の pH サイクルによる評価
小 城 賢 一 修復材料と象牙質接着界面の長期耐久性評価
得 永 佳 介 コラーゲンハイドロゲルスポンジ複合体のスキヤホールドとしての有効性と BMP 併用による骨増生
- 中 塚 愛 4-META/MMA-TBB レジンと骨との接着の長期安定性
長 野 二 三 4-META/MMA-TBB レジンの象牙質接着に対する次亜塩素酸ナトリウムとプラチナナノコロイドの影響
- 萩 原 淳 臼歯部咬合支持を喪失した症例における義歯の治療が身体平衡機能に及ぼす影響
半 田 良 平 半月状歯肉弁歯冠側移動術後治癒の組織学的評価
福 岡 杏 理 スミヤー層が 1 ステップ接着システムの短長期的象牙質接着性能に及ぼす影響
山 口 圭 輔 BMP-2 添加多孔性キトサン/ハイドロキシアパタイトナノ複合体の骨誘導能および生体吸収性
- 浅 香 卓 哉 Type XV II Collagen Is a Key Player in Tooth Enamel Formation
(XV II 型コラーゲンは、歯牙エナメル質形成に重要な役割を果たす)
- 伊 従 光 洋 The role of Toll-like receptor 2 in bacterial phagocytosis
(細菌貪食における Toll 様受容体 2 の役割)
- 大 賀 則 孝 緑茶ポリフェノールは腫瘍血管内皮細胞ならびに血管内皮前駆細胞に直接的な抑制効果を有する
- 大久保 直 登 Vascular cell-like potential of undifferentiated fibroblast-like cells derived from ligament to construct vascular cell-specific marker-positive blood vessel-like structure with a lumen in a PI3K-activation-dependent manner
(靱帯由来未分化線維芽細胞様細胞による PI3K 依存性な血管内皮細胞マーカー陽性血管様構造物構築能力について)
- 齋 藤 豪 紀 骨芽細胞様細胞の Mg^{2+} 依存性 ATPase 活性の性質
太 子 芳 仁 ヒト舌リンパ管内皮細胞における CCL21, TLR2 ならびに TLR4 の発現
田 中 宗 一 Pim-1 activates cell motility that induces malignant phenotype of tongue carcinoma
(舌扁平上皮がんにおける Pim-1 の発現は細胞運動能を亢進し転移活性に関与する)
- 寺 田 典 子 多層カーボンナノチューブによる生体材料の表面改質

永 井 康 一	HSC-2細胞の炎症反応におけるマクロファージ遊走阻止因子の役割について
長谷川 博 一	HuR タンパクの細胞質発現と形質転換との関連
松 田 光 平	腫瘍血管内皮細胞は長期培養下においてもその特性を維持する
吉 川 和 人	優性阻害性 p53変異体 R248Q は H1299細胞の浸潤能を増大させる
博 士 (薬 学)	
池 田 陽 一	<i>Halobacterium salinarum</i> 由来のフォボロドブシン pR の安定性および光化学反応の検討
博 士 (工 学)	
石 黒 哲 郎	交換相互作用の励起子コヒーレンスに及ぼす効果に関する分光学的研究
大 岡 浩 仁	Studies on Asymmetric Hydrogenation of Aromatic Ketones Catalyzed by the TolBINAP/DMAPEN-Ruthenium (II) Complexes (TolBINAP/DMAPEN-ルテニウム(II)錯体触媒を用いる芳香族ケトン類の不斉水素化反応に関する研究)
菊 池 貴 夫	Direct Borylation of C-H Bonds with Bis (pinacolato) diboron Catalyzed by Iridium Complexes (イリジウム触媒を用いたジボロンによる直接的 C-H ホウ素化反応)
栗 原 一 典	Chiral N,N-Dimethyl Bisphosphoramidites (Me-BIPAM and N-Me-BIPAM) for Transition Metal-Catalyzed Asymmetric Reactions (二座ホスホロアミダイト配位子(Me-BIPAM, N-Me-BIPAM)を用いる不斉触媒反応)
木 場 隆 之	Protection of Molecular Wavefunction and Supramolecular Aggregates Formation by Using Cyclodextrin Encapsulation (シクロデキストリン包接による分子波動関数の保護および超分子会合体形成)
西 澤 理	モノシクロペンタジエニルジルコニウム錯体と変性メチルアルミノキサンによるノルボルネンのビニレン重合に関する研究
根 本 泰	Molecular Designs of Novel Star-shaped Polymers (Star Vectors) for Application to Gene Delivery Carriers (新規スターポリマー(スターベクター)の分子設計と遺伝子導入剤への応用に関する研究)
王 玉 艇	Preparation and Characterization of Nano/Submicro Size Boron Nitride Materials with Controllable Morphology from Borazine and Ammonia Borane (ボラジンとアンモニアボレインから形態制御したナノ・サブミクロン窒化ホウ素材料の作製と特性)
ハッサンハメド ハッサン エルセントリシ	Development of New Corrosion Protection Techniques for AZ91 D Magnesium Alloy Using Chemical Conversion Coatings and Electroless Metal Plating (化成皮膜および無電解めっきを用いた AZ91D マグネシウム合金のための新規表面処理法の開発)
齋 藤 繁	実験状態図によるバリアコーティングの高温組織安定性に関する研究
長谷部 朝 一	Study on Dielectric and Electrostrictive Properties of Aluminum Anodic Oxide Films- Origin of Heat Generation in Aluminum Electrolytic Capacitors - (Al アノード酸化皮膜の誘電的および電歪特性に関する研究— アルミニウム電解コンデンサの発熱要因について—)
平 木 岳 人	Production of Hydrogen and Zeolite from Wastes (廃棄物を利用した水素およびゼオライト製造)
藤 川 俊 秀	旋回噴流による堆積粒子巻き上がり特性に関する実験的研究
鮫 島 大 湖	薄肉球状黒鉛鋳鉄における強度評価手法の開発
石 栗 航太郎	鉄道車体の三次元弾性振動解析に関する研究
ギリ ビジャイ	Microscopic Deformation and Structural Anisotropy in Bovine Cortical Bone (牛皮質骨の微視的変形特性と構造異方性に関する研究)
小 林 琢 爾	電子実装基板接合部用鉛フリーはんだの粘塑性変形特性に関する研究
斉 藤 朋 之	形状記憶合金アクチュエータを用いたミミズ型ロボットの開発に関する研究

博士学位記授与

武 田 量	Gait Analysis using Acceleration and Gyro Sensors (加速度と角速度センサーを用いた歩行解析に関する研究)
本 田 真 也	局所異方性を有する繊維強化複合材板の振動最適化に関する研究
野 田 宏	運転・保守データを活用したBWRプラントの信頼性の向上に関する研究
大 南 祐 介	Development of Fabrication Process of Catalyst Nanostructure and its Characterization Method (微細加工された触媒ナノ構造体作製プロセスと分析手法開発)
川 村 宗 範	Ce ドープ $Gd_2S i_2O_7$ のシンチレーション特性及び単結晶成長に関する研究
木 下 久美子	Surface Structure Determinations of Single Crystal Transition Metal Compound Model Catalysts (遷移金属化合物単結晶モデル触媒の表面構造決定)
猿 渡 亜由未	碎波ジェットの局所水面遷移とその予測
アシャド バハルディン	A Study on the Feasibility of Promoting Road Pricing Policy for Innovative Transportation Planning in an Urban center District (都市中心部における刷新的交通計画へのロードプライシング施策導入可能性に関する研究)
余 川 雅 彦	産業連関分析によるエコロジカル・フットプリントの地域計画への適用に関する研究
米 澤 勉	ユーザー・デモクラシーの視点による「まちづくり」の社会システム構築に関する研究
齊 藤 隆 典	柱梁接合部の力学的挙動を考慮したRC フレーム構造の非線形挙動解析に関する研究
中 村 洋 行	定着金物を用いた連続繊維シートによる鉄筋コンクリート部材の補強に関する研究
山 本 祥 江	鉛プラグ入り免震積層ゴムの極限挙動解析に関する研究
伊 藤 暁 信	Significance and roles of <i>rpoS</i> for formation of <i>Escherichia coli</i> biofilms (大腸菌バイオフィーム形成過程における <i>rpoS</i> の重要性と役割)
河原木 千 恵	廃棄物処分に用いられるベントナイト材の遮水性評価に関する研究
高 田 盛 生	シュベルトマナイトへの様々なオキシ陰イオンの吸着とその後の安定性
森 本 和 也	Adsorption mechanisms of inorganic anions on hydrotalcite-like compounds and their post-adsorption behaviors (ハイドロタルサイト様化合物に対する無機陰イオンの吸着機構と吸着後の挙動)
博 士 (獣医学)	
市 居 修	自己免疫性糸球体腎炎モデルマウスの解析－MRL/MpJ マウス由来の第1染色体テロメア領域に原因遺伝子を求めて－
小 倉 亜 希	放射線誘導アポトーシスにおけるサバイビンの役割とレドックス制御
加 納 里 佳	弱毒および強毒マレック病ウイルス感染鶏における免疫応答に関する研究
クラロ ニエゴス ミンガラ	COMPARATIVE IMMUNO-EPIDEMIOLOGICAL ASSESSMENT OF SWAMP AND RIVER-INE TYPE WATER BUFFALOES (Swamp 種および Riverine 種水牛の比較免疫学解析および感染症分子疫学調査)
酒 井 紀 彰	The genetic bases of inter- and intrastrain differences in CYP2D-dependent drug metabolism in rats (ラットにおける CYP2D の系統差及び個体差の分子機構の解明)
宋 昌 鉉	Studies on the establishment of a therapeutic model for prion diseases. (プリオン病治療法モデルの確立に関する研究)
ノー ハディビン アブ ダウ	Mode of hantavirus infection among host rodents and characterization of a vaccine candidate strain of Puumala virus (宿主げっ歯類におけるハンタウイルスの感染様式とプーマラウイルスのワクチン候補株の性状解析)
原 陽 子	Studies on Infection and Propagation of Neurotropic Viruses in Cultured Dorsal Root Ganglia Cells (神経親和性ウイルスの培養背根神経節細胞における感染性と増殖性の研究)

村 上 真津香	炎症性腸疾患における腸管神経の機能変化に対するグリア細胞の関与
柳 川 洋二郎	Characteristics of reproductive physiology during conception period and maintenance of pregnancy in Hokkaido sika deer (<i>Cervus nippon yesoensis</i>) (エゾシカ(<i>Cervus nippon yesoensis</i>)の受胎と妊娠維持における繁殖生理学的特徴の解明)
山 口 聡一郎	ウシ耳下腺腺房細胞における起電性 Na^+ - HCO_3^- 共輸送体 (NBCe1-B) の細胞内機能調節機構及び生理的役割に関する研究
山 田 慎 二	オスマダニ由来分子を標的とした抗ダニワクチン抗原の探索
博 士 (国際広報メディア)	
堀 じゅん子	歌川広重『名所江戸百景』における偏在する視点—メディア・近代・ジャポニスム
横 山 吉 樹	EFL Learners' Code-switching Strategies In Communication Tasks (EFL 学習者のコミュニケーションタスクにおける言語切り替え)
博 士 (情報科学)	
大 柳 幸 彦	情報対称性市場における日本のホテル公開情報構造に関する研究
加 藤 順	統計学とグラフ理論に基づくコンテンツ権利処理技術とその応用に関する研究
鄭 成	Study on Construction of Query-Answering Systems in the Semantic Web (セスマンティック・ウェブにおける求解システムの構築に関する研究)
三 浦 克 宜	Generation of Equivalent Transformation Rules via Logical Equivalence (論理等価式を経由した等価変換ルールの生成に関する研究)
設 楽 洋 爾	Descriptive Decision Rule Mining for Revealing Multiple Aspects of Databases (データベースの多面的な解釈を与える記述的決定規則ルールマイニングに関する研究)
柳 田 拓 人	User Interface Architecture with Abstract Interaction Description (抽象インタラクション記述を用いたユーザ・インタフェース・アーキテクチャ)
博 士 (工 学)	
開 澤 拓 弥	シリコンナノドットアレイを用いた高機能単電子デバイスに関する研究
木 村 健	Characterization and Control of III-V Semiconductor Surfaces and Interfaces (III-V 半導体表面および接合界面の評価と制御)
博 士 (情報科学)	
佐 野 貴 之	フォトリフラクティブ効果による位相シフトを用いた多重ホログラムの選択的消去に関する研究
博 士 (工 学)	
塩 崎 奈々子	Control of surface Electronic States in GaN-and GaAs-based Nanostructures (GaN および GaAs ナノ構造の表面電子準位制御)
博 士 (情報科学)	
岡 田 健 吾	マイクロバブルとパルス超音波を用いたソノポレーションの発生機序に関する研究
郭 凱 俊	Development and applications of an instrument for imaging of muscle oxygenation using spatially resolved near-infrared spectroscopy (空間分解近赤外分光法を用いた筋組織酸素濃度イメージング装置の開発とその応用)
博 士 (工 学)	
高 木 一 人	生体透視イメージングのための光散乱抑制法の開発
博 士 (情報科学)	
西 島 喜 明	Spectroscopic Studies of Opal and Inverse Opal Photonic Crystals (微粒子集積型小構造の光学的性質に関する研究)
秋 保 政 一	適応アルゴリズムを用いた自動車室内の音響および騒音の制御に関する研究
酒 井 雅 裕	Web3D におけるシェーディング言語を用いたレンダリング画質向上手法の研究
鈴 木 謙 一	光アクセスシステムにおける大容量・広域化技術の研究

博士学位記授与

博 士 (工 学)	
東 中 雅 嗣	複数アンテナを用いた広帯域デジタル無線通信における高度受信信号処理に関する研究
ニッ森 俊 一	高温超伝導マイクロ波送信リアクションフィルタと高度非線形ひずみ特性評価法に関する研究
松 原 裕	2次高調波注入法に基づいたマイクロ波電力増幅器用高効率線形化技術
博 士 (情報科学)	
遠 藤 維	A STUDY OF VIRTUAL ERGONOMIC ASSESSMENT USING DIGITAL HAND (デジタルハンドを用いた仮想エルゴノミック評価の研究)
西 村 悠 樹	非線形ダイナミカルシステムにおける固有値解析を用いた Lyapunov 関数の構築法に関する研究
濱 村 有 一	システム L S I 製造における歩留り管理・向上手法に関する研究
博 士 (工 学)	
フェリペ カンベロ フランカ ピント	Evolutionary Design of Electromagnetic Systems Using Topology and Parameter Optimization (トポロジー最適化とパラメータ最適化による電磁システムの進化論的設計)
博 士 (情報科学)	
溝 口 知 広	Algorithms for Advanced Feature Recognition on Scanned Meshes of Engineering Objects (工業製品計測メッシュの高度フィーチャ認識アルゴリズム)
博 士 (工 学)	
李 媛	A Study on Self-matching Based Robust Focus Measure (自己照合に基づくロバスト合焦法に関する研究)
博 士 (水産科学)	
イ ニョマン ラディアータ	Spatial Modeling for Sustainable Aquaculture Development of Japanese Scallop, <i>Mizuhopecten yessoensis</i> , in Funka Bay, Southwestern Hokkaido, Japan: A Satellite Remote Sensing and Geographic Information System Approach (噴火湾におけるホタテガイの持続可能な増養殖発展のための空間モデリング：衛星リモートセンシングと地理情報システム (GIS) によるアプローチ)
金 惠 仙	Ecological and physiological studies of euphausiids in the Oyashio region, western subarctic Pacific (西部北太平洋親潮域におけるオキアミ類の生理・生態学的研究)
米 山 和 良	バイオテレメトリーによるコイの出現測定と遺伝的アルゴリズムを用いた出現に影響を与える環境要因の評価に関する研究
後 藤 常 夫	初期生態から見たスルメイカ秋季発生群の再生産構造に関する研究
鶴 岡 理	Phylogenetic systematics of the cottid fishes of <i>Icelus gilberti</i> species complex (Perciformes: Cottoidei) (カジカ科ダルマコオリカジカ種群 (スズキ目カジカ亜目) の系統分類学的研究)
西 森 靖	マルチビームエコー積分法を用いた計量スキニングソナーの開発と魚量計測手法に関する研究
平 岡 優 子	北海道南西部太平洋水域におけるソウハチ仔魚の生残過程
山 名 裕 介	マナマコの資源生物学的研究
東 剛 己	ドコサヘキサエン酸 (DHA) とリノール酸の水系での酸化機構に関する研究
木 下 康 宣	酸素濃度調節によるスルメイカおよび多種水産物の高鮮度保持技術に関する研究
金 亨 竣	A Novel Immunization Method for Protection of Rainbow Trout from Infectious Hematopoietic Necrosis Virus (IHNV) (新しい免疫手法による伝染性造血器壊死症ウイルスの防除に関する研究)
洪 磊	Immunochemical and molecular biological studies of choriogenin in red lip mullet (<i>Chelon haematocheilus</i>) (メナダのコリオジェニンに関する免疫生化学的および分子生物学的研究)

- 粉 川 倫 記 ウイルス性神経壊死症におけるウイルス混合感染の重要性とその対策
バゲンダ Characterization and application of a bacteriocin, Pediocin Iz3.13, produced by *Pediococcus pentosaceus* Iz3.13 isolated from Japanese seafood
カスツジャ (水産食品由来 *Pediococcus pentosaceus* Iz3.13の産生するバクテリオシン Pediocin Iz3.13
ドミニク の特性とその応用)
- 福 井 洋 平 Ecology of abalone pathogenic *Vibrio harveyi* in aquaculture environments
(アワビ養殖環境における *Vibrio harveyi* の生態に関する研究)
- 山 本 幸 弘 ホスホリパーゼを用いた機能性化合物のリン脂質誘導化法に関する研究
吉 川 廣 幸 性転換クロノドジョウを用いた非還元配偶子形成機構に関する研究
稲 川 亮 Comparative Morphology and Phylogenetic Systematics of Fishes of the Genus *Artediellus*
and its Relatives (Perciformes: Cottidae)
(オキカジカ属およびその近縁群比較形態学および系統分類学的研究)

博 士 (環境科学)

- 川 口 悠 介 Ice-Ocean Coupled Systems Driven by Wind Forcing
(風により駆動される海水海洋結合システムの研究)
- 井 田 崇 Resource utilization patterns of understory herbs in cool-temperate deciduous forests
(冷温帯落葉広葉樹林における林床植物の資源利用様式)
- 宮 崎 智 史 Regulatory Mechanisms of the Alternative Developmental Pathway in ants: Caste and Sexual
Differentiation
(アリ類における選択的な発生経路の調節機構：カースト分化と性分化)
- 東 條 卓 人 Studies on control of leaf cell cycle and its expansion by Arabidopsis transcriptional
co-activator, AtMBF1
(シロイヌナズナ転写コアクチベーター AtMBF1による葉の細胞の周期および肥大成長の
調節に関する研究)
- 東 岡 由里子 Analysis of microbial community structure and isolation of novel sulfate-reducing
bacteria, in relation to the petroleum hydrocarbon degradation
(石油系炭化水素分解に関与する微生物群集構造の解析と新規硫酸還元菌の分離)
- 小森田 智 大 亜寒帯汽水湖(火散布沼)における懸濁物食二枚貝(アサリ: *Ruditapes philippinarum*)
の個体群動態が親生物元素(C, N, P, Si)の循環過程に及ぼす影響
- ジュリアス Influence of riverine nutrient fluxes on primary production dynamics in Ishikari Bay, sub-
arctic oligotrophic coastal environment of Japan
イブクン (貧栄養性亜寒帯沿岸域の石狩湾における基礎生産動態に及ぼす河川起源栄養塩の影響評価)
アブウアラ
- 杉 江 恒 二 Studies on the ability of iron storage and resting spore formation in the coastal marine di-
atoms
(沿岸性珪藻の鉄貯蔵能および休眠胞子形成能に関する研究)
- イレバ ニーナ Environmental study on hydrochemistry in the Teshio watershed
ヨータノバ (天塩川流域における水質化学に関する環境科学的研究)
- 日 野 貴 文 Disturbance effect on diversity of understory vegetation through resource availability and
herbivores.
(攪乱が資源と植食者を介して林床植物の多様性に与える影響)
- 張 一 *In situ* Investigation of Electrode/Solution Interface by Infrared Spectroscopy
赤外分光法による電極溶液界面のその場研究
- 張 晋 Catalytic Conversion of Butenes over Acid-Strength- and Amount-Controlled
Silica-Supported 12-Tungstosilicic Acid
(酸強度と酸量が制御されたシリカ担持12-タングストケイ酸触媒によるブテン転化反応
に関する研究)

博士学位記授与

田 野 千 春	Studies on preparation and molecular recognition property of sugar-based anionic surfactant library (アニオン性糖質界面活性剤ライブラリーの調製と分子認識に関する研究)
村 上 嘉 崇	金属クラスター／金属ポルフィリン錯体複合系による酸化触媒反応に関する研究
カムレス アワスティ	Effects of Electric Field and Magnetic Field on Photoluminescence in Photoinduced Electron Transfer Systems (光誘起電子移動系フォトルミネッセンスへの電場、磁場効果)
博 士 (地球環境科学)	
鈴木(田畑)あずさ	Physiological and Morphological Responses of <i>Betula ermanii</i> to Environmental Stress (環境ストレスに対するダケカンバの生理的・形態的応答)
大 竹 秀 明	Formation and maintenance processes of a thick cloud band over the northern part of the Sea of Japan during the cold air outbreaks (冬季日本海北部に発生する太い筋雲の形成・維持機構)
博 士 (理 学)	
廣 瀬 大 輔	On F-thresholds and F-jumping coefficients (F-閾値とF-跳躍数に関して)
秋 山 龍 人	Development of Metal-Phosphine Complex Monolayer Catalyst on Gold Surface (遷移金属－ホスフィン錯体金表面単分子層触媒の開発)
上 原 広 充	Two-dimensional Assembly of Dinuclear Metal Complexes on a Gold (111) Surface and Their Application for Electrocatalysis (複核金属錯体の金(111)表面上への二次元集積とその電極触媒への応用)
神 谷 亮 介	Design of artificial ligand-appended polymers for non-covalent modification of cell surface (非共有結合型細胞表層修飾のための人工リガンド提示ポリマーの分子設計)
小 西 達 也	Fabrication, Characterization and Control of Single Atom and Molecule Junctions (単原子・単分子接合の作製、物性評価および物性制御)
瀧 本 麦	Studies on Single Molecule Diffusion in Confined Space (微小空間における単一分子拡散に関する研究)
福 平 由佳子	Study of Honeycomb-patterned Films for Medical Devices (医療用ハニカム構造フィルムに関する研究)
峯 廻 洋 美	Crystal Design Utilizing the Self-Organizing Property of Mellitate and Development of Novel Functional Molecular Materials (メリト酸アニオンの自己集合能を利用した結晶設計と新規機能性分子性物質の開発)
呂 怀 盛	Mechanisms and functions of the <i>Helicobacter pylori</i> CagA-PAR1 polarity-regulating kinase interaction (ヘリコバクター・ピロリ CagA-PAR1 極性制御キナーゼ相互作用機構とその機能)
川 崎 郁 斗	Magnetic Clustering and Non-Fermi-Liquid Behavior Accompanying Suppression of Long-Range Ferromagnetic Order in $\text{CePt}_{1-x}\text{Rh}_x$ ($\text{CePt}_{1-x}\text{Rh}_x$ における強磁性長距離秩序の抑制に伴う磁気クラスター形成と非フェルミ液体異常)
近 藤 佳 之	Single-Particle and Collective Modes of Weakly Interacting Condensed Bose Gases within a Conserving Gapless Mean-Field Theory (Conserving Gapless な平均場理論による弱結合 Bose 凝縮系の個別励起と集団励起)
ムハマド サイド	^{27}Al and ^{11}B NMR Studies of a Two-Band Superconductor $\text{Mg}_{1-x}\text{Al}_x\text{B}_2$ (^{27}Al および ^{11}B 核磁気共鳴法による 2 バンド超伝導体 $\text{Mg}_{1-x}\text{Al}_x\text{B}_2$ の研究)
陶 山 徹	Numerical Simulation of Growth of Dust Aggregates in Protoplanetary Disks: A New Model of Density Evolution (原始惑星系円盤におけるダスト成長の数値計算：新たな密度進化モデル)

- 椿 原 康 介 Hypernuclear States and Hadronic Star Matter in an RMF Model with Chiral SU (3) Logarithmic Potential
(ハイペロンを含む有限、無限系へのカイラル対称な RMF 模型の適用)
- 阿 部 雄 太 結合レイリー振動子系の数値的解析と地震活動シミュレーターとしての応用
- 江 端 新 吾 Presolar Grains in Primitive Enstatite Chondrites
(始原的エンスタタイトコンドライトにおけるプレソーラー粒子)
- 岡 野 和 貴 Organic biogeochemical study on mid-Cretaceous Oceanic Anoxic Event 1a and 1b in Vocontian Basin, SE France
(南東フランス・ボコンチアン堆積盆における中期白亜紀海洋無酸素事変 1a および 1b の生物地球化学的研究)
- 野 口 科 子 地震記録に基づく表層地盤の非線形応答に関する研究
- 町 田 祐 弥 Crustal structure of the southernmost Kuril Trench of Hokkaido, Japan, by seismic tomography and Airgun-OBS profiling
(地震波トモグラフィー、およびエアガン- 海底地震計を用いた構造探査により明らかになった千島海溝南部の地殻構造)
- 山 谷 洋 樹 Basic Research on Composition Concept and Measurement Standard of the Idea of Life in Science Education
(理科教育における生命観の構成概念と測定尺度に関する基礎的研究)
- 高 道 学 Study of Ice Growth Inhibitory Ability of Isoforms of Type III Antifreeze Protein
(III 型不凍タンパク質異性体の氷結晶成長抑制能に関する研究)
- 野 中 康 宏 Studies on the Structural Stability of C-type Lysozyme
(C 型リゾチームの構造安定性に関する研究)
- 室 崎 喬 之 Study on antifouling properties of hydrogels against barnacles
(フジツボに対するゲルの付着阻害性に関する研究)
- 黒 田 紘 敏 Mathematical Analysis of Singular Diffusion Equations with Constraints
(束縛条件つきの特異拡散方程式に関する研究)
- 斉 藤 準 Formulation of Supersymmetry on a Lattice as a Representation of a Deformed Superalgebra
(変形された超対称代数の表現としての格子上の超対称性の定式化)
- 竹 山 幸 作 Scanning tunneling microscopy studies on the spatially inhomogeneous pseudogap and electronic charge order of high- T_c cuprate-superconductor $\text{Bi}_2\text{Sr}_2\text{CaCu}_2\text{O}_{8+\delta}$
(走査トンネル顕微鏡法による高臨界温度銅酸化物超伝導体 $\text{Bi}_2\text{Sr}_2\text{CaCu}_2\text{O}_{8+\delta}$ の空間的に不均一な擬ギャップと電子系電荷秩序に関する研究)
- 福 永 正 則 Soft Mode and Relaxational Behavior in Two-Dimensional Ferroelectric Bi-Layered Perovskites
(2次元性層状ペロフスカイト強誘電体におけるソフトモードと緩和的挙動に関する研究)
- 森 下 明 Systematic Study of Crystalline-Electric-Field Effects in Dilute Magnetic Systems $\text{La}_{1-x}\text{R}_x\text{Ru}_2\text{Si}_2$ (R: Rare earths; $x \leq 0.1$)
(磁性希釈極限系 $\text{La}_{1-x}\text{R}_x\text{Ru}_2\text{Si}_2$ (R: 希土類; $x \leq 0.1$) における結晶場効果の系統的研究)
- 山 梨 顕 友 Free rider stability of Lindahl equilibria under negative monotone preferences
(負外部性公共財を含む経済のリンダー均衡におけるフリーライダー安定性に関する研究)
- 河 村 高 志 Structural study of mannosylglycerate synthesis pathway of *Pyrococcus horikoshii* OT3
(超好熱古細菌 *P. horikoshii* マンノースグリセリン酸合成経路の構造生物学的研究)
- 近 藤 紀 康 Characterization and regulation of dynamic mechanism in protein phosphorylation by kinases
(プロテインキナーゼによるタンパク質リン酸化の機能解明と制御に関する研究)
- 石 井 英 一 北海道中軸部における後期鮮新世～前期更新世の大規模珪長質噴火に関する研究

博士学位記授与

今 山 武 志	Tectono-thermal evolution in the Far-Eastern Nepal Himalaya: petrological and geochronological studies (極東ネパールヒマラヤにおける構造—温度発達史：岩石学および地球年代学的研究)
椎 根 大	Diatom biomarkers during the Eocene-Oligocene transition in the North West Pacific region (北西太平洋域における始新世—漸新世境界期の珪藻バイオマーカー)
博 士 (農 学)	
岡 崎 圭 毅	Metabolites profiling concerning nitrogen nutrition for improving crop quality of <i>Spinacia oleracea</i> L. (メタボリックプロファイリングによるホウレンソウの品質向上を目指した研究)
清水池 義 治	原料乳市場構造の変化メカニズムに関する研究—乳業資本および生乳生産者団体の市場行動に着目して—
瀬 戸 義 哉	植物の病傷害ストレス抵抗に関する情報伝達物質の構造と生成機構
楊 清 関	台湾中小型マグロ延縄漁業における生鮮マグロ・エージェントの構造に関する研究
ラスポン アルニヤデ	The Roles of Irrigation Water Charges in Communal Managed Irrigation System in Laos (ラオスの農業水利組織における灌漑水利料金の役割)
アキール ランジャン パルア	Genetic studies on cold tolerance at the early growth stage in Asian cultivated and wild rice with special reference to adaptation (アジア栽培および野生イネにおける生育初期の低温抵抗性とその適応性に関する遺伝学的研究)
厚 兄 剛	感受性植物におけるウイルスの強毒性発現機構の研究
内 山 貴 子	植物トランスポゾンと宿主ゲノムの間で構築された遺伝機構に関する研究
上 床 修 弘	Genetic studies on adaptive diversification of flowering time in rice (イネ出穂性の適応分化に関する遺伝育種学的研究)
金 丸 京 平	ダイズの高ルテイン含量形質の遺伝解析およびその育種利用に関する研究
北 崎 一 義	テンサイ Owen 型細胞質雄性不稔性における花粉稔性回復機構の解明
原 田 玄 輝	アズキ茎疫病に対するアズキの抵抗性機構に関する研究
黄 太 暎	Studies on genetic diversity and linkage map of soybean for applied breeding (ダイズにおける遺伝的多様性及び分子連鎖地図に関する研究)
藤 田 龍 介	哺乳動物細胞におけるバキュロウイルスの遺伝子発現抑制
石 川 浩 平	メタノール資化性菌 <i>Methylophilus methylotrophus</i> を用いた L-lysine 生産菌としての育種およびフェドバッチ培養法の確立
石 田 訓 子	組換え酵素を用いた <i>Mycoplasma fermentans</i> 特異的糖脂質 Glycoglycerophospholipid の合成
片 山 泰 樹	Studies on Microorganisms Preserved within Permafrost Ice Wedge in Alaska. (アラスカ永久凍土氷楔中の微生物に関する研究)
重 富 顕 吾	6-Tuliposide B の全合成並びに構造活性相関研究
竹 末 信 親	オリゴ糖 DFA IV の <i>Bacillus subtilis</i> による 1 菌株生産系の構築
松 野 敏 英	Biochemical properties and physiological function of cytochrome c-552 from alkaliphilic <i>Pseudomonas alcaliphila</i> AL15-21 ^T (好アルカリ性細菌 <i>Pseudomonas alcaliphila</i> AL15-21 ^T のシトクロム c-552 の生化学的特徴および生理学的機能に関する研究)
郭 桂 芬	毛管現象の遮断によるアルカリ土壌の改良
金 錫 宇	Sediment transport and morphodynamics in a mountainous bedrock stream (山地岩盤河川における土砂移動及び地形動態に関する研究)
高 田 雅 之	泥炭地湿原の水文土壌変動特性と空間構造評価
南 里 智 之	現地情報解析による火山泥流の流下・氾濫特性に関する研究
ニザル サイド ジャベル	ENGINE CONTROLLER FOR BIOGAS-DIESEL DUAL FUEL TRACTOR (バイオガス—軽油二燃料トラクタ機関の制御法に関する研究)

大 竹 正 枝	積雪寒冷地の福祉および医療施設における園芸療法の利用に関する基礎的研究
菊 地 貴	ハイブッシュ・ブルーベリー植物体における耐凍性変動と低温遭遇により蓄積するタンパク質の研究
寺 澤 秀 和	木材多糖を架橋した育苗容器用紙の開発とその育苗評価
渡久地 朝 央	農村景観の評価に関する実証分析 ―北海道の農村を事例に―
中久保 亮	家畜ふん尿のメタン発酵における副資材の発酵特性に関する研究
ニョマン スワルタ	Study on Cohesive Soil Erosion in Steeply Sloping Cultivated Field of Humid-Tropic Indonesia (インドネシア国ジャワ島ムリチャダム上流域での粘性土急勾配畑地を対象とした土壤浸食速度に関する研究)

博 士 (生命科学)

上 島 達 朗	Folding Regulation of Globular Protein Leads to a Novel Biological Function (タンパク質のフォールディング制御と新機能発現)
岩 井 優 和	Molecular Mechanisms of Photosynthetic State Transitions ― Molecular Dynamics of Photosystem Protein Supercomplexes ― (光合成ステート遷移の分子機構)
酒 井 千 春	Analyses of mitosis and meiosis in the medaka fish (<i>Oryzias latipes</i>) using interspecific hybrids and a newly developed in vitro male germ cell culture system (種間雑種と新規雄性生殖細胞培養系を用いたメダカ体細胞分裂および減数分裂の解析)
アイマン エルサイエド モハメド アハメド モハメド	Mechanism-Based Development of Peptide-Modified Nanoparticles for Intracellular Delivery of Nucleic Acids (機能性核酸の細胞内動態制御を指向した機構論に基づいたペプチド修飾ナノ粒子の開発)
落 合 浩 史	外来遺伝子の silencing 機構の解析と持続発現型DNA開発への展開
鹿 島 健	アルキルペンタセン類の合成および芳香族互変異性化反応
河 野 高 徳	Alcadein α による kinesin-1 活性化機構の解析
齋 藤 有 紀	X11 proteins の生理機能解析～X11/ X11 L doubly deficient mice の作成と解析～
佐久間 めぐみ	Alcadein の細胞内輸送を制御するアダプタータンパク質X11LおよびKLCの機能解析
菅 野 幸 人	カルボニルイリドの分子内 1, 3 -双極付加環化反応を機軸とするポリガロリド類およびプラテンシマイシンの全合成研究
鈴 木 哲 矢	酸化損傷スクレオチド誘発変異の塩基除去修復蛋白質による抑制
田 中 正 彦	ロジウム (II) 錯体を用いるシリルエノールエーテルの不斉アミノ化反応の開発と生物活性含窒素化合物の触媒的不斉合成に関する研究
増 田 智 也	細胞内動態制御による遺伝子ナノキャリアの機能性充進と肝臓を標的とした遺伝子デリバリーへの応用
水 丸 智 絵	DHHCファミリータンパク質AIDによるAPP代謝抑制機構の解明
森 口 留美子	革新的ワクチンの創製を目指したデリバリーシステムの機能解析と癌免疫療法への展開
山 崎 哲 郎	10族遷移金属触媒によるアリル型中間体の生成を機軸としたカップリング反応の開発

論文博士

博士(教育学)	
竹 田 唯 史	スキー運動における技術指導に関する研究ー初心者から上級者までの教授プログラムー
博士(医学)	
井戸坂 弘 之	Fibrin Matrix Provides a Suitable Scaffold for Bone Marrow Stromal Cells Transplanted into Injured Spinal Cord:A Novel Material for CNS Tissue Engineering (フィブリンは脊髄損傷部位への骨髄間質細胞移植における適切な足場となるー中枢神経組織工学の新たな材料としてー)
内 山 也 寸 志	Anti-IL-6 receptor antibody increases blood IL-6 level via the blockade of IL-6 clearance, but not via the induction of IL-6 production (抗IL-6レセプター抗体投与後の血中IL-6濃度の上昇はIL-6産生誘導ではなくIL-6のクリアランス阻害を介する)
野 矢 洋 一	ディーゼル排気粒子に含まれる心・血管作用原因物質の探索と単離, 定量に関する研究
朴 秀 賢	Glucocorticoids and lithium reciprocally regulate the proliferation of adult dentate gyrus-derived neural precursor cells through GSK-3 β and β -catenin/TCF pathway (グルココルチコイドとリチウムはGSK-3 β と β -catenin/TCF pathwayを介して成体海馬歯状回由来神経前駆細胞の増殖を相反的に調節する)
森 一 茂	Novel models of cancer-related anemia in mice inoculated with IL-6-producing tumor cells (IL-6産生腫瘍株移植マウスを用いた新規癌性貧血モデルに関する研究)
森 山 隆 則	腫瘍産生シアルリ唾液型アミラーゼに関する研究
涌 波 満	Families' Acceptance of Near Death:A Qualitative Study of the Process for Introducing End-of-Life Care (高齢者終末期状態に対する家族の受容プロセスに関する質的研究)
博士(歯学)	
高 師 則 行	Inflammatory Exudates Modulate the Function and Apoptosis of Neutrophils (炎症性滲出液は, 好中球の機能とアポトーシスを調節する)
博士(薬学)	
藤 岡 優 子	オートファジーに必須な Atg 結合系の構造機能解析
博士(工学)	
藤 田 祐	トラック運送システムにおける輸送効率向上方策に関する研究
宗 廣 一 徳	ドライバーの認知特性を考慮した2車線道路の走行性評価に関する研究
橋 本 至	道路橋の地震応答特性に与える杭基礎の群杭効果の影響に関する研究
博士(情報科学)	
外 石 満	Analysis of Holographic Data Storage Medium and Recording Method for Practical Application (ホログラフィックメモリの実用化に向けたフォトポリマメディアと記録方式の研究)
大 塚 明 香	音楽の構造的聴取に伴う聴覚性脳磁界活動の変調
博士(水産科学)	
バスカル ナラヤン	Lipids of tropical and temperate seaweed species with special reference to conjugated fatty acids and food applications (共役脂肪酸の探索と食品への利用を目的とした熱帯及び温帯海域での海藻脂質に関する研究)
博士(環境科学)	
大西(宮崎)祐子	Reproductive traits and allocation of resources for reproduction in perennial plants during mass flowering (多年生植物の大量開花時における繁殖特性と繁殖器官への資源分配)

川 上 創	放射性核種を用いた北西部北太平洋における生物ポンプ能力評価に関する研究
博 士 (理 学)	
植 松 季 栄	Glycoform-focused reverse genomics of skin (皮膚のグライコフォームフォーカスドリバースゲノミクス)
博 士 (農 学)	
稲 野 一 郎	直播てんさいの出芽率向上のための耕うん・鎮圧技術に関する研究
大 橋 義 徳	北海道産人工材料を用いた木質 I 形梁の材料特性と構造設計に関する研究
白 井 康 裕	発展段階を踏まえた野菜産地の管理手法に関する研究—北海道における野菜産地を事例に—
平 岡 陽 介	生体組織の再生を誘導するスキャフォールドに関する研究—生体吸収性繊維補強コラーゲンスポンジの特性—
石 橋 英 二	水稻の不耕起直播栽培における温室効果ガスの発生実態の解明と削減技術の開発
杉 本 昌 仁	肉用牛に対する尿素処理ジャガイモデンプン粕サイレージの利用法に関する研究
牛 田 吉 彦	ウシ α -ラクトアルブミンの胃粘膜保護作用に関する研究
飯 嶋 渡	メタノリシス反応と熱分解を併用した軽油代替バイオ燃料製造技術の開発
岩 田 幸 良	火山灰土畑における積雪・土壤凍結期間の土壤水分移動
草 佳 那 子	北海道の灰色低地土および黒ボク土の畑における亜酸化窒素の生成・放出の比較
森 昭 憲	草地土壤の温室効果ガス・シンク・ソース機能に関する研究

表 敬 訪 問

〈海外〉

月 日	来 訪 者	目 的
21. 3. 4	ボゴール農業大学一行	学術交流に関する意見交換
21. 3.11	上海師範大学 陸 健非 副学長	学術交流に関する意見交換
21. 3.16	アジア工科大学 Lal Samarakoon 地域情報学センター長	両大学の交流に関する懇談
	チュラロンコン大学一行	両大学の交流に関する懇談
21. 3.30	パランカラヤ大学 Kumpiady Widen 学術担当副学長	共同研究に関する懇談
21. 3.31	教育部公共管理学教学指導委員会代表团一行	本学公共政策大学院視察



ボゴール農業大学一行



上海師範大学 陸 健非 副学長(前列右側)



アジア工科大学 Lal Samarakoon 地域情報学センター長 (左から2人目)



チュラロンコン大学一行



パランカラヤ大学 Kumpiady Widen 学術担当副学長(右から2人目)。



教育部公共管理学教学指導委員会代表团一行

(学術国際部国際企画課)

同窓会との交流

函館同窓会総会・懇親会

3月25日（水）に函館市のホテル函館ロイヤルにおいて北海道大学函館同窓会総会・懇親会が開催され、本学から佐伯総長，脇田副学長が出席しました。

当日は49名の参加者があり，懇親会では羽田野六男会長の挨拶に始まり，佐伯総長，脇田副学長から「北大の現状」を交えた挨拶を行いました。原水産科学研究院長の発声による乾杯の後，参加者との懇親を行いました。水産学部オーケストラの演奏の他，最後に参加者全員が輪になって肩を組み寮歌「都ぞ弥生」を歌い，盛会の裡に終了しました。



挨拶する佐伯総長



挨拶する脇田副学長



談笑する佐伯総長（中央），原学部長（左）
及び清水講師（右）

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

諸会議の開催状況

役員会（平成21年 3 月 9 日）

- 議 案・画一的職種区分にとらわれない職種の設定について
- ・ポイント制教員人件費管理システムについて
 - ・「第2期中期目標期間におけるプロジェクト支援の在り方について（案）」に関する本学の取扱いについて
 - ・危機管理体制について
 - ・OCW事業の継続について
 - ・「北海道地区大学等FD・SDネットワーク」への参加について
- 協議事項・平成21年度年度計画（案）について
- ・共同利用・共同研究拠点の認定申請について
 - ・創成研究機構の設置について
 - ・特定大学技術移転事業の業務実施体制の整備に伴う承認申請と道内他大学との連携協定の締結について
 - ・（独）産業技術総合研究所との連携協力協定について
 - ・国立大学法人北海道大学国際産学官連携ポリシーの制定について
 - ・筑波大学との教育改善に関する協定の締結について
 - ・平成21年度収支・支出予算書（案）について
 - ・留学生専門教育教員の取扱いについて
 - ・諸規則の制定及び改正について
- 報告事項・中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果（原案）について
- ・連携分野の設置について
 - ・第5回「九州大学との合同活動報告会」のテーマについて
 - ・北大R&BP構想（SCOE）について
 - ・目的積立金を活用して対応する事業について
 - ・事務組織の見直しについて

教育研究評議会（平成21年 3 月18日）

- 議 題・名誉教授の選考について
- ・平成21年度年度計画（案）について
 - ・共同利用・共同研究拠点の認定申請について
 - ・創成研究機構（仮称）の設置について
 - ・特定大学技術移転事業の業務実施体制の整備に伴う承認申請と道内他大学との連携協定の締結について
 - ・（独）産業技術総合研究所との連携協力協定について
 - ・国立大学法人北海道大学国際産学官連携ポリシーの制定について
 - ・筑波大学との教育改善に関する協定の締結について
 - ・高等教育機能開発総合センター長補佐の選出について
 - ・学生募集単位および学生編成の改革に関する基本方針について
 - ・大学間交流協定の新規締結について
 - ・留学生専門教育教員の取扱いについて
 - ・平成21年度収入・支出予算書（案）について
 - ・諸規則の制定及び改正について
- 報告事項・役員の職務分担及び役員補佐の任命等について
- ・全学運用教員の措置について
 - ・人材育成部長の指名について
 - ・連携分野の設置について
 - ・OCW事業の継続について
 - ・寄附講座等の設置について

諸会議の開催状況

役員会（平成21年 3 月23日）

議 案・平成21年度年度計画（案）について

- ・創成研究機構（仮称）の設置について
- ・特定大学技術移転事業の業務実施体制の整備に伴う承認申請と道内他大学との連携協定の締結について
- ・（独）産業技術総合研究所との連携協力協定について
- ・国立大学法人北海道大学国際産学官連携ポリシーの制定について
- ・筑波大学との教育改善に関する協定の締結について
- ・平成21年度収入・支出予算書（案）について
- ・留学生専門教育教員の取扱いについて
- ・諸規則の制定及び改正について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・教員の高年齢者雇用安定法に基づく対応について
- ・共同利用・共同研究拠点の認定申請について
- ・北海道ティー・エル・オー株式会社からの特許権等の買取りについて
- ・学生募集単位および学生編成の改革に関する基本方針について
- ・国際交流事業基金の活用について
- ・北海道地区国立大学法人の教員免許状更新講習における事務の共同実施に関する協定について
- ・国立大学法人北海道大学役員会規程の一部改正について

協議事項・保健科学院保健科学専攻博士後期課程の設置構想について

報告事項・平成22年度施設整備費概算要求学内ヒアリングについて

- ・北海道地区国立大学法人の資金運用の共同化（J ファンド）について
- ・事務改善について
- ・外国人留学生に係る事務体制の充実について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

学 内 規 程

国立大学法人北海道大学役員会規程の一部を改正する規程

(平成21年3月30日海大達第12号)

本学と役員会の構成員との利害が相反する事項その他の特別の利害関係のある事項については、構成員はその議事に加わることができないことについて明確にすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学自家用電気工作物保安規程の一部を改正する規程

(平成21年3月30日海大達第13号)

国立大学法人北海道大学水産学部等の施設に係る自家用電気工作物保安規程の一部を改正する規程

(平成21年3月30日海大達第14号)

本年3月31日限りで低温科学研究所(雪崩観測実験室)の自家用電気工作物を廃止すること、並びに4月1日付けで水産学部等の施設の自家用電気工作物の保安業務のための巡視、点検等の基準を見直すこと及び事務組織の名称を変更することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。(平成21年4月1日施行)

国立大学法人北海道大学危機管理規程

(平成21年3月30日海大達第15号)

本学における危機管理体制を整備することに伴い、所要の定めを行ったものです。

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第17号)

本年4月1日付けで、①医学研究科に寄附講座を設置すること、②工学研究科に置く寄附講座を廃止すること、③理学院に連携分野を設置すること、④水産科学研究院に置く寄附分野を廃止すること、及び⑤保健科学研究院に寄附分野を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学知財・産学連携本部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第20号)

国立大学法人北海道大学知財・産学連携本部運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第21号)

国立大学法人北海道大学知財・産学連携本部知的財産審査会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第22号)

本年4月1日付けで、知財・産学連携本部を産学連携本部に改組し、これまで北海道TLO株式会社が行ってきた特定大学技術移転事業のうち、本学に係る技術移転事業を産学連携本部において行い、産学連携の強化を図ることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学人材育成本部規程

(平成21年4月1日海大達第23号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として人材育成本部を設置することに伴い、人材育成本部の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構規程

(平成21年4月1日海大達第24号)

国立大学法人北海道大学創成研究機構共用機器管理センター分析受託規程

(平成21年4月1日海大達第25号)

本年4月1日付けで、本学の運営組織として創成研究機構を設置することに伴い、創成研究機構の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

学 内 規 程

北海道大学入学者選抜委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年 4 月 1 日海大達第27号)

これまで、入学者選抜委員会においては、本学の学部の入学者選抜に関する事項のみ審議していましたが、大学院の入学者選抜に関し、委員長が必要と認める事項について審議することとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学21世紀C O E 推進会議規程を廃止する規程

(平成21年 4 月 1 日海大達第28号)

本年 3 月31日限りで文部科学省の21世紀C O E プログラム事業が終了することに伴い、所要の定めを行ったものです。

北海道大学通則の一部を改正する規則

(平成21年 4 月 1 日海大達第31号)

北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

(平成21年 4 月 1 日海大達第32号)

平成21年度からの授業料の納付の時期について、前期にあつては5月、後期にあつては11月に納付しなければならないとされているが、総長が特に必要と認めた場合には、納付の時期を延期する特別な措置を講ずることができるようにすること、及び平成21年度から医学部医学科の入学定員を増員することに伴い、所要の改正を行ったものです。

教育職員免許状授与の所要資格の取得に関する規程の一部を改正する規程

(平成21年 4 月 1 日海大達第34号)

本年 4 月 1 日付けで、工学研究科及び情報科学研究科の専攻において取得することができる教育職員免許状の種類を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学全学教育科目規程の一部を改正する規程

(平成21年 4 月 1 日海大達第36号)

本学の全学教育科目について、適切な教育効果を得るために授業科目の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院共通授業科目規程の一部を改正する規程

(平成21年 4 月 1 日海大達第37号)

本学の大学院共通授業科目について、適切な教育効果を得るために授業科目の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

(平成21年 4 月 1 日海大達第56号)

本年 4 月 1 日から、経済学研究科に採用する助教、医学研究科長付で採用する准教授及び講師並びに歯学研究科長付で採用する助教について、大学の教員等の任期に関する法律（平成 9 年法律第82号）第 4 条第 1 項第 1 号又は同項第 2 号の規定に基づき任期を定めること、遺伝子病制御研究所感染癌研究センターに採用する助教の再任に関する事項を改めること、任期を定めて採用する教員の職等からエネルギー変換マテリアル研究センターエネルギー変換システム設計分野の准教授を削ること並びに創成科学共同研究機構を創成研究機構に改組することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日海大達第50号)

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日海大達第51号)

国立大学法人北海道大学短時間勤務職員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日海大達第52号)

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日海大達第53号)

国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日海大達第54号)

国立大学法人北海道大学嘱託職員就業規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日海大達第55号)

国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第63号)

国立大学法人北海道大学船員労働時間、休日及び休暇規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第64号)

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第65号)

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第66号)

国立大学法人北海道大学特任教員及び契約職員退職手当規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第67号)

①1日の所定労働時間を8時間から7時間45分に短縮すること、②1週間当たりの所定労働時間を40時間から38時間45分に短縮すること、③1日の所定労働時間を短縮することに伴い、終業時刻及び勤務時間の割振を改めること、④休息時間を廃止すること、⑤特別休暇の「証人等の休暇」の要件に、裁判員を加えること、⑥所定労働時間の短縮に伴い、勤務1時間当たりの給与額の算出方法に係る規定を改めること、⑦南緯55度以南の区域において南極地域観測に関する業務に従事したときに支給する極地観測手当について、国から当該手当に相当する額が当該職員に直接支給される場合には、当該手当を支給しないこととすること、及び⑧高度の専門性を有する業務に従事する職員に係る「専門職」の職群を設けることに伴い、一般職基本給表(A)及び教育職基本給表を適用させる職員に、専門職の職群に属する職員を加えること、に伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第88号)

本年4月1日付けで、インターナショナルハウスの使用料の額を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学百年記念会館規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第89号)

国立大学法人北海道大学学術交流会館規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第90号)

国立大学法人北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第91号)

国立大学法人北海道大学遠友学舎規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第92号)

百年記念会館、学術交流会館、ファカルティハウス「エンレイソウ」及び遠友学舎について、使用基準を改めること、並びに使用料について、特別な事情がある場合は後納とすることができることを規定上明確にすることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学臨時入構車両規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第94号)

環境対策を目的として、本学の札幌キャンパス構内に入構する車両の抑制を図るための対策を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学文学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第95号)

北海道大学教育学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第96号)

北海道大学法学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第97号)

北海道大学経済学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第98号)

北海道大学理学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第99号)

北海道大学医学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第100号)

北海道大学歯学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第101号)

北海道大学薬学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第102号)

北海道大学工学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第103号)

北海道大学農学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第104号)

北海道大学獣医学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第105号)

北海道大学水産学部規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第106号)

本学の各学部において、適切な教育効果を得るために、教育課程の整備及び充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院法学研究科規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第107号)

北海道大学大学院医学研究科規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第108号)

北海道大学大学院工学研究科規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第109号)

北海道大学大学院獣医学研究科規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第110号)

北海道大学大学院情報科学研究科規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第111号)

北海道大学大学院生命科学院規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第113号)

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第114号)

本学大学院において、適切な教育効果を得るために、教育課程の整備及び充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第112号)

本学大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長の選考基準を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学低温科学研究所規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第115号)

本年4月1日付けで、低温科学研究所に副所長を置くことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学図書館委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第116号)

附属図書館に置かれている図書館委員会の、委員の構成を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学外国語教育センター規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第121号)

北海道大学外国語教育センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第122号)

これまで、全学教育科目の外国語教育を担当させるため、外国語教育センターに、情報基盤センターの教員を協力教員として置いていましたが、本年4月1日から、当該協力教員を置かずに、全学教育科目の外国語教育については、外国語教育センターの業務を兼務する教員のみで担当することとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第124号)

本学の学内共同教育研究施設等であるサステイナビリティ学教育研究センターのセンター長について、本学の専任の教授と同等の能力を有する本学の職員をもって充てることができることとするに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学トポロジー理工学教育研究センター規程

(平成21年4月1日海大達第125号)

北海道大学トポロジー理工学教育研究センター運営委員会規程

(平成21年4月1日海大達第126号)

本年4月1日付けで、本学に学内共同教育研究施設等としてトポロジー理工学教育研究センターを設置することに伴い、当該センターの組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日海大達第16号)

国立大学法人北海道大学総長室規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第18号)

国立大学法人北海道大学内部監査規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第19号)

国立大学法人北海道大学男女共同参画委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第26号)

北海道大学名誉学位規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第33号)

国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第40号)

学 内 規 程

- 国立大学法人北海道大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第41号)
- 北海道大学寄附講座等規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第42号)
- 国立大学法人北海道大学職務発明規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第43号)
- 国立大学法人北海道大学成果有体物取扱規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第44号)
- 北海道大学受託研究員規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第45号)
- 北海道大学私学研修員等受入れ規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第46号)
- 北海道大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第47号)
- 北海道大学中国・人材育成事業研修員規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第48号)
- 国立大学法人北海道大学動物実験に関する規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第49号)
- 国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第57号)
- 国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第58号)
- 国立大学法人北海道大学兼業審査会規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第59号)
- 国立大学法人北海道大学利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第60号)
- 国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第61号)
- 国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第62号)
- 国立大学法人北海道大学職員の懲戒の手続きに関する規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第68号)
- 国立大学法人北海道大学教員のサバティカル研修に関する規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第69号)
- 北海道大学客員教員規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第70号)
- 北海道大学招へい教員規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第71号)
- 国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第72号)
- 国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全管理規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第73号)
- 国立大学法人北海道大学病原体等安全管理規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第74号)
- 国立大学法人北海道大学放射線障害予防規程の一部を改正する規程
(平成21年4月1日海大達第75号)

国立大学法人北海道大学エックス線障害予防規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第76号)

国立大学法人北海道大学有害廃液取扱規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第77号)

国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第80号)

国立大学法人北海道大学情報公開規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第81号)

国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第82号)

国立大学法人北海道大学における個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第83号)

国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第84号)

国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第85号)

国立大学法人北海道大学固定資産管理規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第86号)

国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則

(平成21年4月1日海大達第87号)

国立大学法人北海道大学化学系研究設備有効活用ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第93号)

北海道大学アイソトープ総合センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第117号)

本年4月1日付けで、①運営組織として創成研究機構及び人材育成本部を設置すること、②知財・産学連携本部を産学連携本部に改めること、及び③学内共同教育研究施設等としてトポロジー理工学教育研究センターを設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学安全衛生委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第29号)

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第30号)

北海道大学短期留学プログラム規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第35号)

北海道大学職業紹介業務規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第38号)

北海道大学職業紹介業務に係る個人情報適正管理規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第39号)

北海道大学留学生センター規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第118号)

北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第119号)

北海道大学エネルギー変換マテリアル研究センター規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第120号)

北海道大学環境ナノ・バイオ工学研究センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第123号)

学 内 規 程

北海道大学環境保全センター規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第127号)

北海道大学環境保全センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第128号)

本年4月1日付けで、本学の事務組織を改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第78号)

国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程

(平成21年4月1日海大達第79号)

本年4月1日付けで、①運営組織として創成研究機構を設置すること、②知財・産学連携本部を産学連携本部に改めること、③学内共同教育研究施設等としてトポロジー理工学教育研究センターを設置すること、及び④本学の事務組織を改組することに伴い、所要の改正を行ったものです。



平成21年 3 月 9 日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員】 水産学部附属練習船おしよる丸三等航海士	星 直 樹	採用

平成21年 3 月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【主任】 財務部主計課主任 歯学研究科・歯学部主任	大 桃 琢 磨 水 上 真 吾	財務部主計課 歯学研究科・歯学部

平成21年 3 月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (定年)	南 部 昇 大 塚 龍 児 内 田 和 男 岩 崎 喜 信 池 川 昌 弘 繪 内 正 道 鍵和田 忠 男 工 藤 一 彦 山 下 幹 雄 上 田 正 生 佐 藤 義 治 大 内 東 三 浦 汀 介 高 橋 豊 美 仲 谷 一 宏 熊 谷 健 一 藤 野 清 志 笠 原 稔 服 部 昭 仁 島 崎 敬 一 出 村 克 彦 小 池 達 郎 加 茂 直 樹 矢 澤 道 生 須 田 勝 彦 小早川 護 大 平 具 彦 吉 田 徹 也 森 下 節 子 佐々木 隆 生 栗 城 眞 也 徳 本 洋 志 小野江 和 則 関 興 一 石 森 秀 三	大学院文学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院経済学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院工学研究科教授 大学院工学研究科教授 大学院工学研究科教授 大学院工学研究科教授 大学院工学研究科教授 大学院工学研究科教授 大学院情報科学研究科教授 大学院情報科学研究科教授 大学院水産科学研究院教授 大学院水産科学研究院教授 大学院水産科学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院先端生命科学研究院教授 大学院先端生命科学研究院教授 大学院先端生命科学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 大学院保健科学研究院教授 大学院公共政策学連携研究部教授 電子科学研究所教授 電子科学研究所附属ナノテクノロジー研究センター教授 遺伝子病制御研究所教授 アイソトープ総合センター教授 観光学高等研究センター教授

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(辞職)	伊 藤 誠 一 中 山 博 之 近江谷 克 裕 STAPLETON ROBERT PAUL	大学院法学研究科教授 大学院法学研究科教授 大学院医学研究科教授 大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
【准教授】 (定年) (任期满了) (辞職)	田 川 義 繼 黒 木 幹 男 高 波 鐵 夫 石 川 信 敬 野 田 真 人 阿波根 直 一 祖 田 亮 次 小 林 隆 彦 片 桐 成 二 山 内 康一郎 石 動 善 久 多 田 光 宏 嘉 屋 俊 二 池 田 亮 坪 井 由 実 片 山 順 一 岩 田 美 香	大学院医学研究科准教授 大学院工学研究科准教授 大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授 低温科学研究所准教授 北方生物圏フィールド科学センター准教授 大学院理学研究院准教授 大学院文学研究科准教授 医学部准教授 大学院獣医学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 遺伝子病制御研究所准教授 大学院理学研究院准教授 大学院先端生命科学研究院准教授 大学院教育学研究院教授 大学院教育学研究院准教授 大学院教育学研究院准教授
【講師】 (定年) (辞職)	姫 野 宏 堤 田 新 安部川 智 浩 高 畑 雅 彦	北海道大学病院講師 大学院医学研究科講師 北海道大学病院講師 北海道大学病院講師
【助教】 (定年) (任期满了) (辞職)	水 野 忠 彦 山 本 悠 子 河 村 俊 行 北 見 宏 介 徐 在 完 星 野 弘 勝 黄 詩 淳 橋 本 整 司 鐘ヶ江 香久子 田 中 輝 明 小野寺 伸 武 島 嗣 英 樋 田 京 子 黄 田 育 宏 齊 藤 玉 緒 畠 山 浩 人 中 矢 正 米 田 明 弘 朝 日 まどか 林 佳 子	大学院工学研究科助教 北海道大学病院助教 低温科学研究所助教 大学院法学研究科附属法政教育研究センター助教 大学院メディア・コミュニケーション研究院助教 北海道大学病院助教 大学院法学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院歯学研究科助教 大学院歯学研究科助教 大学院理学研究院助教 大学院薬学研究院助教 大学院薬学研究院助教 大学院農学研究院助教 大学院保健科学研究院助教 大学院保健科学研究院助教

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	高 橋 順 子 岩 崎 沙 理 加 畑 馨 川 嶋 望 須 藤 英 毅 平安山 直 美 山 本 聡 廣 瀬 茂 樹 柳 川 芳 毅	大学院保健科学研究所助教 大学院保健科学研究所助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 遺伝子病制御研究所助教
【助手】 (定年) (辞職)	寺 町 和 宏 嶺 野 幸 子	大学院工学研究科助手 大学院経済学研究科助手
【教務職員】 (定年) (任期满了)	中 村 友 子 北 市 雅 敏 小 林 香 苗	大学院工学研究科教務職員 大学院工学研究科教務職員 大学院法学研究科附属法政教育研究センター教務職員
【部長・次長】 (定年)	南 俊 夫 五十嵐 哲 郎 下 山 廣 志	企画部次長 附属図書館事務部長 医学系事務部長
【課長・事務長・室長】 (定年)	小 森 元 章 今 野 孝 明 本 吉 博 菅 原 英 一 江 坂 眞 小 玉 修 士 関 口 公 男 江刺家 勝 己 遠 藤 正 明 松 川 政 廣	財務部経理課長 学務部キャリアセンター課長 学術国際部留学生交流室長 附属図書館情報管理課長 医学系事務部会計課長 工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課長 獣医研究科・獣医学部事務長 函館キャンパス事務部事務長 薬学事務部事務長 北海道大学病院医事課医療支援室長
【補佐】 (定年)	菊 池 俊 治 藤 田 君 男 岸 田 勝 己 田 畑 修 立 川 清 敏 谷 口 修 久 保 勇 一 木 浪 昇 三 浦 基一郎 長 田 俊 一 宮 本 孝 一 佐 藤 邦 男 板 垣 忠 良 三 浦 政 志 橋 詰 伸 一 荒 川 嗣 雄	企画部情報基盤課課長補佐 学務部学生支援課課長補佐 学術国際部研究協力課課長補佐 施設部施設企画課課長補佐 施設部施設整備課課長補佐 施設部施設保全課課長補佐 附属図書館情報管理課課長補佐 附属図書館情報管理課課長補佐 医学系事務部総務課課長補佐 工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課課長補佐 工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課課長補佐 工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課課長補佐 工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課課長補佐 工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課課長補佐 理学・生命科学事務部事務課課長補佐 農学事務部事務長補佐

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
	徳 田 成 昭 武 田 健 一 富 桵 信 夫 伊 藤 幸 夫	農学事務部事務長補佐 北海道大学病院総務課課長補佐 北海道大学病院管理課課長補佐 北方生物圏フィールド科学センター事務長補佐
【係長】 (定年)	前 田 輝 夫 和 田 一 男 小 峯 邦 夫 大 友 伸 一 早 川 唯 雄 伊 藤 貢 鈴 木 貞 範 武 田 孝 塙 敏 博 長 町 吉 雄 柴 田 吉 明 三 好 晴 子 堀 川 雅 之 老 松 邦 男 宮 本 女恵子	企画部情報企画課係長 学務部学生支援課係長 附属図書館情報サービス課係長 工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課係長 工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課係長 獣医研究科・獣医学部係長 理学・生命科学事務部事務課係長 教育学事務部係長 メディア・観光学事務部係長 北海道大学病院総務課係長 北海道大学病院管理課係長 北海道大学病院管理課係長 北海道大学病院医事課係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 農学事務部係長
(辞職)		
【主任】 (定年) (辞職)	森 若 悦 子 村 上 和 子	函館キャンパス事務部主任 農学事務部主任
【係員】 (定年) (辞職)	村 上 豊 鈴 木 香 織	附属図書館情報サービス課 文学研究科・文学部
【技術職員】 (定年)	野 崎 豊 鈴 木 芳 樹 前 川 徳 光 浦 山 勝 笠 井 登 岡 田 きょう子 宮 川 純 子 濱 田 礼 子 桑 原 潤 子 熊 谷 雪 江 高 橋 厚 子 稲 田 みち子 沖 本 尋 一 福 士 博 樹 原 田 誠 若 澤 幸 夫 木 村 志津雄 原 田 進 奥 山 悟 春 名 寛 幸 野 村 潔	工学研究科技術専門職員 水産学部附属練習船うしお丸通信長 理学研究院技術専門員 農学研究院技術専門員 農学研究院技術専門員 北海道大学病院看護部副看護部長 北海道大学病院看護部看護師長 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部准看護師 北海道大学病院看護部看護助手 北海道大学病院調理師 北海道大学病院調理師 低温科学研究所技術専門員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員 北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(任期满了)	水 野 久 男	北方生物圏フィールド科学センター技術専門職員
	角 田 安 裕	函館キャンパス事務部カウンセラー
(辞職)	白 崎 晶 子	北海道大学病院看護部看護師
	陶 香 織	北海道大学病院看護部看護師
	仲 井 貴 雅	北海道大学病院看護部看護師
	菅 原 梢	北海道大学病院看護部看護師
	船 木 典 子	北海道大学病院看護部看護師長
	小 西 真由美	北海道大学病院看護部副看護師長
	田 中 京 子	北海道大学病院看護部副看護師長
	井 馬 歩 美	北海道大学病院看護部看護師
	片 沼 美 緒	北海道大学病院看護部看護師
	勝 山 志 保	北海道大学病院看護部看護師
	佐 藤 千 紘	北海道大学病院看護部看護師
	澤 田 奈津季	北海道大学病院看護部看護師
	穴 戸 宏 樹	北海道大学病院看護部看護師
	堂 坂 美穂子	北海道大学病院看護部看護師
	中 正 恭 代	北海道大学病院看護部看護師
	山 口 智 子	北海道大学病院看護部看護師
	吉 本 聡 子	北海道大学病院看護部看護師
	三 上 幸 彦	北海道大学病院看護部看護師
	三 浦 千 明	北海道大学病院看護部看護師
	加 藤 麻ひろ	北海道大学病院看護部看護師
	森 本 麻 衣	北海道大学病院看護部看護師
	小 林 真 菜	北海道大学病院看護部看護師
	石 川 照 美	北海道大学病院看護部看護師
	市 原 智 美	北海道大学病院看護部看護師
	関 根 喜代子	北海道大学病院看護部看護師
	勝 木 綾 子	北海道大学病院看護部看護師
	川 崎 亜起子	北海道大学病院看護部看護師
	菊 田 あゆみ	北海道大学病院看護部看護師
	小 岩 あ き	北海道大学病院看護部看護師
	照 井 めぐみ	北海道大学病院看護部看護師
	古 谷 郁 子	北海道大学病院看護部看護師
	宮 川 真由美	北海道大学病院看護部看護師
	森 田 清 美	北海道大学病院看護部看護師
	天 野 千 春	北海道大学病院看護部看護師
	泉 佳代子	北海道大学病院看護部看護師
	大 崎 聡 子	北海道大学病院看護部看護師
	笠 原 文	北海道大学病院看護部看護師
	川 村 千 賀	北海道大学病院看護部看護師
	小 林 智 帆	北海道大学病院看護部看護師
	齋 藤 晴 香	北海道大学病院看護部看護師
	櫻 井 未 来	北海道大学病院看護部看護師
	鈴 木 宏 昌	北海道大学病院看護部看護師
	成 田 樹 里	北海道大学病院看護部看護師
	羽 柴 沙奈枝	北海道大学病院看護部看護師
	廣 瀬 恵 里	北海道大学病院看護部看護師
	藤 野 賀奈代	北海道大学病院看護部看護師

人 事

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
	松木平 理 佳	北海道大学病院看護部看護師
	三宅隆 仁	北海道大学病院看護部看護師
	森池郁 枝	北海道大学病院看護部看護師
	柳原喜美恵	北海道大学病院看護部看護師
	大西由希子	北海道大学病院看護部看護師
	細海ちはる	北海道大学病院看護部看護師
	富川将 史	北海道大学病院看護部看護師
	糸山さ ち	北海道大学病院看護部看護師
	菅原公 恵	北海道大学病院看護部看護師
	丸谷千 春	北海道大学病院看護部助産師
	藤木理 恵	北海道大学病院看護部助産師
	菊本東 陽	北海道大学病院診療支援部理学療法士
	中山亜希子	北海道大学病院診療支援部臨床検査技師
【嘱託職員】 （任期満了）	齋藤敏 夫	財務部経理課嘱託職員
	高崎仁 雄	附属図書館情報サービス課嘱託職員
	米澤 襄	工学研究科嘱託職員
	寺田弘 秋	北海道大学病院医事課嘱託職員
	松平和 彦	触媒化学研究センター嘱託職員

平成21年4月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【役員】		
理事（副学長） （期間：平成23年3月31日まで）	逸見勝 亮	理事（副学長）
理事（副学長） （期間：平成23年3月31日まで）	林 忠 行	理事（副学長）
理事（副学長） （期間：平成23年3月31日まで）	岡田尚 武	理事（副学長）
理事（副学長） （期間：平成23年3月31日まで）	脇田 稔	理事（副学長）
理事（副学長） （期間：平成23年3月31日まで）	本堂武 夫	理事（副学長）
理事 （期間：平成23年3月31日まで）	鏑山賢 一	理事
理事（事務局長） （期間：平成23年3月31日まで）	嶋貫和 男	理事（事務局長）
【役員補佐】		
（期間：平成23年3月31日まで）	新田孝 彦	大学院文学研究科教授
（期間：平成23年3月31日まで）	山田貞 三	大学院文学研究科教授
（期間：平成23年3月31日まで）	鈴木 賢	大学院法学研究科附属法政教育研究センター教授
（期間：平成23年3月31日まで）	白土博 樹	大学院医学研究科教授
（期間：平成23年3月31日まで）	大塚俊 明	大学院工学研究科教授
（期間：平成23年3月31日まで）	近久武 美	大学院工学研究科教授
（期間：平成22年3月31日まで）	小林英 嗣	大学院工学研究科教授
（期間：平成23年3月31日まで）	小野寺 彰	大学院理学研究院教授
（期間：平成23年3月31日まで）	川端和 重	大学院理学研究院教授
（期間：平成23年3月31日まで）	柿澤宏 昭	大学院農学研究院教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(期間：平成23年 3 月31日まで)	伴 戸 久 徳	大学院農学研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)	小 内 透	大学院教育学研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)	蟹 江 俊 仁	大学院工学研究科教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)	居 城 邦 治	電子科学研究所附属ナノテクノロジー研究センター教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)	野 坂 政 司	情報基盤センター教授
【部局長・施設長等】		
附属図書館長	逸 見 勝 亮	理事 (副学長)
大学文書館長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
附属図書館北分館長	宇都宮 輝 夫	大学院文学研究科教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
大学院医学研究科長	安 田 和 則	大学院医学研究科教授
医学部長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
大学院歯学研究科長	川 浪 雅 光	大学院歯学研究科教授
歯学部長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
大学院獣医学研究科長	伊 藤 茂 男	大学院獣医学研究科教授
獣医学部長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
大学院地球環境科学研究院長	南 川 雅 男	大学院地球環境科学研究院教授
大学院環境科学院長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
大学院理学研究院長	山 口 佳 三	大学院理学研究院教授
大学院理学院長		
理学部長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
大学院農学研究院長	上 田 一 郎	大学院農学研究院教授
大学院農学院長		
農学部長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
大学院メディア・コミュニケーション研究院長	高 井 潔 司	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
大学院国際メディア・観光学院長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
大学院公共政策学連携研究部長	中 村 研 一	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院公共政策学教育部長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
低温科学研究所長	香 内 晃	低温科学研究所教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
情報基盤センター長	山 本 強	大学院情報科学研究科教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
留学生センター長	本 堂 武 夫	理事 (副学長)
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
アドミッションセンター長	脇 田 稔	理事 (副学長)
高等教育機能開発総合センター長		
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
総合博物館長	馬 渡 駿 介	大学院理学研究院教授
(期間：平成22年 3 月31日まで)		

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
量子集積エレクトロニクス研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	福 井 孝 志	大学院情報科学研究科教授
エネルギー変換マテリアル研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	黒 川 一 哉	エネルギー変換マテリアル研究センター教授
脳科学研究教育センター長 (期間：平成22年 3 月31日まで)	本 間 研 一	大学院医学研究科教授
人獣共通感染症リサーチセンター長 (期間：平成22年 3 月31日まで)	喜 田 宏	大学院獣医学研究科教授
観光学高等研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	石 森 秀 三	観光学高等研究センター特任教授
外国語教育センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	宮 下 雅 年	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
アイヌ・先住民研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	常 本 照 樹	大学院法学研究科附属法政教育研究センター教授
社会科学実験研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	山 岸 俊 男	大学院文学研究科教授
サステイナビリティ学教育研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	佐々木 隆 生	大学院公共政策学連携研究部特任教授
トポロジー理工学教育研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	丹 田 聡	大学院工学研究科教授
環境保全センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	澤 村 正 也	大学院理学研究院教授
産学連携本部長 人材育成本部長 創成研究機構長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	岡 田 尚 武	理事 (副学長)
水産学部附属練習船おしよ丸船長 (期間：平成22年 3 月31日まで)	高 木 省 吾	水産学部附属練習船おしよ丸准教授
水産学部附属練習船うしお丸船長 (期間：平成22年 3 月31日まで)	目 黒 敏 美	水産学部附属練習船うしお丸教授
大学院理学研究院附属ゲノムダイナミクス研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	瀧 谷 重 治	大学院理学研究院准教授
大学院先端生命科学研究院次世代ポストゲノム研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	五十嵐 靖 之	大学院先端生命科学研究院次世代ポストゲノム研究センター特任教授
大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター長 (期間：平成24年 3 月31日まで)	田 中 康 雄	大学院教育学研究院附属子ども発達臨床研究センター教授
大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	吉 田 文 和	大学院公共政策学連携研究部教授
低温科学研究所附属環オホーツク観測研究センター長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	江 淵 直 人	低温科学研究所教授
【副研究科長・副研究院長等】		
大学院経済学研究科副研究科長 (期間：平成22年 7 月31日まで)	吉 見 宏	大学院経済学研究科教授
大学院医学研究科副研究科長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	野々村 克 也	大学院医学研究科教授
大学院医学研究科副研究科長 (期間：平成23年 3 月31日まで)	吉 岡 充 弘	大学院医学研究科教授
大学院歯学研究科副研究科長	鈴 木 邦 明	大学院歯学研究科教授

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(期間：平成23年 3 月31日まで) 大学院獣医学研究科副研究科長	昆 泰 寛	大学院獣医学研究科教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 大学院水産科学研究院副研究院長	板 橋 豊	大学院水産科学研究院教授
(期間：平成22年 3 月31日まで) 大学院地球環境科学研究院副研究院長	嶋 津 克 明	大学院地球環境科学研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 大学院理学研究院副研究院長	伊 土 政 幸	大学院理学研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 大学院理学研究院副研究院長	稲 辺 保	大学院理学研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 大学院農学研究院副研究院長	丸 谷 知 己	大学院農学研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 大学院農学研究院副研究院長	長 澤 徹 明	大学院農学研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 大学院メディア・コミュニケーション研究院副研究院長	宮 下 雅 年	大学院メディア・コミュニケーション研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 低温科学研究所副所長	福 井 学	低温科学研究所教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 産学連携本部副本部長	荒 磯 恒 久	産学連携本部教授
(期間：平成24年 3 月31日まで) 人材育成本部副本部長	有 賀 早 苗	大学院農学研究院教授
(期間：平成23年 3 月31日まで) 創成研究機構副機構長	中 村 雅 人	大学院工学研究科教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)		
【教育研究評議会評議員】		
(期間：平成23年 3 月31日まで)	弐 和 順	大学院文学研究科教授
(期間：平成22年 7 月31日まで)	吉 見 宏	大学院経済学研究科教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)	野々村 克 也	大学院医学研究科教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)	鈴 木 邦 明	大学院歯学研究科教授
(期間：平成23年 3 月31日まで)	長 澤 徹 明	大学院農学研究院教授
【教授】		
大学院文学研究科教授	藏 田 伸 雄	大学院文学研究科准教授
大学院文学研究科教授	佐 藤 知 己	大学院文学研究科准教授
大学院文学研究科教授	山 本 文 彦	大学院文学研究科准教授
大学院法学研究科教授	遠 藤 乾	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院法学研究科教授	山 口 二 郎	大学院法学研究科附属法政教育研究センター教授
大学院法学研究科教授	加 藤 智 章	新潟大学人文社会・教育科学系教授
大学院法学研究科教授	嶋 拓 哉	信州大学大学院法曹法務研究科准教授
大学院医学研究科教授	石 田 晋	採用
大学院医学研究科教授	瀬 谷 司	大学院先端生命科学研究院教授
大学院工学研究科教授	梶 原 逸 朗	東京工業大学大学院理工学研究科准教授
大学院工学研究科教授	横 田 弘	採用
大学院工学研究科教授	米 澤 徹	採用
大学院工学研究科教授	佐々木 克 彦	大学院工学研究科准教授
大学院工学研究科教授	菊 地 優	大学院工学研究科准教授
大学院工学研究科教授	蟹 江 俊 仁	大学院公共政策学連携研究部教授
大学院工学研究科教授	中 辻 隆	大学院公共政策学連携研究部教授

人 事

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
大学院工学研究科教授	大 橋 俊 朗	東北大学大学院工学研究科准教授
大学院水産科学研究院教授	今 井 一 郎	京都大学大学院農学研究科准教授
水産学部附属練習船うしお丸教授	目 黒 敏 美	水産学部附属練習船おしよ丸教授
大学院理学研究院教授	西 弘 嗣	大学院理学研究院准教授
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授	谷 岡 勇市郎	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授
大学院薬学研究院教授	菅 原 満	北海道大学病院准教授
大学院農学研究院教授	長谷川 周 一	北方生物圏フィールド科学センター教授
大学院農学研究院教授	近江谷 和 彦	大学院農学研究院准教授
大学院先端生命科学研究院教授	村 上 洋 太	京都大学ウイルス研究所准教授
大学院先端生命科学研究院教授	水 波 誠	東北大学大学院生命科学研究科准教授
大学院教育学研究院教授	間 宮 正 幸	大学院教育学研究院准教授
大学院教育学研究院教授	大 野 栄 三	大学院教育学研究院准教授
大学院教育学研究院教授	梅 津 徹 郎	採用
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	長 野 督	情報基盤センター准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	渡 邊 浩 平	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	河 合 靖	大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授
大学院メディア・コミュニケーション研究院教授	宮 部 潤一郎	採用
大学院公共政策学連携研究部教授	安 部 由起子	大学院経済学研究科教授
大学院公共政策学連携研究部教授	清 水 康 行	大学院工学研究科教授
大学院公共政策学連携研究部教授	権 左 武 志	大学院法学研究科教授
大学院公共政策学連携研究部教授	空 井 護	大学院法学研究科教授
アイソトープ総合センター教授	久 下 裕 司	大学院医学研究科教授
北方生物圏フィールド科学センター教授	坂 下 明 彦	大学院農学研究院教授
産学連携本部教授	荒 磯 恒 久	創成科学共同研究機構教授
産学連携本部教授	鈴 木 隆 一	知財・産学連携本部教授
産学連携本部教授	内 海 潤	知財・産学連携本部教授
（転出）		
国立高等専門学校機構函館工業高等専門学校校長	岩 熊 敏 夫	大学院地球環境科学研究院教授
秋田大学工学資源学部教授	大 笹 憲 一	大学院工学研究科准教授
京都大学大学院エネルギー科学研究科教授	柏 谷 悦 章	大学院工学研究科准教授
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校教授	菊 田 和 重	大学院工学研究科助教
鳥取大学農学部教授	太 田 利 男	大学院獣医学研究科准教授
帯広畜産大学研究域教授	石 川 透	大学院獣医学研究科准教授
名古屋大学大学院生命農学研究科教授	松 田 洋 一	大学院理学研究院教授
広島大学大学院理学研究科教授	井 上 昭 彦	大学院理学研究院准教授
国立高等専門学校機構秋田工業高等専門学校教授	伊 藤 浩 之	大学院農学研究院准教授
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授	南 川 典 昭	大学院先端生命科学研究院准教授
【准教授】		
大学院法学研究科准教授	吉 田 徹	大学院公共政策学連携研究部准教授
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授	眞 壁 仁	大学院法学研究科准教授
大学院経済学研究科准教授	樋 渡 雅 人	採用
大学院経済学研究科准教授	肥 前 洋 一	大学院公共政策学連携研究部准教授
大学院医学研究科准教授	趙 松 吉	採用
大学院工学研究科准教授	山 田 朋 人	採用
大学院工学研究科准教授	佐 野 大 輔	採用
大学院獣医学研究科准教授	高 木 哲	大学院獣医学研究科助教
大学院獣医学研究科准教授	山 盛 徹	採用
大学院水産科学研究院准教授	丸 山 英 男	大学院水産科学研究院助教

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院水産科学研究院准教授	中 川 聡	採用
大学院水産科学研究院准教授	今 村 央	総合博物館准教授
水産学部准教授	山 口 秀 一	水産学部附属練習船うしお丸船長
大学院理学研究院准教授	勝 義 直	自然科学研究機構総合バイオサイエンスセンター助教
大学院理学研究院准教授	黒 岩 麻 里	大学院理学研究院講師
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授	村 井 芳 夫	大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター助教
大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター准教授	勝 俣 啓	東京大学地震研究所准教授
大学院先端生命科学研究院准教授	中 村 精 一	大学院薬学研究院准教授
観光学高等研究センター准教授	内 田 純 一	採用
情報基盤センター准教授	平 林 義 治	情報基盤センター助教
大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授	北 見 幸 一	大学院メディア・コミュニケーション研究院助教
大学院公共政策学連携研究部准教授	萩 原 亨	大学院工学研究科准教授
大学院公共政策学連携研究部准教授	鈴 川 晶 夫	大学院経済学研究科准教授
北海道大学病院准教授	石 黒 信 久	北海道大学病院助教
低温科学研究所准教授	関 幸	採用
電子科学研究所附属ナノテクノロジー研究センター准教授	上 野 貢 生	採用
留学生センター准教授	鄭 恵 先	採用
北方生物圏フィールド科学センター准教授	吉 田 俊 也	北方生物圏フィールド科学センター助教
創成研究機構准教授	三 宅 教 尚	機器分析センター准教授
創成研究機構准教授 (転出)	GAUTAM PITAMBAR	創成科学共同研究機構准教授
千葉大学教育学部准教授	梅 田 克 樹	大学院文学研究科助教
宮崎大学教育文化学部准教授	柏 葉 武 秀	大学院文学研究科助教
小樽商科大学商学部准教授	河 森 計 二	大学院法学研究科助教
山形大学理工学研究科准教授	古 川 英 光	大学院理学研究院准教授
旭川医科大学医学部准教授	濱 田 珠 美	大学院保健科学研究院助教
名古屋大学大学院工学研究科准教授	鈴 木 秀 士	触媒化学研究センター助教
九州大学先端物質化学研究所准教授	則 永 行 庸	エネルギー変換マテリアル研究センター准教授
【講師】		
大学院医学研究科講師	近 藤 英 司	北海道大学病院助教
大学院医学研究科講師	志 賀 哲	採用
大学院獣医学研究科講師	坂 本 健太郎	大学院獣医学研究科助教
大学院保健科学研究院講師	青 柳 道 子	大学院保健科学研究院助教
大学院保健科学研究院講師	赤 間 明 子	山形大学医学部助教
北海道大学病院講師	宮 治 裕 史	大学院歯学研究科助教
北海道大学病院講師	中 川 伸	大学院医学研究科助教
北海道大学病院講師	小 谷 善 久	大学院医学研究科講師
留学生センター講師	青 木 麻衣子	採用
(転出)		
愛媛大学法文学部講師	關 口 和 徳	大学院法学研究科助教
【助教】		
大学院法学研究科助教	金 澤 誠	採用
大学院法学研究科助教	孟 根 巴 根	採用
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教	下 村 太 一	採用
大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター助教	SUNG CHUN-CHIEH	採用
大学院経済学研究科助教	小 林 隆 史	筑波大学大学院システム情報工学研究科助教
大学院医学研究科助教	小野寺 智 洋	採用
大学院医学研究科助教	長 井 桂	採用

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院医学研究科助教	松 本 譲	採用
大学院医学研究科助教	中 西 満	採用
大学院医学研究科助教	加 納 里 志	採用
大学院医学研究科助教	加 藤 徳 雄	採用
大学院医学研究科助教	金 子 壮 朗	採用
大学院医学研究科助教	伊 藤 侯 輝	採用
大学院医学研究科助教	土 佐 紀 子	大学院医学研究科附属動物実験施設技術専門職員
大学院医学研究科助教	有 田 賢	北海道大学病院助教
大学院医学研究科助教	舟 山 恵 美	北海道大学病院助教
大学院歯学研究科助教	下 地 伸 司	採用
大学院歯学研究科助教	北 村 哲 也	採用
大学院工学研究科助教	岡 本 一 将	採用
大学院工学研究科助教	本 田 真 也	採用
大学院獣医学研究科助教	櫻 井 達 也	採用
大学院獣医学研究科助教	市 居 修	採用
大学院情報科学研究科助教	吉 澤 真 吾	採用
大学院水産科学研究院助教	上 野 洋 路	採用
大学院薬学研究院助教	美 多 剛	採用
大学院薬学研究院助教	齋 藤 有 紀	採用
大学院理学研究院助教	森 田 知 真	採用
大学院理学研究院助教	景 山 義 之	採用
大学院理学研究院助教	渡 邊 忠 之	採用
大学院理学研究院助教	加 藤 徹	採用
大学院教育学研究院助教	鳥 山 まどか	採用
大学院教育学研究院助教	宮 盛 邦 友	採用
大学院メディア・コミュニケーション研究院助教	PAICHADZE SVETLANA	採用
大学院保健科学研究院助教	荒 木 奈 緒	採用
北海道大学病院助教	田 口 大 志	採用
北海道大学病院助教	池 田 大 輔	採用
北海道大学病院助教	奥 健 志	採用
北海道大学病院助教	川 崎 亮 輔	採用
北海道大学病院助教	三 栖 賢次郎	採用
北海道大学病院助教	柳 原 守	採用
北海道大学病院助教	重 松 明 男	採用
北海道大学病院助教	大 嶋 茂 樹	採用
北海道大学病院助教	宮 武 慎	採用
北海道大学病院助教	山 根 尚 子	採用
北海道大学病院助教	上 垣 慎 二	採用
北海道大学病院助教	櫻 井 高太郎	採用
北海道大学病院助教	下 嶋 秀 和	採用
北海道大学病院助教	永 井 聡	採用
北海道大学病院助教	林 利 彦	採用
低温科学研究所助教	高 林 厚 史	採用
遺伝子病制御研究所附属感染癌研究センター助教	前 田 直 良	九州大学助教
触媒化学研究センター助教	小 林 広 和	採用
触媒化学研究センター助教	角 山 寛 規	採用
総合博物館助教	河 合 俊 郎	採用
北方生物圏フィールド科学センター助教	中 村 誠 宏	採用

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北方生物圏フィールド科学センター助教 人獣共通感染症リサーチセンター助教 (出向)	岸 田 治 石 井 秋 宏	採用 採用
J A北海道厚生連帯広厚生病院 市立釧路総合病院 J A北海道厚生連帯広厚生病院 函館厚生院函館中央病院 (転出)	松 橋 智 弥 高 橋 康 宏 内 野 秀 紀 瀧 重 成	北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教 北海道大学病院助教
旭川医科大学医学部助教	棚 橋 祐 典	大学院医学研究科助教
【専門職 (学術)】 大学院経済学研究科専門職 (学術)	塚 田 久美子	採用
【教務職員】 創成研究機構教務職員 創成研究機構教務職員 創成研究機構教務職員	木 内 美 和 守 真奈美 庄 子 香 織	機器分析センター教務職員 創成科学共同研究機構教務職員 創成科学共同研究機構教務職員
【局長・所長】 (転出) 九州工業大学理事・副学長(兼)事務局長 国立青少年教育振興機構国立若狭湾青少年自然の家所長	吉 村 泰 治 増 川 敬 祐	総務部長 施設部長
【部長】 総務部長 施設部長 附属図書館事務部長 医学系事務部長 工学系事務部長 (転出) 旭川医科大学教務部長 弘前大学医学部病院事務部長	大 西 浩 二 中 村 隆 行 藏 野 由美子 佐 竹 順 一 本 間 敏 史 市 山 準 一 千 葉 博	国立美術館国立西洋美術館運営管理部長 宇宙航空研究開発機構施設設備部参事 東京大学附属図書館情報サービス課長 歯学研究科・歯学部事務長 工学研究科・情報科学研究科・工学部事務部長 学務部入試課長 北海道大学病院経営企画課長
【課長・事務長・室長】 総務部職員課長 企画部企画調整課長 企画部調査分析課長 財務部経理課長 学務部入試課長 学務部キャリアセンター課長 学術国際部産学連携・研究推進課長 学術国際部留学交流課長 附属図書館管理課長 附属図書館利用支援課長 附属図書館学術システム課長 医学系事務部会計課長 歯学研究科・歯学部事務長 工学系事務部教務課長 工学系事務部経理課長 工学系事務部総務課長 獣医学研究科・獣医学部事務長 函館キャンパス事務部事務長 薬学事務部事務長	浅 野 賢 二 勝 山 憲 明 吉 原 春 之 構 野 秀 樹 村 田 幸 彦 西 田 久美子 片 岡 平 和 神 保 綾 子 加 徳 健 三 小 川 聡 杉 田 福 夫 北 嶋 義 夫 松 井 哲 司 中 村 裕 大 井 芳 美 向井地 博 之 中 嶋 幸 夫 小 谷 正 雄 松 本 治	総務部人事課課長補佐 財務部主計課課長補佐 企画部企画調整課課長補佐 旭川医科大学総務部会計課長 旭川医科大学教務部入試課長 企画部調査分析課長 学術国際部研究協力課課長補佐 事務局付 附属図書館情報サービス課長 旭川医科大学教務部図書館情報課長 附属図書館情報システム課長 財務部経理課課長補佐 工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課長 学術国際部留学生交流室室長補佐 工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課長 医学系事務部総務課課長補佐 メディア・観光学事務部事務長 財務部調達課課長補佐 工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課課長補佐

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
メディア・観光学事務部事務長	岩 渕 徹 也	学術国際部国際企画課課長補佐
北海道大学病院経営企画課課長	長 川 武 司	文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課予算総括係長
北海道大学病院医事課医療支援室長 (出向)	樋 口 順 一	北海道大学病院経営企画課課長補佐
小樽商科大学総務課長 (転出)	多 谷 司	総務部職員課長
国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課長	富 樫 剛	財務部調達課係長
旭川医科大学教務部入試課長	西 田 政 利	学務部入試課係長
小樽商科大学入試課長	内 藤 真 一	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課係長
旭川医科大学病院事務部医療支援課長	井 上 義 彦	北方生物圏フィールド科学センター係長
【補佐】		
総務部総務課秘書室室長補佐	見 永 博 英	学務部教務課係長
総務部広報課課長補佐	柴 田 仁	理学・生命科学事務部事務課課長補佐
総務部人事課課長補佐	河 野 孝 紀	総務部人事課係長
企画部企画調整課課長補佐	池 田 徹	企画部企画調整課係長
財務部主計課課長補佐	長谷川 康 弘	北海道大学病院経営企画課課長補佐
財務部経理課課長補佐	佐 藤 孝 行	学務部入試課課長補佐
財務部調達課課長補佐	岩 渕 良二郎	文学研究科・文学部事務長補佐
学術国際部国際企画課課長補佐	太 田 裕 美	学術国際部国際企画課係長
施設部施設企画課課長補佐	今 田 純 一	北海道大学病院管理課課長補佐
施設部施設整備課課長補佐	武 田 裕 二	室蘭工業大学施設課電気係長
附属図書館利用支援課課長補佐	東 重 俊	附属図書館情報サービス課課長補佐
附属図書館利用支援課課長補佐	吉 田 恭 子	附属図書館情報システム課課長補佐
附属図書館利用支援課課長補佐	吉 竹 忍	附属図書館情報サービス課課長補佐
附属図書館学術システム課課長補佐	片 桐 和 子	附属図書館情報システム課係長
医学系事務部総務課課長補佐	松 岡 典 子	教育学事務部係長
工学系事務部総務課課長補佐	佐 藤 浩 司	総務部人事課係長
工学系事務部総務課課長補佐	田 中 日出雄	学務部学生支援課課長補佐
工学系事務部経理課課長補佐	六 家 英 紀	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課課長補佐
理学・生命科学事務部事務課課長補佐	藤 本 日出夫	北キャンパス合同事務部事務長補佐
理学・生命科学事務部事務課課長補佐	山 口 隆 敏	総務部広報課課長補佐
農学事務部事務長補佐	野 崎 秀 雄	法学研究科・法学部事務長補佐
北海道大学病院医事課課長補佐	石 井 進	北海道大学病院医事課係長
北海道大学病院医事課課長補佐	早 坂 孝 一	北海道大学病院医事課医療支援室室長補佐
北海道大学病院医事課医療支援室室長補佐 (出向復帰)	佐 藤 省 吾	北海道大学病院医事課課長補佐
学務部学生支援課課長補佐	徳 山 雅 一	国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校学生課課長補佐
学務部入試課課長補佐	岡 林 精 二	旭川医科大学教務部学生支援課課長補佐
学術国際部産学連携・研究推進課課長補佐	川 上 豊	北見工業大学財務課副課長
学術国際部留学交流課課長補佐	佐々木 敏 彰	日本学生支援機構・北海道支部副支部長
工学系事務部経理課課長補佐	長 野 剛 志	小樽商科大学財務課課長代理
工学系事務部教務課課長補佐	松 本 典 久	室蘭工業大学教務課課長補佐
農学事務部事務長補佐	瀬 良 柳 次	国立高等専門学校機構函館工業高等専門学校総務課課長補佐
北海道大学病院総務課課長補佐	谷 口 貢	帯広畜産大学企画総務部総務課課長補佐
北海道大学病院経営企画課課長補佐	宮 内 政 幸	室蘭工業大学会計課課長補佐
北海道大学病院経営企画課課長補佐	山 本 正 幸	旭川医科大学会計課課長補佐
北海道大学病院管理課課長補佐	小笠原 守	国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課課長補佐
北キャンパス合同事務部事務長補佐	梅 原 正 義	国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課課長補佐

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
(転出)		
帯広畜産大学企画総務部総務課課長補佐	桃 山 光 樹	総務部人事課係長
室蘭工業大学会計課課長補佐	高 野 雅 広	財務部主計課係長
小樽商科大学財務課課長補佐	入 澤 秀 次	財務部主計課係長
北見工業大学財務課副課長	水 野 範 善	財務部調達課係長
室蘭工業大学教務課課長補佐	藤 野 祐 一	学務部学生支援課係長
北海道教育大学財務部施設課総括主査	荒 谷 正 樹	施設部施設保全課係長
日本学生支援機構北海道支部副支部長	杉 山 淳 一	医学系事務部総務課係長
国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課課長補佐	中 田 雄 二	薬学事務部係長
【係長】		
監査室係長	花 畠 純	旭川医科大学監査室監査係長
総務部総務課係長	里 眞 真理子	総務部総務課主任
総務部総務課環境安全衛生室係長	栗 林 幸 徳	施設部施設保全課係長
総務部広報課係長	清 野 浩 昭	総務部総務課係長
総務部人事課係長	船 曳 康 徳	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課係長
総務部人事課係長	佐 藤 永 晃	環境科学事務部主任
総務部人事課係長	山 下 敦 子	国立青少年教育振興機構国立首脳青少年自然の家事業支援課総務係長
企画部企画調整課係長	菅 原 育 哉	総務部秘書室係長
企画部情報企画課係長	成 田 貴 史	財務部経理課主任
企画部情報基盤課係長	岡 林 眞 弓	メディア・観光学事務部主任
企画部情報基盤課係長	佐 藤 毅	施設部施設企画課係長
財務部主計課係長	岩 佐 俊 明	監査室係長
財務部主計課係長	横 岡 政 紀	北海道大学病院経営企画課係長
財務部調達課係長	菅 野 崇	理学・生命科学事務部事務課係長
学務部学生支援課係長	相 内 征 也	学術国際部国際企画課係長
学務部学生支援課係長	寺 嶋 延 彦	北海道大学病院管理課係長
学務部教務課係長	井 元 敏 勝	学務部入試課主任
学務部教務課係長	的 野 裕 司	文学研究科・文学部係長
学務部入試課係長	小 川 悟	企画部調査分析課係長
学術国際部産学連携・研究推進課係長	浪 塚 良 平	学術国際部研究協力課係長
学術国際部産学連携・研究推進課係長	折 田 朋 子	学術国際部研究協力課係長
学術国際部留学交流課係長	河 野 公 美	学術国際部留学生交流室係長
学術国際部留学交流課係長	今 野 康 二	学術国際部留学生交流室係長
学術国際部留学交流課係長	永 井 敏 子	学術国際部留学生交流室係長
学術国際部留学交流課係長	田 中 孝 識	学術国際部留学生交流室係長
施設部施設企画課係長	瀬 田 尚 利	学務部教務課係長
施設部施設企画課係長	押 田 聡	国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課施設係長
施設部施設保全課係長	板 井 義 喜	北海道大学病院管理課係長
施設部施設保全課係長	三 浦 誠 寿	北海道大学病院管理課係長
附属図書館管理課係長	三 橋 修	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館管理課係長	横 山 哲 也	附属図書館情報管理課係長
附属図書館管理課係長	阿 部 裕 幸	附属図書館情報管理課係長
附属図書館管理課係長	菊 池 満 史	附属図書館情報管理課係長
附属図書館管理課係長	金 子 敏	附属図書館情報管理課係長
附属図書館管理課係長	佐々木 圭	附属図書館情報管理課係長
附属図書館利用支援課係長	井手上 恵 子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課係長	松 尾 博 朋	附属図書館情報管理課係長
附属図書館利用支援課係長	川 端 美 明	附属図書館情報サービス課係長

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
附属図書館利用支援課係長	横 井 有 紀	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課係長	平 田 栄 夫	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課係長	結 城 憲 司	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	長 井 伸 一	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	土 田 健 治	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	竹 鼻 敏 治	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	菊 池 健 二	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	山 田 達 雄	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	福盛田 勉	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	桑 野 勇 次	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	伊 藤 ますみ	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	鵜 澤 和 往	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	首 藤 佳 子	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	中 村 陽	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	中 條 将 喜	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館利用支援課付係長	高 野 直 樹	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館学術システム課係長	岸 本 一 志	附属図書館情報サービス課係長
附属図書館学術システム課係長	杉 田 茂 樹	附属図書館情報システム課係長
附属図書館学術システム課係長	西 山 光 幸	附属図書館情報システム課係長
文学研究科・文学部係長	菅 原 暢 廣	歯学研究科・歯学部係長
医学系事務部総務課係長	堀 田 文 雄	施設部施設企画課係長
医学系事務部総務課係長	樽 見 和 憲	学務部教務課係長
医学系事務部会計課係長	山 口 聡 子	獣医研究科・獣医学部主任
医学系事務部会計課係長	高 橋 宏 市	医学系事務部会計課主任
歯学研究科・歯学部係長	高 橋 尚 志	農学事務部係長
工学系事務部総務課係長	柄 澤 明	北海道大学病院総務課係長
工学系事務部総務課係長	白 川 孝 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課係長
工学系事務部総務課係長	蟹 口 宏 幸	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課係長
工学系事務部経理課係長	岡 野 賢	財務部調達課係長
工学系事務部経理課係長	西 村 匡 史	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課係長
工学系事務部経理課係長	加 藤 邦 男	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課係長
工学系事務部経理課係長	長 倉 清 剛	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課係長
工学系事務部経理課係長	米 田 久 和	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課係長
工学系事務部経理課係長	岩 佐 美 穂	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課係長
工学系事務部教務課係長	内 田 めぐみ	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課主任
工学系事務部教務課係長	佐 藤 有 希	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課主任
工学系事務部教務課係長	川 崎 直	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課係長
工学系事務部教務課係長	佐 藤 博	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課係長
函館キャンパス事務部係長	谷 本 裕 臣	財務部主計課主任
函館キャンパス事務部係長	村 上 建 市	函館キャンパス事務部主任
理学・生命科学事務部事務課係長	宮谷内 洋	学務部教務課主任
理学・生命科学事務部事務課係長	堀 川 まゆみ	北方生物圏フィールド科学センター係長
薬学事務部係長	松 嶋 敏 幸	農学事務部係長
農学事務部係長	表 啓 政	法学研究科・法学部主任
農学事務部係長	成 田 昭 夫	北海道大学病院医事課医療支援室係長
農学事務部係長	砂 塚 孝 子	施設部施設保全課係長
教育学事務部係長	飯 田 厚 志	総務部職員課係長
教育学事務部係長	村 上 毅	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課係長

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
メディア・観光学事務部係長	泉 澤 芳 史	企画部情報基盤課係長
北海道大学病院総務課係長	米 川 憲 司	医学系事務部総務課主任
北海道大学病院管理課係長	岩 松 正 一	総務部人事課係長
北海道大学病院管理課係長	柏 原 麻 美	北海道大学病院医事課係長
北海道大学病院管理課係長	空 橋 博 幸	施設部施設企画課係長
北海道大学病院管理課係長	太 田 政 市	北キャンパス合同事務部係長
北海道大学病院医事課係長	高 畑 範 昭	総務部広報課係長
北海道大学病院医事課係長	柳 橋 光 人	函館キャンパス事務部係長
北海道大学病院医事課医療支援室係長	巽 貞 信	北海道大学病院経営企画課主任
北海道大学病院医事課医療支援室係長	佐 藤 紀 佳	函館キャンパス事務部係長
北方生物圏フィールド科学センター係長	上 野 真 志	北キャンパス合同事務部主任
北方生物圏フィールド科学センター係長	福 田 政 彦	北海道大学病院経営企画課係長
北方生物圏フィールド科学センター係長 (出向復帰)	岡 田 教 和	東京大学北海道演習林庶務係長
総務部人事課係長	久 米 繁 輝	小樽商科大学総務課人事係長
総務部人事課係長	大 峽 賢 也	室蘭工業大学総務課人事係長
企画部調査分析課係長	野 口 明 広	室蘭工業大学企画・評価室企画調査係長
財務部主計課財務管理室係長	石 田 出	帯広畜産大学企画総務部財務課専門職員
財務部調達課係長	佐 藤 規 久	北海道教育大学財務部経理課専門職
財務部調達課係長	長谷川 和 彦	旭川医科大学総務部会計課契約第二係長
学務部学生支援課係長	横 松 剛 志	国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校学生課修学支援係長
学術国際部研究協力課係長	今 田 有 治	北見工業大学財務課係長
学術国際部産学連携・研究推進課係長	岡 村 康 司	旭川医科大学総務部総務課研究協力係長
学術国際部国際企画課係長	難波江 有 三	国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課総務係長
附属図書館利用支援課付係長	小 林 真木子	室蘭工業大学図書・学術情報室運用係長
法学研究科・法学部係長	鶴 木 貞 男	国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課人事・給与係長
歯学研究科・歯学部係長	横 澤 史 彦	室蘭工業大学入試課入学試験係長
工学系事務部総務課係長	勘 原 和 彦	帯広畜産大学企画総務部総務課職員厚生係長
工学系事務部総務課係長	村 岡 英 明	国立青少年教育振興機構国立大雪青少年交流の家事業支援課総務係長
工学系事務部経理課係長	羽 澤 明 文	国立青少年教育振興機構国立日高青少年自然の家管理係長
獣医学研究科・獣医学部係長	三 橋 千 昭	国立青少年教育振興機構国立日高青少年自然の家総務係長
理学・生命科学事務部事務課係長	遠 藤 克 紀	室蘭工業大学会計課出納係長
北海道大学病院総務課係長	王 生 晶 子	小樽商科大学財務課契約係長
北海道大学病院経営企画課係長	金 森 淳 二	小樽商科大学財務課予算係長
北海道大学病院管理課係長 (出向)	梶 栄 治	国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課契約係長
東京大学北海道演習林庶務係長	山 下 敦 子	総務部人事課係長
小樽商科大学総務課人事係長	原 田 貢	総務部人事課主任
室蘭工業大学総務課人事係長	前 島 朋 基	総務部人事課主任
小樽商科大学財務課契約係長	島 田 大 樹	財務部主計課主任
小樽商科大学財務課予算係長	橋 場 学 博	財務部主計課主任
北見工業大学財務課係長	大 桃 琢 磨	財務部主計課主任
北海道教育大学財務部経理課専門職	戸 来 茂 樹	財務部調達課主任
北海道教育大学財務部経理課専門職	瀧 雅 人	学術国際部研究協力課主任
室蘭工業大学施設課電気係長	渡 辺 栄 伸	歯学研究科・歯学部係長
国立高等専門学校機構旭川工業高等専門学校総務課契約係長	安 宅 優 子	歯学研究科・歯学部主任
国立高等専門学校機構釧路工業高等専門学校総務課人事・給与係長	水 上 真 吾	歯学研究科・歯学部主任
国立青少年教育振興機構国立日高青少年自然の家総務係長	渡 部 陽 一	北海道大学病院総務課主任

人 事

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
国立高等専門学校機構苫小牧工業高等専門学校総務課契約係長	山 本 久 仁	北海道大学病院管理課主任
国立青少年教育振興機構国立日高青少年自然の家管理係長	村 岡 健一郎	北海道大学病院医事課主任
帯広畜産大学企画総務部総務課職員厚生係長	熊 坂 浩	北キャンパス合同事務部主任
【主任】		
総務部総務課主任	氏 家 千 春	附属図書館情報管理課
総務部広報課付主任	伊 藤 仁 浩	北方生物圏フィールド科学センター主任
総務部人事課主任	鈴 木 みづ穂	北海道大学病院医事課主任
企画部企画調整課主任	小 門 朋 子	企画部企画調整課
企画部情報基盤課主任	新 山 尚 子	法学研究科・法学部主任
財務部主計課主任	下 澤 保 裕	財務部主計課財務管理室
財務部主計課主任	駒 井 孝 博	施設部施設企画課主任
財務部経理課主任	坂 口 周 之	農学事務部主任
財務部調達課主任	小田桐 誠	北海道大学病院管理課
財務部調達課主任	浦 野 とも峰	財務部調達課
財務部調達課主任	山 本 明 広	理学・生命科学事務部事務課主任
財務部調達課主任	新 見 雅 之	医学系事務部会計課主任
財務部調達課主任	佐 藤 真 美	附属図書館情報管理課主任
学務部教務課主任	細 田 淳 子	函館キャンパス事務部主任
学務部入試課主任	千 葉 浩 二	学務部入試課
学術国際部研究協力課主任	中 川 雅 貴	財務部調達課主任
学術国際部研究協力課主任	猫 塚 和 美	低温科学研究所主任
学術国際部留学交流課主任	高 口 智 美	学術国際部留学生交流室
施設部施設企画課主任	石 川 裕 司	施設部施設管理課主任
施設部施設保全課主任	相 原 寛 樹	施設部施設保全課
施設部施設保全課主任	土 門 智 広	施設部施設整備課主任
附属図書館管理課主任	齋 藤 理智子	農学事務部主任
附属図書館管理課主任	富 樫 理 香	企画部情報基盤課主任
法学研究科・法学部主任	土 井 將 義	大学評価・学位授与機構評価事業部法科大学院評価課法科大学院評価第二係
経済学研究科・経済学部主任	渡 邊 武 彦	医学系事務部総務課
医学系事務部総務課主任	藤 井 恵美子	農学事務部主任
医学系事務部会計課主任	尾留川 瑞 樹	財務部経理課主任
歯学研究科・歯学部主任	本 間 健 一	経済研究科・経済学部主任
工学系事務部総務課主任	塚 田 倫 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課
工学系事務部総務課主任	清 水 泰 貴	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課主任
工学系事務部総務課主任	寺 下 雅 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課主任
工学系事務部総務課主任	岩 松 珠 美	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課主任
工学系事務部総務課主任	樋 口 清 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課主任
工学系事務部総務課主任	田 川 真由美	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課主任
工学系事務部総務課主任	山 城 ひろこ	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課主任
工学系事務部経理課主任	奥 大 輔	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課
工学系事務部経理課主任	柴 田 珠 江	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課主任
工学系事務部経理課主任	幕 田 典 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課主任
工学系事務部経理課主任	山 田 成 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課主任
工学系事務部経理課主任	今 野 南穂代	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課主任
工学系事務部経理課主任	志 村 祐 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課主任
工学系事務部経理課主任	西 徹	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課主任
工学系事務部教務課主任	伊 藤 郁 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課
工学系事務部教務課主任	鈴 木 晴 香	経済研究科・経済学部主任

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
工学系事務部教務課主任	小 松 美由起	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課主任
工学系事務部主任	野田坂 悦 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部主任
工学系事務部主任	津 川 りゅう子	工学研究科・情報科学研究科・工学部主任
工学系事務部主任	鶴 田 由 佳	工学研究科・情報科学研究科・工学部主任
獣医学研究科・獣医学部主任	佐 藤 優 子	歯学研究科主任
環境科学事務部主任	沖 田 正 彦	財務部調達課主任
理学・生命科学事務部事務課主任	穂 苺 陽 子	理学・生命科学事務部事務課
理学・生命科学事務部事務課主任	谷 忍	理学・生命科学事務部事務課
農学事務部主任	石 川 由香里	農学事務部
農学事務部主任	中 林 ゆかり	農学事務部主任
農学事務部主任	長 津 その子	農学事務部主任
農学事務部主任	長谷川 道 子	農学事務部主任
農学事務部主任	山 内 貴 敏	財務部調達課主任
メディア・観光学事務部主任	岩 佐 綾	学術国際部留学生交流室
北海道大学病院総務課主任	岩 部 もゆみ	環境科学事務部主任
北海道大学病院経営企画課主任	石 井 英 樹	北海道大学病院経営企画課
北海道大学病院管理課主任	海老田 憲 人	北海道大学病院管理課
北海道大学病院医事課主任	佐々木 靖 子	北海道大学病院医事課
北海道大学病院医事課主任	掛 端 誠	北海道大学病院医事課医療支援室主任
低温科学研究所主任	細 貝 美 穂	理学・生命科学事務部事務課主任
北キャンパス合同事務部主任	吉 田 裕 子	北キャンパス合同事務部
北キャンパス合同事務部主任	谷 薫	施設部施設企画課主任
北キャンパス合同事務部主任 (転出)	早乙女 一 徳	函館キャンパス事務部主任
帯広畜産大学企画総務部財務課財務グループ主任	吉 田 陽 太	財務部主計課財務管理室
【係員】		
総務部総務課	藤 原 梓	採用
総務部人事課	小 林 詩 子	採用
総務部人事課	近 正 竜 希	採用
総務部人事課	鈴 木 啓 介	採用
総務部人事課	松 田 拓 巳	低温科学研究所
総務部人事課	鈴 木 佑	北海道大学病院総務課
総務部職員課	中 原 大 輔	北海道大学病院総務課
企画部企画調整課	渡 辺 香 織	北キャンパス合同事務部
企画部情報企画課	田 原 啓 司	採用
財務部主計課	川 合 宏 典	採用
財務部主計課	関 藤 元 太	北海道大学病院経営企画課
財務部主計課	赤 渕 崇 弘	環境科学事務部
財務部主計課	今 田 裕 一	学術国際部研究協力課
財務部主計課財務管理室	伊 藤 和 矢	文学研究科・文学部
財務部経理課	氏 家 智 弘	企画部情報企画課
財務部調達課	三 上 舞	北海道大学病院管理課
財務部調達課	上 山 真	北海道教育大学財務部経理課
学務部教務課	増 田 小 春	採用
学務部入試課	蜂 谷 真 央	総務部広報課
学術国際部産学連携・研究推進課	大 内 聖 和	学術国際部研究協力課
学術国際部産学連携・研究推進課	阿 部 洋 行	医学系事務部会計課
学術国際部国際企画課	渡 辺 明	経済研究科・経済学部

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
学術国際部留学交流課	佐藤 佳	学術国際部留学生交流室
施設部施設企画課	渥美 裕介	採用
施設部施設整備課	大野 達哉	採用
施設部施設整備課	田中 陽二	医学系事務部会計課
施設部施設管理課	小原 大和	採用
附属図書館管理課	池田 幸代	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	三浦 千穂	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	加藤 大博	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	川村 路代	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	長嶋 岳生	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	田邊 千雪	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	岩田 慈子	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	見目 亜紀子	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	佐藤 信世	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	問谷 実希	附属図書館情報管理課
附属図書館管理課	瀬瀬 直也	附属図書館情報管理課
附属図書館利用支援課	神谷 実	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課	石丸 恵	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課	尾山 りさ	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課	磯本 善男	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課	辻村 和美	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課	東 朋子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課	綾田 陽子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課	嶺野 智康	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課	千葉 浩之	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	小林 流美子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	加藤 彰	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	平野 知	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	北村 雅子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	松野 とも子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	児玉 陽子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	山家 尚子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	石森 久美	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	伊藤 啓子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	武田 靖恵	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	村木 麻衣子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	小林 泰名	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	酒卷 孝子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	廣中 恵子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	南 美江	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	永山 裕子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	福井 みゆき	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	細井 真弓美	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	川村 幸	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	小坂 麻衣子	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	佐藤 剛	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	高石 しのぶ	附属図書館情報サービス課
附属図書館利用支援課付	守谷 径子	附属図書館情報サービス課

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
附属図書館利用支援課付	三 隅 健 一	附属図書館情報サービス課
附属図書館学術システム課	久 米 未希子	附属図書館情報サービス課
附属図書館学術システム課	野 中 雄 司	附属図書館情報システム課
附属図書館学術システム課	吉 田 亘	附属図書館情報システム課
附属図書館学術システム課	一 戸 佳 織	附属図書館情報システム課
附属図書館学術システム課	梶 谷 晶 子	附属図書館情報システム課
附属図書館学術システム課	城 恭 子	附属図書館情報システム課
附属図書館学術システム課	紙 谷 五 月	附属図書館情報システム課
文学研究科・文学部	河 口 沙 織	採用
文学研究科・文学部	長 崎 由佳利	採用
経済学研究科・経済学部	飯 田 奈 緒	メディア・観光学事務部
経済学研究科・経済学部	猿 橋 史 章	学術国際部留学生交流室
医学系事務部会計課	窪 田 陽 菜	施設部施設整備課
歯学研究科・歯学部	小 野 貴 弘	理学・生命科学事務部事務課
工学系事務部	山 田 久 恵	工学研究科・情報科学研究科・工学部
工学系事務部	吉 田 紀 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部
工学系事務部総務課	丸 尾 太 陽	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課
工学系事務部総務課	桑 村 真 美	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課
工学系事務部総務課	小 川 雅 史	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課
工学系事務部総務課	吉 川 幸 児	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課
工学系事務部経理課	朝 野 麻 衣	採用
工学系事務部経理課	白 川 万 愉	獣医研究科・獣医学部
工学系事務部経理課	田 中 昌 平	施設部施設整備課
工学系事務部教務課	狩 野 高 志	医学系事務部総務課
工学系事務部教務課	豊 川 誠 人	財務部主計課
工学系事務部教務課	佐 藤 洋 一	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課
工学系事務部教務課	五十嵐 猛 朗	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課
工学系事務部教務課	池 野 奈保子	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課
工学系事務部教務課	佐 藤 祥 嗣	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課
工学系事務部教務課	伊 藤 房 枝	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課
工学系事務部教務課	田 副 優美子	工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課
獣医学研究科・獣医学部	伊 藤 淑 恵	採用
獣医学研究科・獣医学部	熊 谷 典 子	工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課
函館キャンパス事務部	工 藤 幹 子	採用
函館キャンパス事務部	畑 中 寿 郎	国立高等専門学校機構函館工業高等専門学校学生課学生事務グループ
環境科学事務部	犬 塚 晶由里	採用
理学・生命科学事務部事務課	佐 藤 将 人	採用
理学・生命科学事務部事務課	谷地中 大 介	財務部調達課
北海道大学病院総務課	角 谷 有 介	採用
北海道大学病院総務課	波多野 訓 広	メディア・観光学事務部
北海道大学病院総務課	山 口 なつみ	北海道大学病院医事課
北海道大学病院経営企画課	齋 藤 久	採用
北海道大学病院経営企画課	前 橋 智 美	採用
北海道大学病院管理課	本 間 真樹子	採用
北海道大学病院管理課	山 内 隆 嗣	採用
北海道大学病院管理課	諸 田 美 沙	採用
北海道大学病院管理課	功 刀 岳	北海道大学病院医事課
北海道大学病院医事課	長谷川 七 恵	財務部調達課

–102–

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護師	中 嶋 文 乃	採用
北海道大学病院看護部看護師	引 地 和 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	廣 瀬 絵梨香	採用
北海道大学病院看護部看護師	松 田 翔 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	丸 吉 恵 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	柳 沢 綾 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	山 崎 真 由	採用
北海道大学病院看護部看護師	吉 田 未 来	採用
北海道大学病院看護部看護師	吉 本 友 美	採用
北海道大学病院看護部看護師	尾 形 裕 子	採用
北海道大学病院看護部看護師	五十嵐 も え	採用
北海道大学病院看護部看護師	田 上 加 奈	採用
北海道大学病院看護部看護師	黒 沼 早 智	採用
北海道大学病院看護部看護師	西 川 美 香	採用
北海道大学病院看護部看護師	和 歌 里 美	採用
北海道大学病院看護部准看護師	白 井 由 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	赤 塚 多恵子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	足 立 詩 織	採用
北海道大学病院看護部看護助手	阿 部 綾 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	伊 藤 千 紘	採用
北海道大学病院看護部看護助手	井戸端 恵 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 寺 彩 加	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 藤 結	採用
北海道大学病院看護部看護助手	小野寺 麻 優	採用
北海道大学病院看護部看護助手	川 村 真 由	採用
北海道大学病院看護部看護助手	北 内 慧	採用
北海道大学病院看護部看護助手	木 村 恵 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	工 藤 さおり	採用
北海道大学病院看護部看護助手	熊 倉 寿 希	採用
北海道大学病院看護部看護助手	合 田 あ や	採用
北海道大学病院看護部看護助手	小 山 知 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	近 尚 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 賀 可奈子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	佐 藤 斐 菜	採用
北海道大学病院看護部看護助手	柴 原 恵	採用
北海道大学病院看護部看護助手	庄 林 一 華	採用
北海道大学病院看護部看護助手	鈴 木 智 博	採用
北海道大学病院看護部看護助手	高 橋 亜由美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	竹 林 佳那子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	坪 田 麻 未	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 村 望 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	成 田 海 緒	採用
北海道大学病院看護部看護助手	丸 山 美江子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	三 上 有 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	南 田 麻 貴	採用
北海道大学病院看護部看護助手	本 江 由 実	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 重 有 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	矢 元 麻土香	採用

人 事

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
北海道大学病院看護部看護助手	若 杉 真奈美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	秋 山 恵	採用
北海道大学病院看護部看護助手	石 川 枝梨花	採用
北海道大学病院看護部看護助手	岡 本 牧 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	清 永 靖 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	栗 秋 昌 代	採用
北海道大学病院看護部看護助手	桑 島 拓 大	採用
北海道大学病院看護部看護助手	助 乘 麻 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	高 橋 さやか	採用
北海道大学病院看護部看護助手	高 見 梓	採用
北海道大学病院看護部看護助手	中 村 加奈美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	半 田 智 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	藤 田 早 織	採用
北海道大学病院看護部看護助手	浅 野 理 更	採用
北海道大学病院看護部看護助手	倉 岡 美 郷	採用
北海道大学病院看護部看護助手	今 悠 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	野 村 歩 加	採用
北海道大学病院看護部看護助手	藤 田 桃 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	宮 田 沙 季	採用
北海道大学病院看護部看護助手	山 崎 亜 美	採用
北海道大学病院看護部看護助手	阿 部 紗 弓	採用
北海道大学病院看護部看護助手	阿 部 由里香	採用
北海道大学病院看護部看護助手	井 川 和 音	採用
北海道大学病院看護部看護助手	伊 藤 康 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	大 澤 真 衣	採用
北海道大学病院看護部看護助手	篠 崎 真 紀	採用
北海道大学病院看護部看護助手	田 原 綾 子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	寺 地 貴 弘	採用
北海道大学病院看護部看護助手	土 岐 真美子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	豊 田 洋 平	採用
北海道大学病院看護部看護助手	成 瀬 友 樹	採用
北海道大学病院看護部看護助手	間 ルツ子	採用
北海道大学病院看護部看護助手	前 田 絵 里	採用
北海道大学病院看護部看護助手	伊 東 伸 也	採用
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師長	仲 知 保	北海道大学病院診療支援部副診療放射線技師長
北海道大学病院診療支援部副診療放射線技師長	佐 賀 和 高	北海道大学病院診療支援部主任診療放射線技師
北海道大学病院診療支援部診療放射線技師	杉 森 博 行	採用
北海道大学病院診療支援部臨床検査技師 (転出)	小 栗 聡	採用
旭川医科大学病院看護部看護師	加 藤 久 美	北海道大学病院看護師
【嘱託職員】		
監査室	久 保 勇 一	施設部施設保全課
監査室	佐 藤 邦 男	
総務部総務課環境安全衛生室	伊 藤 貢	
総務部総務課環境安全衛生室	亀 田 紀 夫	
財務部経理課付	菊 池 俊 治	
財務部経理課付	三 浦 基一郎	
財務部経理課付	三 浦 政 志	

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
財務部経理課付	前 田 輝 夫	施設部施設保全課
財務部経理課付	柴 田 吉 明	
財務部調達課	藤 田 君 男	
財務部調達課	板 垣 忠 良	
財務部調達課	鈴 木 貞 範	
財務部調達課	山 田 重 幸	
学務部教務課	五十嵐 哲 郎	
学術国際部研究協力課	早 川 唯 雄	
学術国際部産学連携・研究推進課付 (創成研究機構研究支援室)	橋 詰 伸 一	
施設部施設整備課	立 川 清 敏	施設部施設整備課
施設部施設保全課	赤 石 爲 儀	
施設部施設保全課	小 玉 修 士	
施設部施設保全課	遠 藤 正 明	
施設部施設保全課	谷 口 修	
施設部施設保全課	鈴 木 芳 樹	
施設部施設保全課	松 村 尚 枝	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課
附属図書館利用支援課	小 峯 邦 夫	
附属図書館利用支援課付	木 下 彰	附属図書館情報サービス課付
附属図書館利用支援課付	南 部 萬 亀 子	附属図書館情報サービス課付
文学研究科・文学部	伊 藤 幸 夫	工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課 工学研究科・情報科学研究科・工学部経理課 工学研究科・情報科学研究科・工学部教務課
大学院工学研究科	野 崎 豊 子	
大学院工学研究科	中 村 友 子	
大学院工学研究科	北 市 雅 敏	
工学系事務部総務課	荒 川 嗣 雄	
工学系事務部経理課	伊 東 實 雄	
工学系事務部教務課	稲 川 寔 寔	
函館キャンパス事務部	森 若 悦 子	
大学院理学院	前 川 徳 光	
理学・生命科学事務部事務課	長 田 俊 一	
理学・生命科学事務部事務課	大 友 伸 一	
薬学事務部	武 田 孝 勝	
大学院農学院	浦 山 勝 子	
北海道大学病院	稲 田 み 子	
北海道大学病院管理課	富 樫 信 夫	
北海道大学病院管理課	老 松 邦 男	
北海道大学病院管理課	沖 本 尋 一	
北海道大学病院医事課	堀 川 雅 之	
北海道大学病院医事課医療支援室	松 川 政 廣	
低温科学研究所	福 士 博 樹	
北方生物圏フィールド科学センター	木 浪 昇 夫	
北方生物圏フィールド科学センター	若 澤 幸 夫	
北方生物圏フィールド科学センター	木 村 志 津 雄	
北方生物圏フィールド科学センター	奥 山 悟 幸	
北方生物圏フィールド科学センター	春 名 寛 幸	
北方生物圏フィールド科学センター	野 村 潔 男	
北方生物圏フィールド科学センター	水 野 久 男	

新任部局長等紹介

平成21年4月1日付

産学連携本部長・人材育成本部長・
創成研究機構長に おかだ ひさたけ 岡田 尚武 氏



平成21年4月1日付けで運営組織として産学連携本部、人材育成本部、創成研究機構が新設され、初代の部長・機構長として岡田尚武理事・副学長が発令されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和19年3月4日
昭和41年3月 北海道大学理学部卒業
昭和43年3月 北海道大学大学院理学研究科修士課程修了，理学修士
昭和46年3月 北海道大学大学院理学研究科博士課程修了，理学博士
昭和46年3月 ウッズホール海洋研究所研究員
昭和48年10月 コロンビア大学附属ラモン・ドーティ地質学研究所研究員
昭和51年11月 山形大学理学部助教授
昭和63年4月 山形大学理学部教授
平成7年4月 北海道大学大学院理学研究科教授
平成13年5月 } 北海道大学評議員
平成15年4月 }
平成15年5月 北海道大学大学院理学研究科長・理学部長
平成18年4月 北海道大学大学院理学研究院長・理学院長・理学部長
平成19年4月 北海道大学理事・副学長
平成19年5月 創成科学共同研究機構長，知的財産本部長

医学研究科長・医学部長に やすだ かずのり 安田 和則 教授



平成21年3月31日限りで本間研一医学研究科長・医学部長が任期満了となり，その後任として安田和則教授が発令されました。

任期は，平成23年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和25年12月15日
昭和51年3月 北海道大学医学部卒業
昭和51年4月 } 整形外科研修（北海道大学医学部附属病院等）
昭和58年3月 }
昭和58年4月 北海道大学医学部附属病院助手
昭和59年4月 北海道大学医療技術短期大学部助手
昭和60年6月 医学博士（北海道大学）
昭和60年7月 北海道大学医学部附属病院助手
平成元年8月 北海道大学医学部附属病院講師
平成8年5月 北海道大学医学部講師
平成9年11月 北海道大学医学部教授
平成12年4月 北海道大学大学院医学研究科教授
平成17年4月 北海道大学大学院医学研究科副研究科長
平成19年5月 } 北海道大学役員補佐
平成21年3月 }

獣医学研究科長・獣医学部長に

伊藤 茂男 教授



平成21年 3 月31日限り
で梅村孝司獣医学研究科
長・獣医学部長が辞任し
たため、その後任として
伊藤茂男教授が発令され
ました。

任期は、平成23年 3 月
31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和24年 8 月30日
昭和48年 3 月 北海道大学獣医学部卒業
昭和51年 6 月 北海道大学大学院獣医学研究科
修士課程中退
昭和48年 4 月 } 宮城県技術吏員
昭和49年 8 月 }
昭和51年 7 月 北海道大学獣医学部助手
昭和58年12月 獣医学博士(北海道大学)
昭和63年 5 月 北海道大学獣医学部助教授
平成11年 4 月 北海道大学獣医学研究科教授
平成17年 5 月 } 北海道大学大学院獣医学研究科
平成21年 3 月 } 副研究科長

環境科学院長・地球環境科学研究院長に

南川 雅男 教授



平成21年 3 月31日限り
で岩熊敏夫環境科学院
長・地球環境科学研究院
長が任期満了となり、そ
の後任として南川雅男教
授が発令されました。

任期は、平成23年 3 月
31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和23年 6 月 7 日
昭和47年 3 月 北海道大学水産学部卒業
昭和49年 3 月 北海道大学大学院水産学研究科
修士課程修了
昭和52年 3 月 北海道大学大学院水産学研究科
博士後期課程単位修得退学
昭和52年 4 月 } 民間(株式会社三菱化成生命科
平成 5 年 3 月 } 学研究所)
昭和55年 3 月 水産学博士(北海道大学)
平成 5 年 4 月 北海道大学大学院地球環境科学
研究科助教授
平成 8 年 4 月 北海道大学大学院地球環境科学
研究科教授
平成17年 4 月 北海道大学大学院地球環境科学
研究院教授
平成19年 4 月 } 北海道大学大学院地球環境科学
平成21年 3 月 } 研究院副研究院長

人 事

農学院長・農学研究院長・農学部長に
上田 一郎 教授



平成21年3月31日限り
で服部昭仁農学院長・農
学研究院長・農学部長が
任期満了となり、その後
任として上田一郎教授が
発令されました。

任期は、平成23年3月
31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和25年3月23日
昭和47年3月 北海道大学農学部卒業
昭和48年8月 北海道大学大学院農学研究科修
士課程中退
昭和50年8月 米国ワシントン州立大学植物病
理学修士課程修了
昭和53年8月 米国ワシントン州立大学植物病
理学博士課程修了
昭和53年8月 Ph.D (ワシントン州立大学)
昭和53年10月 北海道大学農学部助手
昭和57年4月 北海道大学農学部助教授
平成7年4月 北海道大学農学部教授
平成11年4月 北海道大学大学院農学研究科教
授
平成14年4月 北海道大学北方生物圏フイール
ド科学センター教授
平成16年4月 北海道大学大学院農学研究科教
授
平成18年4月 北海道大学大学院農学研究院教
授
平成19年4月 北海道大学大学院農学研究院副
平成21年3月 研究院長
平成20年4月 北海道大学評議員
平成21年3月

国際広報メディア・観光学院長、メディア・
コミュニケーション研究院長に 高井 潔司 教授



平成21年3月31日限り
で杉浦秀一国際広報メ
ディア・観光学院長、メ
ディア・コミュニケー
ション研究院長が任期満
了となり、その後任とし
て高井潔司教授が発令さ
れました。

任期は、平成23年3月
31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和23年9月22日
昭和42年3月 東京外国語大学外国語学部卒業
昭和47年4月 民間(読売新聞社)
平成11年3月 北海道大学言語文化部教授
平成11年4月 北海道大学国際広報メディア研
究科教授
平成12年4月 北海道大学メディア・コミュニ
ケーション研究院教授
平成19年4月

公共政策学連携研究部長・公共政策学教育部長に 中村 研一 教授



平成21年3月31日限りで佐々木隆生連携研究部長・公共政策学教育部長が任期満了となり、その後任として中村研一教授が発令されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和23年11月3日
 昭和47年3月 東京大学理学部卒業
 昭和49年3月 東京大学法学部第3類卒業
 昭和49年4月 東京大学法学部助手
 昭和52年9月 北海道大学法学部助教授
 平成2年3月 北海道大学法学部教授
 平成6年12月 } 北海道大学評議員
 平成8年12月 }
 平成8年12月 } 北海道大学大学院法学研究科
 平成10年12月 } 長，法学部長，評議員
 平成12年4月 北海道大学大学院法学研究科
 属高等法政教育研究センター教
 授
 平成15年10月 } 北海道大学副学長，評議員
 平成16年3月 }
 平成16年4月 } 北海道大学理事・副学長
 平成17年4月 }
 平成16年4月 } 北海道大学留学生センター長
 平成17年4月 }
 平成17年3月 } 科学技術・学術審議会専門委員
 平成18年1月 } (学術分科会)
 平成17年5月 北海道大学大学院公共政策学連
 携研究部教授
 平成19年4月 } 北海道大学大学院公共政策学連
 携研究部附属公共政策学研究セ
 ンター長
 平成21年3月 }

脳科学研究教育センター長に 本間 研一 教授



平成21年3月31日限りで栗城眞也センター長が任期満了となり、その後任として本間研一教授が発令されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和21年11月10日
 昭和46年3月 北海道大学医学部卒業
 昭和52年3月 北海道大学大学院医学研究科博
 士課程修了，医学博士（北海道
 大学）
 昭和52年4月 北海道大学医学部助手
 昭和55年2月 北海道大学医学部講師
 昭和57年5月 北海道大学医学部助教授
 平成4年1月 北海道大学医学部教授
 平成12年4月 北海道大学大学院医学研究科教
 授
 平成17年4月 } 北海道大学医学研究科長，評議
 平成21年3月 } 員

人 事

外国語教育センター長に

宮下 雅年 教授



平成21年3月31日限り
で江口豊センター長が任
期満了となり、その後任
として宮下雅年教授が発
令されました。

任期は、平成23年3月
31日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和25年4月24日
昭和50年3月 北海道大学文学部卒業
昭和53年3月 北海道大学大学院文学研究科修
士課程修了
昭和53年4月 北海学園大学講師
昭和58年4月 北海道教育大学岩見沢校講師
昭和62年3月 北海道大学言語文化部講師
平成2年8月 北海道大学言語文化部助教授
平成12年12月 北海道大学言語文化部教授
平成19年4月 北海道大学大学院メディア・コ
ミュニケーション研究院教授

トポロジー理工学教育研究センター長に

丹田 聡 教授



平成21年4月1日付け
で学内共同教育研究施設
としてトポロジー理工学
教育研究センターが新設
され、初代のセンター長
として丹田聡教授が発令
されました。

任期は、平成23年3月
31日までです。

略 歴

昭和56年3月 北海道大学理学部卒業
昭和59年3月 北海道大学大学院理学研究科修
士課程修了
昭和59年4月 } 民間 ((株) 小松製作所)
平成元年3月 }
平成元年4月 北海道大学工学部助手
平成5年12月 博士 (工学) (北海道大学)
平成6年2月 北海道大学工学部助教授
平成13年5月 ヘルシンキ工科大学客員教授
平成16年8月 21世紀COEプログラム「トポ
ロジー理工学の創成」拠点リー
ダー
平成16年12月 北海道大学工学部教授

理事・部局長等（再任）紹介

平成21年 4 月 1 日付

理事・副学長・附属図書館長・大学文 書館長に 逸見 勝亮 氏

逸見勝亮理事・副学長は、平成17年 5 月 1 日から理事・副学長・附属図書館長・大学文書館長を務め、平成21年 3 月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成23年 3 月31日までです。

理事・副学長に 林 忠行 氏

林忠行理事・副学長は、平成18年 4 月 1 日から理事・副学長を務め、平成21年 3 月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成23年 3 月31日までです。

理事・副学長に 岡田 尚武 氏

岡田尚武理事・副学長は、平成19年 4 月 1 日から理事・副学長を務め、平成21年 3 月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成23年 3 月31日までです。

理事・副学長・高等教育機能開発総合 センター長・アドミッションセンター長に 脇田 稔 氏

脇田稔理事・副学長は、平成19年 5 月 1 日から理事・副学長・高等教育機能開発総合センター長・アドミッションセンター長を務め、平成21年 3 月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成23年 3 月31日までです。

理事・副学長・留学生センター長に 本堂 武夫 氏

本堂武夫理事・副学長は、平成19年 5 月 1 日から理事・副学長・留学生センター長を務め、平成21年 3 月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成23年 3 月31日までです。

理事に 鏑山 賢一 氏

鏑山賢一理事は、平成17年 5 月 1 日から理事を務め、平成21年 3 月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成23年 3 月31日までです。

理事・事務局長に 嶋貫 和男 氏

嶋貫和男理事・事務局長は、平成19年 4 月 1 日から理事・事務局長を務め、平成21年 3 月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同氏が再任されました。

任期は、平成23年 3 月31日までです。



役員集合写真

（前列左より）木谷監事、佐伯総長、山本監事

（後列左より）嶋貫理事、脇田理事、林理事、岡田理事、
逸見理事、本堂理事、鏑山理事

附属図書館副館長・北分館長に 宇都宮 輝夫 教授

宇都宮輝夫教授は、平成19年10月1日から附属図書館副館長・北分館長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

歯学研究科長・歯学部長に 川浪 雅光 教授

川浪雅光教授は、平成19年4月1日から歯学研究科長・歯学部長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

理学院長・理学院研究科長・理学部長に 山口 佳三 教授

山口佳三教授は、平成19年4月1日から理学院長・理学院研究科長・理学部長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

低温科学研究所長に 香内 晃 教授

香内晃教授は、平成19年4月1日から低温科学研究所長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

情報基盤センター長に 山本 強 教授

山本強教授は、平成19年4月1日から情報基盤センター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

総合博物館長に 馬渡 駿介 教授

馬渡駿介教授は、平成19年4月1日から総合博物館長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成22年3月31日までです。

量子集積エレクトロニクス研究センター長に 福井 孝志 教授

福井孝志教授は、平成17年4月1日から量子集積エレクトロニクス研究センター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

エネルギー変換マテリアル研究センター長に 黒川 一哉 教授

黒川一哉教授は、平成19年4月1日からエネルギー変換マテリアル研究センター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

人獣共通感染症リサーチセンター長に 喜田 宏 教授

喜田宏教授は、平成17年4月1日から人獣共通感染症リサーチセンター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成22年3月31日までです。

観光学高等研究センター長に 石森 秀三 特任教授

石森秀三教授は、平成18年4月1日から観光学高等研究センター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

アイヌ・先住民研究センター長に 常本 照樹 教授

常本照樹教授は、平成19年4月1日からアイヌ・先住民研究センター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

社会科学実験研究センター長に**山岸^{やまぎし} 俊男^{としお} 教授**

山岸俊男教授は、平成19年4月1日から社会科学実験研究センター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

サステナビリティ学教育研究センター長に**佐々木^{ささき} 隆生^{たかお} 特任教授**

佐々木隆生教授は、平成20年4月1日からサステナビリティ学教育研究センター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

環境保全センター長に 澤村^{さわむら} 正也^{まさや} 教授

澤村正也教授は、平成19年4月1日から環境保全センター長を務め、平成21年3月31日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成23年3月31日までです。

新任教授紹介

平成21年4月1日付

文学研究科教授に ^{くらた のぶお} 藏田 伸雄 氏
(思想文化学専攻倫理学講座)



生年月日
昭和38年12月11日
最終学歴
京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学
(平成6年3月)
文学修士(京都大学)
専門分野
応用倫理学(生命倫理・環境倫理・科学技術倫理), 倫理学

文学研究科教授に ^{さとう ともみ} 佐藤 知己 氏
(言語文学専攻言語情報学講座)



生年月日
昭和36年6月3日
最終学歴
北海道大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
(平成2年3月)
文学修士(北海道大学)
専門分野
言語学, アイヌ語学

文学研究科教授に ^{やまもと ふみこ} 山本 文彦 氏
(歴史地域文化学専攻西洋史学講座)



生年月日
昭和36年9月10日
最終学歴
東北大学大学院文学研究科博士課程後期修了
(平成4年3月)
文学博士(東北大学)
専門分野
ドイツ中世・近世史

法学研究科教授に ^{かとう ともゆき} 加藤 智章 氏
(法学政治学専攻現代法講座)



生年月日
昭和31年2月9日
最終学歴
北海道大学大学院法学研究科博士課程単位修得退学
(昭和60年5月)
博士(法学)(北海道大学)
専門分野
社会保障法

法学研究科教授に ^{しま たくや} 嶋 拓哉 氏
(法学政治学専攻現代法講座)



生年月日
昭和43年10月17日
最終学歴
University of Virginia School of Law LL.M 修了
(平成9年5月)
Master of Laws (University of Virginia)
専門分野
金融法, 国際私法

医学研究科教授に ^{いしだ すすむ} 石田 晋 氏
(医学専攻感覚器病学講座)



生年月日
昭和40年4月15日
最終学歴
慶應義塾大学医学部卒業
(平成2年3月)
医学博士(慶應義塾大学)
専門分野
眼科学

工学研究科教授に ^{よねざわ}米澤 ^{てつ}徹 氏
(材料科学専攻マテリアル設計講座)



生年月日
昭和40年 8 月14日
最終学歴
東京大学大学院工学系
研究科博士課程修了
(平成 6 年 3 月)
博士(工学)(東京大学)
専門分野
ナノ材料科学, 表界面
微細構造解析学, 電子
顕微鏡学

工学研究科教授に ^{ささき}佐々木 ^{かつひこ}克彦 氏
(人間機械システムデザイン専攻マイクロシステム講座)



生年月日
昭和35年 5 月26日
最終学歴
北海道大学大学院工学
研究科博士後期課程修
了
(平成元年 3 月)
工学博士(北海道大学)
専門分野
材料力学, 機械材料

工学研究科教授に ^{かじわら}梶原 ^{いつろう}逸朗 氏
(人間機械システムデザイン専攻バイオ・ロボティクス講座)



生年月日
昭和39年 2 月 1 日
最終学歴
東京工業大学大学院理
工学研究科博士課程中
退
(平成 2 年 3 月)
博士(工学)(東京工業
大学)
専門分野
振動工学, 制御工学

工学研究科教授に ^{きくち}菊地 ^{まさる}優 氏
(建築都市空間デザイン専攻空間防災講座)



生年月日
昭和37年 1 月10日
最終学歴
北海道大学大学院工学
研究科修士課程修了
(昭和61年 3 月)
博士(工学)(北海道大
学)
専門分野
建築構造, 耐震, 地震
工学

工学研究科教授に ^{おおはし}大橋 ^{としろう}俊朗 氏
(人間機械システムデザイン専攻マイクロシステム講座)



生年月日
昭和43年 2 月 8 日
最終学歴
筑波大学大学院理工学
研究科修士課程修了
(平成 6 年 3 月)
博士(工学)(東北大学)
専門分野
バイオメカニクス

工学研究科教授に ^{よこた}横田 ^{ひろし}弘 氏
(環境創生工学専攻社会基盤施設管理講座)



生年月日
昭和30年 9 月13日
最終学歴
東京工業大学大学院理
工学研究科修士課程修
了
(昭和55年 3 月)
博士(工学)(東京工業
大学)
専門分野
維持管理工学

水産科学研究院教授に ^{いまい いちろう} 今井 一郎 氏
(海洋生物資源科学部門 海洋生物学分野)



生年月日
昭和28年1月6日
最終学歴
京都大学大学院農学研究科博士後期課程退学
(昭和55年3月)
農学博士(京都大学)
専門分野
プランクトン生理生態学, 有害有毒藻類学

薬学研究院教授に ^{すがわら みつる} 菅原 満 氏
(医療薬学部門医療薬学分野)



生年月日
昭和39年4月16日
最終学歴
北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了
(平成元年3月)
博士(薬学)(北海道大学)
専門分野
薬物動態学, 薬剤学

理学研究院教授に ^{にし ひろし} 西 弘嗣 氏
(自然科学部門地球惑星システム科学分野)

生年月日
昭和33年8月22日
最終学歴
九州大学大学院理学研究科博士課程修了
(昭和62年3月)
理学博士(九州大学)
専門分野
古生物学, 地質学

農学研究院教授に ^{おうみ や かずひこ} 近江谷 和彦 氏
(生物資源生産学部門生物生産工学分野)



生年月日
昭和22年8月23日
最終学歴
北海道大学農学部卒
(昭和45年3月)
農学博士(北海道大学)
専門分野
農業循環工学, テラメカニックス

理学研究院教授に ^{たにおか ゆういちろう} 谷岡 勇市郎 氏
(附属地震火山研究観測センター)



生年月日
昭和34年5月15日
最終学歴
ミシガン大学大学院博士課程修了
(平成8年5月)
Ph.D. (ミシガン大学)
専門分野
地震学

先端生命科学研究院教授に ^{むらかみ ようた} 村上 洋太 氏
(先端生命科学部門先端細胞機能科学分野)



生年月日
昭和34年2月14日
最終学歴
京都大学大学院理学研究科博士課程修了
(昭和62年3月)
理学博士(京都大学)
専門分野
分子生物学, 分子遺伝学, 生化学

先端生命科学研究院教授に ^{みずなみ}水波 ^{まこと}誠 氏
(先端生命科学部門先端生体制御科学分野)



生年月日
昭和32年 6 月23日
最終学歴
九州大学大学院理学研究科修士課程修了
(昭和57年 3 月)
理学博士 (九州大学)
専門分野
神経行動学, 神経生理学

教育学研究院教授に ^{うめつ}梅津 ^{てつお}徹郎 氏
(教育学部門教育社会発展論分野)



生年月日
昭和25年 7 月29日
最終学歴
北海道大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学
(平成 7 年 3 月)
教育学修士 (北海道大学)
専門分野
教育学, 教科教育学

教育学研究院教授に ^{まみや}間宮 ^{まさゆき}正幸 氏
(教育学部門人間発達科学分野)



生年月日
昭和26年11月30日
最終学歴
信州大学人文学部卒業
(昭和50年 3 月)
専門分野
臨床心理学, 教育相談論

メディア・コミュニケーション研究院教授に ^{ながの}長野 ^{こう}督 氏
(メディア・コミュニケーション部門多元文化教育論分野)



専門分野
外国語教育学, 異文化コミュニケーション

教育学研究院教授に ^{おおの}大野 ^{えいぞう}栄三 氏
(教育学部門教育社会発展論分野)



生年月日
昭和34年 5 月25日
最終学歴
関西学院大学大学院理学研究科博士課程修了
(昭和62年 3 月)
理学博士 (関西学院大学)
専門分野
教育学, 教育方法学

メディア・コミュニケーション研究院教授に ^{わたなべ}渡邊 ^{こうへい}浩平 氏
(メディア・コミュニケーション部門国際広報論分野)



生年月日
昭和33年11月19日
最終学歴
東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了
(昭和61年 3 月)
文学修士 (東京都立大学)
専門分野
広報広告論, 中国メディア論

メディア・コミュニケーション研究院
教授に ^{かわい}河合 ^{やすし}靖 氏

(メディア・コミュニケーション部門言語習得論分野)



生年月日

昭和34年10月12日

最終学歴

アラバマ大学大学院教
育学部博士課程修了
(平成7年12月)

教育学博士 (アラバマ
大学)

専門分野

応用言語学, 英語教育
学

メディア・コミュニケーション研究院
教授に ^{みやべ}宮部 ^{じゅんいちろう}潤一郎 氏

(メディア・コミュニケーション部門国際広報論分野)



生年月日

昭和24年11月2日

最終学歴

国際基督教大学大学院
行政学研究科修士課程
修了

(昭和50年3月)

行政学修士 (国際基督
教大学)

専門分野

広報・コミュニケー
ション論, 経営戦略行
動論, 移行経済論

新任部課長等紹介

平成21年 4 月 1 日付

総務部長に おおにし 大西



こうじ 浩二 氏

昭和31年 8 月14日生
旭川工業高等専門学校
卒
昭和53年 3 月
旭川医科大学庶務課
昭和56年 5 月
国立青少年センター庶
務課

昭和58年 5 月 文部省大臣官房総務課往復班
昭和59年 4 月 文部省大臣官房総務課審議班
昭和60年 3 月 文部省教育助成局施設助成課
昭和63年10月 文部省教育助成局施設助成課非
義務制学校係長
平成 2 年 9 月 文部省教育助成局施設助成課庶
務係長
平成 4 年 4 月 文部省教育助成局施設助成課振
興地域係長
平成 5 年 4 月 文部省教育助成局施設助成課予
算総括係長
平成 7 年 4 月 山梨医科大学会計課長
平成 9 年 4 月 国立教育会館会計課長
平成10年 4 月 文部省大臣官房総務課報道専門
官
平成11年 4 月 文部省教育助成局財務課教育財
務企画室室長補佐
平成12年 4 月 文部省初等中等教育局幼稚園課
課長補佐
平成13年 1 月 文科省初等中等教育局幼児教育
課課長補佐
平成14年 4 月 文科省初等中等教育局教育課程
課課長補佐
平成15年 4 月 日本学術振興会ロンドン研究連
絡センター
平成16年 4 月 文化庁伝統文化課課長補佐
平成17年 4 月 高知大学企画部長
平成19年 2 月 (独) 国立西洋美術館運営管理
部長

施設部長に なかむら 中村 たかゆき 隆行 氏



昭和32年 4 月23日生
昭和56年 3 月
早稲田大学理工学部卒
昭和56年 4 月
文部省管理局教育施設
部工営課
昭和59年 7 月
文部省大臣官房文教施
設部技術課

昭和60年 4 月 文部省大臣官房文教施設部技術
課専門職員
昭和61年 4 月 文部省大臣官房文教施設部計画
課専門職員
昭和63年 4 月 文部省大臣官房文教施設部指導
課指導第一係長
平成 3 年 4 月 文部省大臣官房文教施設部計画
課技術係長
平成 5 年 4 月 熊本大学建設課長
平成 8 年 4 月 文部省助成局施設助成課課長補
佐
平成11年 7 月 東京農工大学共同研究開発セン
ター助教授
平成13年 4 月 東京農工大学共同研究開発セン
ター教授
平成13年 7 月 文部科学省大臣官房文教施設部
施設企画課企画調整官・防災推
進室長
平成15年10月 文部科学省研究開発局地震・防
災研究課防災科学技術推進室長
平成17年 3 月 文部科学省大臣官房付(平成17
年3月～平成17年12月 国連国
際防災戦略事務局(UN /
ISDR:ジュネーブ)に派遣)
平成18年 1 月 宇宙航空研究開発機構施設設備
部参事(平成18年 5 月～宇宙利
用推進本部衛星利用推進セン
ター併任)

附属図書館事務部長に ^{くらの ゆみこ} 蔵野 由美子 氏



昭和26年5月9日生
昭和54年3月
慶應義塾大学文学部卒
昭和54年3月
お茶の水女子大学附属
図書館
昭和63年4月
東京大学附属図書館

平成3年10月 国立婦人教育会館情報交流課システム管理係長
平成6年4月 東京大学附属図書館情報管理課選書掛長
平成10年4月 東京大学附属図書館情報管理課雑誌受入掛長
平成14年4月 兵庫教育大学教務部図書課長
平成16年4月 独立行政法人国立女性教育会館情報課長
平成19年4月 東京大学附属図書館情報サービス課長

医学系事務部長に ^{さたけ じゅんいち} 佐竹 順一 氏



昭和25年12月13日生
昭和44年4月
北海道大学
平成5年4月
国立日高少年自然の家
庶務課庶務係長
平成7年7月
北海道大学農学部附属
演習林庶務掛長

平成10年4月 北海道大学総務部総務課専門職員
平成12年9月 北海道大学総務部総務課企画掛長
平成13年4月 北海道大学総務部総務課総務掛長
平成14年4月 北海道大学総務部人事課専門員
平成16年4月 苫小牧工業高等専門学校庶務課長
平成18年11月 北海道大学歯学研究科・歯学部事務長

総務部職員課長に あさの けんじ **浅野 賢二 氏**

昭和32年10月28日生
 昭和53年 8 月
 旭川工業高等専門学校
 昭和59年 1 月
 北海道大学
 平成10年 4 月
 釧路工業高等専門学校
 庶務課人事係長



平成13年 4 月 北海道大学理学研究科・理学部
 専門職員
 平成15年 4 月 北海道大学総務部総務課秘書掛
 長
 平成16年 4 月 北海道大学総務部総務課秘書室
 秘書掛長
 平成18年 9 月 北海道大学総務部人事課課長補
 佐

企画部企画調整課長に かつやま のりあき **勝山 憲明 氏**

昭和33年12月23日生
 昭和59年 3 月
 北海学園大学経済学部
 卒
 昭和52年 4 月
 室蘭工業大学
 昭和54年 5 月
 北海道大学



平成11年 4 月 旭川医科大学総務部会計課用度
 第一係長
 平成12年 4 月 旭川医科大学総務部会計課司計
 係長
 平成14年 4 月 北海道大学経理部主計課第二予
 算掛長
 平成15年 4 月 北海道大学経理部主計課第一予
 算掛長
 平成16年 4 月 北海道大学財務部主計課総括予
 算係長
 平成17年 4 月 北海道大学財務部主計課課長補
 佐

企画部調査分析課長に ^{よしはら}吉原 ^{はるゆき}春之 氏



昭和32年1月10日生
昭和50年3月
東海大学第四高等学校
卒
昭和50年4月
北海道大学庶務部庶務
課
昭和50年5月
北海道大学工学部

昭和52年4月 北海道大学工学部総務課
昭和56年5月 北海道大学厚生課
昭和60年5月 北海道大学教養部
平成4年4月 北海道大学庶務部庶務課
平成7年4月 北海道大学総務部総務課
平成9年4月 旭川工業高等専門学校庶務課庶
務係長
平成12年4月 北海道大学工学研究科・工学部
総務課研究協力掛長
平成14年4月 北海道大学総務部総務課法規・
調査掛長
平成16年4月 北海道大学総務部総務課法規係
長
平成17年4月 北海道大学企画部企画調整課課
長補佐

財務部経理課長に ^{こうの}構野 ^{ひでき}秀樹 氏



昭和30年2月18日生
昭和48年3月
北海道湧別高等学校卒
昭和48年4月
北見工業大会計課
昭和53年4月
北見工業大学附属図書
館

昭和55年4月 北海道大学水産学部
昭和59年11月 北海道大学附属病院管理課
昭和62年4月 北海道大学経理部経理課
平成2年4月 旭川医科大学教務部図書課
平成5年4月 北海道大学薬学部
平成7年4月 北海道大学施設部企画課
平成10年4月 旭川工業高等専門学校会計課総
務係長
平成11年9月 旭川工業高等専門学校会計課用
度係長併任
平成13年4月 北海道大学総務部総務課秘書掛
長
平成15年4月 苫小牧工業高等専門学校会計課
長
平成19年4月 旭川医科大学会計課長

学務部入試課長に ^{むら た ゆきひこ} 村田 幸彦 氏



昭和28年3月16日生
中央大学法学部通信教育課程卒
昭和46年3月
釧路工業高等専門学校
昭和52年4月
旭川医科大学
昭和56年4月
北海道大学

平成2年4月 放送教育開発センター管理部研究協力課連携協力第一係長
平成5年4月 北海道大学庶務部庶務課広報調査掛長
平成7年4月 北海道大学総務部総務課広報調査掛長
平成8年3月 北海道大学総務部総務課秘書掛長
平成11年4月 北海道大学総務部総務課専門職員
平成14年4月 函館工業高等専門学校庶務課長
平成18年4月 旭川医科大学教務部入試課長

学術国際部産学連携・研究推進課長に ^{かたおか ひらかす} 片岡 平和 氏



昭和28年11月6日生
昭和47年8月
千葉大学養護教諭養成所
平成9年4月
旭川医科大学総務部会計課司計係長
平成12年4月
旭川医科大学総務部会計課総務係長

平成13年4月 北海道大学経理部第一契約課管理掛長
平成14年4月 北海道大学経理部主計課総務掛長
平成16年4月 北海道大学学術国際部研究協力課専門員
平成17年4月 北海道大学総務部職員課専門員
平成19年4月 北海道大学学術国際部研究協力課課長補佐

学術国際部留学交流課長に ^{じんぼ} 神保 ^{りょうこ} 綾子氏



昭和44年7月13日生
平成6年3月
北海道大学大学院法学
研究科修士課程修了
平成6年4月
文部省大臣官房総務課
法令審議室
平成7年7月
文部省初中局特殊教育
課

平成9年4月 労働省職業能力開発局能力開発
課能力習得推進係長
平成11年4月 文化庁芸術文化課企画調査係長
平成12年4月 文化庁総務課企画係長
平成13年1月 文化庁政策課企画係長
平成13年4月 文部科学省高等局学生課専門官
平成14年4月 新潟大学総務部企画室長
平成15年4月 新潟大学総務部企画課長
平成17年4月 文部科学省官房人事課専門官
平成19年6月 文化庁美術学芸課美術館・歴史
博物館室補佐
平成21年2月 北海道大学事務局付課長級（学
術国際部国際企画課留学生交流
室担当）

附属図書館利用支援課長に ^{おがわ} 小川 ^{さとし} 聡氏



昭和32年7月30日生
昭和59年3月
旭川大学経済学部卒
昭和51年10月
旭川医科大学教務部図
書課
平成6年4月
北海道大学附属図書館
情報サービス課

平成8年4月 北海道大学附属図書館情報管理
課
平成9年4月 旭川医科大学教務部図書課情報
管理係長
平成11年10月 北海道大学文学部図書掛長
平成12年4月 北海道大学文学研究科・文学部
図書掛長
平成15年4月 北海道大学附属図書館情報シス
テム課目録情報掛長
平成17年4月 北海道大学附属図書館情報管理
課図書館専門員
平成18年1月 旭川医科大学図書館情報課長

医学系事務部会計課長に ^{きたじま}北嶋 ^{よしお}義夫 氏



昭和25年 8 月 9 日生
昭和45年 4 月
北海道大学
平成 7 年10月
旭川医科大学総務部会
計課専門職員
平成 8 年 4 月
旭川医科大学総務部会
計課用度第一係長

平成11年 1 月 北海道大学薬学部会計掛長
平成14年 4 月 旭川医科大学総務部会計課課長
補佐
平成17年 4 月 北海道大学病院管理課課長補佐
平成17年10月 北海道大学病院経営企画課課長
補佐
平成19年 4 月 北海道大学財務部経理課課長補
佐

工学系事務部教務課長に ^{なかむら}中村 ^{ゆたか}裕 氏



昭和25年 9 月22日生
昭和49年 4 月
旭川医科大学学生部学
生課
昭和51年 4 月
旭川医科大学教務部学
生課
昭和58年 4 月
旭川医科大学総務部庶
務課調査係企画調査主
任

昭和61年 4 月 旭川医科大学教務部学生課学生
係課外活動主任
平成元年 4 月 北海道大学医学部教務掛教育課
程主任
平成 4 年 4 月 北海道大学庶務部国際交流課国
際学術掛学術交流主任
平成 6 年 4 月 釧路工業高等専門学校庶務課庶
務係長
平成 8 年 4 月 放送大学学園北海道地域学習セ
ンター事務室長
平成11年10月 北海道大学学務部入試課専門職
員
平成15年 4 月 北海道大学学務部入試課専門員
平成19年 4 月 北海道大学学術国際部国際企画
課留学生交流室室長補佐

工学系事務部総務課長に ^{むかいち ひろゆき} 向井地 博之 氏



昭和28年4月6日生
昭和51年3月
東洋大学工学部卒
昭和51年4月
北海道大学庶務部人事課
昭和52年4月
文部省大臣官房情報処理課

昭和52年9月 文部省大臣官房人事課
昭和58年4月 北海道大学医学部附属病院総務課
昭和61年4月 北海道大学経理部情報処理課第二情報処理掛データ管理主任
平成元年4月 北海道大学経理部情報処理課第一情報処理掛企画調査主任
平成2年2月 北海道大学庶務部人事課第二給与掛給与調査主任
平成4年4月 北海道大学庶務部人事課第一給与掛定数運用主任
平成6年4月 北海道大学庶務部人事課第一任用掛定員運用主任
平成7年4月 北見工業大学庶務部人事係長
平成10年4月 北海道大学総務部人事課職員掛長
平成12年4月 北海道大学総務部人事課専門職員
平成13年4月 北海道大学総務部人事課情報掛長
平成15年4月 北海道大学総務部人事課任用掛長
平成16年4月 北海道大学獣医学研究科・獣医学部庶務掛長
平成17年4月 旭川医科大学総務部総務課課長補佐
平成20年4月 北海道大学医学系事務部総務課課長補佐

函館キャンパス事務部事務長に ^{こたに まさお} 小谷 正雄 氏



昭和32年11月17日生
昭和51年3月
富良野工業高等学校卒
昭和51年4月
旭川医科大学附属病院設立準備室
昭和51年5月
旭川医科大学業務部医事課

昭和57年4月 旭川医科大学総務部会計課
平成4年10月 旭川医科大学総務部会計課司計係予算運用主任
平成6年4月 旭川医科大学総務部会計課照査係監査主任
平成9年4月 旭川医科大学総務部会計課出納係債権管理主任
平成10年4月 北海道大学経理部経理課第一契約掛契約企画主任
平成10年5月 北海道大学経理部経理課契約室
平成11年4月 国立教育研究所庶務部会計課管理係長
平成13年1月 国立教育政策研究所総務部会計課管理係長
平成14年4月 北海道大学経理部情報処理課専門職員
平成16年4月 北海道大学財務部主計課専門職員
平成16年10月 小樽商科大学財務課課長補佐
平成19年4月 北海道大学学術国際部研究協力課課長補佐
平成19年12月 北海道大学学術国際部国際企画課課長補佐
平成20年8月 北海道大学財務部調達課課長補佐

薬学事務部事務長に ^{まつもと}松本 ^{おさむ}治 氏



昭和51年3月
北海学園大学経済学部
卒
昭和44年4月
北海道大学
平成6年4月
国立日高少年自然の家
庶務課会計係長

平成8年4月 北海道大学医学部附属病院管理
課企画掛長
平成10年4月 北海道大学経理部管財課第二管
財掛長
平成12年4月 北海道大学大学院地球環境科学
研究科会計掛長
平成15年4月 室蘭工業大会計課課長補佐
平成18年4月 北海道大学工学研究科・情報科
学研究科・工学部経理課課長補
佐

メディア・観光学事務部事務長に ^{いわぶち}岩渕 ^{てつや}徹也 氏



昭和31年2月10日生
昭和53年3月
明治大学法学部卒
昭和53年4月
北海道大学庶務部人事
課
昭和56年5月
北海道大学工学部総務
課

昭和61年4月 北海道大学庶務部人事課
平成3年4月 北海道大学理学部
平成6年4月 北海道大学庶務部庶務課
平成7年4月 北海道大学総務部総務課
平成8年4月 旭川医科大学総務部庶務課職員
係長
平成11年4月 旭川医科大学総務部庶務課人事
第一係長
平成12年4月 北海道大学総務部人事課職員掛
長
平成15年4月 北海道大学総務部人事課専門職
員
平成16年4月 帯広畜産大学企画総務部総務課
課長補佐
平成19年4月 北海道大学学務部学生支援課課
長補佐
平成19年12月 北海道大学学術国際部国際企画
課課長補佐

北海道大学病院経営企画課長に
長川 武司 氏



平成元年 6 月
日高少年自然の家事業
課
平成 5 年 4 月
北海道大学水産学部
平成 7 年10月
文部省大臣官房文教施
設部指導課

平成13年 1 月 文部科学省大臣官房文教施設部
施設企画課
平成13年 4 月 文部科学省大臣官房文教施設部
施設企画課監理室アクセス対策
係主任
平成14年 4 月 文部科学省大臣官房文教施設部
施設企画課監理室アクセス対策
係長
平成15年 4 月 文部科学省大臣官房文教施設部
施設企画課監理室監理係長
平成16年 4 月 文部科学省大臣官房文教施設企
画部施設企画課契約情報室監理
係長
平成17年 4 月 文部科学省大臣官房文教施設企
画部計画課予算執行第二係長
平成17年 7 月 文部科学省大臣官房文教施設企
画部計画課予算執行第一係長
平成18年 4 月 文部科学省大臣官房文教施設企
画部計画課予算執行第一係長
(併) 予算執行第二係長
平成19年 4 月 文部科学省大臣官房文教施設企
画部計画課予算総括係長 (併)
予算執行第三係長

北海道大学病院医事課医療支援室長に
樋口 順一 氏



昭和28年 2 月13日生
昭和46年 3 月
北海道名寄高等学校卒
昭和46年 4 月
釧路工業高等専門学校
昭和52年11月
旭川医科大学業務部医
事課

昭和60年 4 月 旭川医科大学業務部医事課医事
情報係企画調査主任
平成元年 4 月 旭川医科大学医学部附属病院医
療情報システム企画室企画主任
平成 2 年10月 旭川医科大学医学部附属病院医
療情報室企画主任
平成 4 年 4 月 旭川医科大学業務部医事課入院
係入院調査主任
平成 5 年 4 月 旭川医科大学業務部医事課入院
係入院統計主任
平成 5 年10月 旭川医科大学総務部会計課用度
第二係調達企画主任
平成 7 年 4 月 北海道大学歯学部業務課患者掛
保険主任
平成 9 年 4 月 旭川医科大学業務部医事課医事
情報係長
平成11年 4 月 旭川医科大学業務部医事課専門
職員
平成12年 4 月 旭川医科大学業務部医事課医事
係長
平成14年 4 月 北海道大学医学部附属病院医事
課医事掛長
平成15年10月 北海道大学医学部・歯学部附属
病院医療企画課医療企画掛長
平成17年 4 月 北海道大学病院管理課専門員
平成17年10月 北海道大学病院経営企画課専門
員
平成19年 4 月 北海道大学病院経営企画課課長
補佐

訃報

名誉教授 若井 邦夫 氏 (享年73歳)



名誉教授 若井邦夫氏は、平成21年3月12日午後11時17分、慢性呼吸不全のため73歳で逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は昭和10年9月7日に新潟県に生まれ、昭和34年3月新潟大学教育学部卒業、次いで東京大学教育学部を卒業し、昭和39年東京大学大学院教育学研究科教育心理学専門課程修士課程修了、昭和42年東京大学大学院教育学研究科教育心理学専門課程博士課程を満期単位取得退学後、北海道大学講師、北海道大学助教授、神戸大学助教授、神戸大学教授、北海道大学教授、平成元年10月から北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター長（平成7年9月まで）、平成6年4月に北海道大学評議員に就任され、平成9年3月に同大学を退職、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。退職後は、平成9年4月から平成18年3月まで共立女子大学教授として私学の教育に尽力されておりました。

教育学の教育・研究においては、専門教育課程の思考心理学、学習心理学、発達心理学、発達心理学演習、発達心理学実習及び大学院教育学研究科の発達心理学、教育学調査実験、人間発達計画基礎論、発達心理学特殊研究等を講じ、多数の学生を薫陶するとともに、教育学部及び大学院教育学研究科の発展に尽力されました。

先生は、人間の高次精神活動である思考研究、創造的思考を主題として研究生生活を始められました。これらの研究は当時の学会の趨勢として人間の思考活動を直接研究対象とすることを時期尚早として避けて通るきらいがありましたが、このような当時の学会の趨勢にも関わらず人間の高次な精神活動である思考の研究に果敢に挑戦し、労作であると高く評価されている研究を残されました。その後、先生の研究は思考・認識の発達を社会・文化的な諸変数との相互作用の問題としてさらに研究の射程範囲を広げた実証的・理論的研究を行い、特に発達心理学・認知心理学の研究で今日でも理論的指導者とし

て世界的にも著名な M. コール、J. ケイガン、U. ブロンフェンブレンナー各教授との長年にわたる研究交流・共同研究による研究成果はわが国の発達心理学はもとより心理学の世界で社会・文化的な視点からの研究を開始・展開してゆく上で中心的な役割を果たしています。特に U. ブロンフェンブレンナー教授及び日本国内の発達心理学者数名との共同研究によるメンター・プロジェクトは、人間の成長・発達に及ぼす周囲の年長者や指導者・教師との師弟関係を通して得られる支援や指導、精神的なサポートが人間形成に果たしている機能的役割を実証的に明らかにした研究として高く評価されています。この研究は、人間の精神的成長や自我の形成過程を広く対人的、社会的な関係の問題として理論化することを目指したものでした。また、人間の高次精神活動と文化との問題についての理論的提言を積極的に行い、比較文化研究や、今日、文化心理学と呼ばれている研究領域の発展に大きな影響を与えています。特に、今日の文化心理学研究の世界的な権威である M. コール教授とは早くから研究の交流を持ち、いち早く日本に氏の研究とその重要性を広めた功績は今日の文化心理学の隆盛を考えると実に大きなものがあります。これらの研究は、いずれも今日では心理学のなかでも最も生産力が上がっている分野ですが、先生は、常に新しい研究分野の開拓と研究発展の牽引車の役割を果たしてきたといえます。

また、先生は、人間の発達を実践的な問題として理論と実践との統合を図ることを目指しておりました。それらの研究は、幼児教育を中心にして保育・幼稚園施設における教育環境に関する研究など幼児教育の実践に対して発達心理学の立場から提言を行い、理論と実践との統合という点で多大な貢献をされました。

学内にあつては、平成元年10月から平成7年9月まで北海道大学教育学部附属乳幼児発達臨床センター長、平成6年4月から平成9年3月まで北海道大学評議員を務められ、大学運営の枢機に参画するとともに教育学部附属乳幼児発達臨床センターの運営・整備充実に尽力されました。

学外にあつては、日本心理学会代議員、日本

教育心理学会研究委員会委員長、同機関誌編集委員及び北海道心理学会常任理事等を歴任され、心理学分野の諸学会の運営と学術の発展に貢献されました。さらに、その専門性を生かして平成4年から平成7年まで北海道幼稚園教育の在り方に関する研究推進協力者会議座長、平成元年から平成8年まで北海道国公立幼稚園長会研究会議の助言者、北海道私立幼稚園協会教育研究会議の助言者及び北海道・石狩地区放送教育研究会議の助言者を兼任し、北海道の幼児教育、放送教育の発展のために尽力されました。

以上のように、先生は日本の学術文化の発展に大きく寄与し、特に人間発達に関する社会・文化的接近に関する研究は文化心理学研究の大きな進展をもたらし、また多くの人材育成に多大な貢献をされ、その功績は誠に顕著です。

ここに謹んで先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)

教授 ^{やまもと} 山本 ^{かつゆき} 克之 氏 (享年63歳)



教授 山本克之氏は平成21年3月14日午後10時57分、膵ガンのため63歳で逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和20年11月10日北海道に生まれ、昭和44年3月本学工学部電子工学科を卒業、修士・博士課程を経て昭和50年3月工学博士の学位を取得されました。その後、応用電気研究所助手、大学院工学研究科助教授を経て、平成3年4月同研究科教授に昇任されました。平成16年4月、大学院情報科学研究科新設に伴い同研究科生命人間情報科学専攻生体システム工学講座(生体計測工学研究室)を担当され、本年3月には、本学における34年間の長きにわたる教育と研究の締めくくりをされようという、退職を間近にしてのご逝去でした。

教育面では、工学部においては「科学計測」「電気磁気学」「応用電気回路」「生体工学概論」「システム工学基礎・概論」などを担当され、工学研究科、情報科学研究科においては「メディカルエレクトロニクス特論」「バイオセンシング特論」などの講義を担当されました。また、情報科学研究科の設置にあたっては、生命人間情報科学専攻の創設に中心的な役割を果たし、本学における生体医工学の教育・研究に大きな道筋をつけられました。研究科設置後も、教育担当副研究科長として教育・運営に尽力されました。

研究面では、生体医工学の分野において、超音波を用いた血管弾性計測、近赤外光を用いた筋組織酸素濃度計測、超音波とマイクロバブルを用いた細胞内物質輸送、光と超音波を用いた生体イメージング、歯科バイオメカニクスの計測など、一貫して生体計測の新手法の開発とその応用に取り組まれ、先導的研究でこの分野の発展に大きく貢献されました。

超音波を用いた血管弾性計測は、従来、体内の血管の局所的な硬さを非侵襲的に測定することが不可能であったものを、動脈壁の動きを体表から超音波を用いてミクロンオーダーで検出す

ることによって硬さを測定する手法を開発したもので、その成果は、動脈硬化症の早期診断法として内外の研究者によって広く応用されています。近赤外光を用いた筋組織酸素濃度計測は、皮下脂肪の影響を考慮した筋組織酸素濃度の定量計測法を確立し、さらに運動中の筋組織酸素濃度を画像化できる計測システムを開発したものであり、生体光学の分野で高い評価を受けています。超音波とマイクロバブルを用いた細胞内物質輸送は、体外から超音波を照射してミクロンオーダーのマイクロバブルを崩壊させ特定部位の細胞に薬剤や遺伝子を導入する治療法に関する研究であり、従来観察困難であったマイクロバブルの動的挙動を世界に先駆けて観察し、診断装置に用いられているパルス超音波で細胞膜の穿孔現象が生じること、穿孔を受けた細胞膜がごく短時間に修復されることを実証し、パルス超音波を用いた細胞内物質輸送法の基礎を確立したもので、医用超音波の分野における先導的研究として高く評価されています。これらの業績によって、平成6年度に日本エム・イー学会論文賞(阪本賞)を、平成11年度と平成18年度には日本超音波医学会菊池賞(論文賞)を受賞されました。また、光と超音波による生体イメージングは、光イメージングの光拡散による限界を超音波変調光で克服しようとした研究であり、従来のシュリレン法に代わる新たな音場可視化法を生み出しました。さらに、本学歯学部との共同研究も長年推進され、歯科バイオメカニクス分野で歯槽骨リモデリングの計測など独創的な研究を展開されました。

学外では、日本生体医工学会(旧日本エム・イー学会)の理事、北海道支部長、評議員、各種委員会委員を務めるとともに、論文誌(生体医工学, *Frontiers in Medicine and Biology*)の編集長を歴任されました。また、日本超音波医学会においても、理事、地方会運営委員長、評議員、各種委員会委員を務められ、これらの分野における学術の発展に大きな貢献をされました。さらに先生は、生体医工学の分野における最新の学術動向に精通し幅広い見識を備えておられることから、文部省学術審議会専門委員、日本学術振興会科学研究費委員会専門委員、通産省産業技術審議会専門委員、NEDO技術委

員なども務められており、これらの功績を認められて日本学術会議連携会員に選任されておりました。

以上のように先生は、生体医工学の教育と研究を通じて我が国と世界の生体医工学の研究の進展に多大なる貢献をされ、多くの優秀な人材を世に送り出して来られました。その先生の、あまりにも早いご逝去に痛恨の念を禁じ得ません。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(情報科学研究科)

資 料

平成21年度日本学術振興会特別研究員選考結果一覧

部 局 等	区 分	DC 1			DC 2			PD			RPD			SPD			合計		採択率
		応募	採用	補欠	応募	採用	補欠	応募	採用	補欠	応募	採用	補欠	応募	採用	補欠	採用	補欠	
文 学 研 究 科	院	7	3		15	5		13	1					35	9	0	9	0	25.70%
教 育 学 研 究 院		2	1		3									5	1	0	1	0	20.00%
法 学 研 究 科		1			8	1		3	1					12	2	0	2	0	16.70%
経 済 学 研 究 科		1			1	1		2						4	1	0	1	0	25.00%
理 学 研 究 院		26	6		33	5		17	2		1	1		77	14	0	14	0	18.20%
医学研究科・医学部		6	3		8	1	2	5	1		1	1		20	6	2	6	2	30.00%
歯 学 研 究 科					1	1		1						2	1	0	1	0	50.00%
薬 学 研 究 院								1						1	0	0	0	0	0.00%
工 学 研 究 科		13	4	1	30	4		9						52	8	1	8	1	15.40%
農 学 研 究 院		7	4		9	3		4			2	1		22	8	0	8	0	36.40%
獣 医 学 研 究 科		17	4		4	1		2	1					23	6	0	6	0	26.10%
メディア・コミュニケーション研究院		1						1						2	0	0	0	0	0.00%
情報科学研究科		25	3	2	31	9		2						58	12	2	12	2	20.70%
水 産 科 学 研 究 院		1		1	8	2		4						13	2	1	2	1	15.40%
地球環境科学研究院		8	1		15	3		13	2					36	6	0	6	0	16.70%
先端生命科学研究院		22	9	1	25	11	1	6	1					53	21	2	21	2	39.60%
低温科学研究所								7	2		1			8	2	0	2	0	25.00%
電子科学研究所								4			1	1		5	1	0	1	0	20.00%
遺伝子病制御研究所								4	1					4	1	0	1	0	25.00%
スラブ研究センター								5	1					5	1	0	1	0	20.00%
総合博物館								1						1	0	0	0	0	0.00%
北方生物圏フィールド科学センター								4			1	1		5	1	0	1	0	20.00%
創成科学共同研究機構								1						1	0	0	0	0	0.00%
観光学高等研究センター								1						1	0	0	0	0	0.00%
合 計		137	38	5	191	47	3	110	13	0	7	5	0	445	103	8	103	8	23.10%

平 成 20 年 度 分	123	40	0	206	51	0	138	11	0	3	1	0	0	470	103	0	103	0	21.90%
--------------	-----	----	---	-----	----	---	-----	----	---	---	---	---	---	-----	-----	---	-----	---	--------

※SPDは、PDに申請し合格した者の中から特に優れた者が採用される。

(学術国際部研究協力課)

資 料

平成21年度入学者の道内・道外別及び卒業年度調べ

学部・系・群・専攻名		定 員	入 学 者 数		道内・道外人数		道内・道外比率		卒業年度別人数		卒業年度別比率		その他		
			全 体	女子	道内	道外	道内	道外	21年3月 卒業	過年度 卒業	21年3月 卒業	過年度 卒業	人数	比率	
文 学 部		185	186	97	107	75	57.5%	40.3%	129	53	69.3%	28.5%	4	2.2%	
教 育 学 部		50	54	28	35	18	64.8%	33.3%	40	13	74.1%	24.0%	1	1.9%	
法 学 部		200	201	59	114	86	56.7%	42.8%	132	68	65.7%	33.8%	1	0.5%	
経 済 学 部		190	204	50	135	66	66.2%	32.3%	134	67	65.7%	32.8%	3	1.5%	
理 学 部	数学重点選抜群	49	51	9	24	27	47.1%	52.9%	31	20	60.8%	39.2%			
	物理重点選抜群	86	89	19	40	49	44.9%	55.1%	63	26	70.8%	29.2%			
	化学重点選抜群	91	95	25	49	46	51.6%	48.4%	64	31	67.4%	32.6%			
	生物・地学重点選抜群	60	63	24	16	44	25.4%	69.8%	43	17	68.2%	27.0%	3	4.8%	
	生物重点選抜群	14	14	4	4	8	28.6%	57.1%	7	5	50.0%	35.7%	2	14.3%	
	計	300	312	81	133	174	42.6%	55.8%	208	99	66.7%	31.7%	5	1.6%	
医 学 部	医 学 系		100	100	20	57	41	57.0%	41.0%	37	61	37.0%	61.0%	2	2.0%
	保 健 学 系	看 護 学 専 攻	70	75	63	61	14	81.3%	18.7%	40	35	53.3%	46.7%		
		放射線技術科学専攻	37	38	13	31	7	81.6%	18.4%	26	12	68.4%	31.6%		
		検査技術科学専攻	37	39	23	22	16	56.4%	41.0%	20	18	51.3%	46.1%	1	2.6%
		理学療法科学専攻	18	20	9	11	9	55.0%	45.0%	14	6	70.0%	30.0%		
		作業療法科学専攻	18	19	11	14	5	73.7%	26.3%	9	10	47.4%	52.6%		
		小 計	180	191	119	139	51	72.8%	26.7%	109	81	57.1%	42.4%	1	0.5%
	計		280	291	139	196	92	67.4%	31.6%	146	142	50.2%	48.8%	3	1.0%
歯 学 部		60	60	24	22	37	36.6%	61.7%	21	38	35.0%	63.3%	1	1.7%	
薬 学 部		80	83	32	49	34	59.0%	41.0%	49	34	59.0%	41.0%			
工 学 部	応 用 理 工 系	160	161	20	75	85	46.6%	52.8%	115	45	71.4%	28.0%	1	0.6%	
	情報エレクトロニクス系	180	184	14	82	95	44.6%	51.6%	119	58	64.7%	31.5%	7	3.8%	
	機械知能工学系	120	123	5	48	70	39.0%	56.9%	72	46	58.5%	37.4%	5	4.1%	
	環境社会工学系	210	212	29	114	97	53.8%	45.7%	123	88	58.0%	41.5%	1	0.5%	
	計	670	680	68	319	347	46.9%	51.0%	429	237	63.1%	34.8%	14	2.1%	
農 学 部		215	224	65	46	174	20.5%	77.7%	140	80	62.5%	35.7%	4	1.8%	
獣 医 学 部		40	42	15	4	38	9.5%	90.5%	28	14	66.7%	33.3%			
水 産 学 部		215	222	54	99	122	44.6%	55.0%	128	93	57.7%	41.9%	1	0.4%	
合 計		2,485	2,559	712	1,259	1,263	49.2%	49.4%	1,584	938	61.9%	36.7%	37	1.4%	

※その他とは、高等学校卒業程度認定試験合格者、高等専門学校第3学年修了者、帰国子女特別選抜による入学者及び外国人留学生である。

当該欄の人数は、「道内・道外」及び「卒業年度別」の区分対象外である。

(学務部入試課)

資 料

平成21年度入学者の都道府県分布及び地域比率

地 域 名	入学者	男子	女子	地域%
-------	-----	----	----	-----

北 海 道	1,259	857	402	49.2%
-------	-------	-----	-----	-------

東 北	166	117	49	6.5%
青 森 県	41	27	14	
岩 手 県	28	20	8	
宮 城 県	38	26	12	
秋 田 県	25	13	12	
山 形 県	19	17	2	
福 島 県	15	14	1	

関 東	330	252	78	12.9%
茨 城 県	26	18	8	
栃 木 県	37	34	3	
群 馬 県	22	18	4	
埼 玉 県	51	37	14	
千 葉 県	34	28	6	
東 京 都	99	72	27	
神 奈 川 県	61	45	16	

北 陸 ・ 中 部	351	275	76	13.7%
新 潟 県	52	47	5	
富 山 県	31	19	12	
石 川 県	50	39	11	
福 井 県	4	3	1	
山 梨 県	10	9	1	
長 野 県	40	33	7	
岐 阜 県	21	18	3	
静 岡 県	57	44	13	
愛 知 県	86	63	23	

地 域 名	入学者	男子	女子	地域%
-------	-----	----	----	-----

近 畿	267	207	60	10.4%
三 重 県	30	20	10	
滋 賀 県	10	7	3	
京 都 府	30	23	7	
大 阪 府	78	62	16	
兵 庫 県	84	64	20	
奈 良 県	19	18	1	
和 歌 山 県	16	13	3	

中 国 ・ 四 国	103	74	29	4.0%
鳥 取 県	5	4	1	
鳥 根 県	3	2	1	
岡 山 県	15	10	5	
広 島 県	30	27	3	
山 口 県	5	3	2	
徳 島 県	8	5	3	
香 川 県	10	8	2	
愛 媛 県	25	15	10	
高 知 県	2	0	2	

九 州 ・ 沖 縄	47	40	7	1.9%
福 岡 県	25	23	2	
佐 賀 県	5	3	2	
長 崎 県	3	3	0	
熊 本 県	2	2	0	
大 分 県	2	1	1	
宮 崎 県	2	1	1	
鹿 児 島 県	4	3	1	
沖 縄 県	4	4	0	

そ の 他	36	25	11	1.4%
高等学校卒業程度認定試験	8	7	1	
帰国子女特別選抜	7	4	3	
外国人留学生	21	14	7	

入学者数合計	2,559	1,847	712
--------	-------	-------	-----

(学務部入試課)

〈編集メモ〉

▼今年も交流プラザ「エルムの森」の休日開館が始まりました。交流プラザ「エルムの森」では、毎年利用者の多い4月から11月までの8ヶ月間、全学停電による休館日を除き無休で開館しています。平成15年5月の開館以来、利用者数は年々増加し、平成20年度の利用者数は前年度より1万人以上も多い約67,000人

になりましたが、今年の4月は天候に恵まれたこともあり、さらに速いペースで利用者数を伸ばしています。建物内には北大認定商品などを販売するグッズショップを併設しているほか、学部案内や北海道大学出版会の刊行物などもご覧いただけます。もちろんGW期間中にも開館しておりますので、ご利用ください。



2008. 4. 22 北大構内

北の息吹④ アズマイチゲ (*Anemone raddeana*)

「春の妖精」と呼ばれるアネモネの一種で北大構内でも普通に見られる。葉の切れ込みが少なく丸みを帯びる点で、花がよく似たキクザキイチゲとは容易に区別できる。本種の容姿はキクザキイチゲより断然上だが、花の色は白しなくて華やかさにかける。もっとも、キクザキイチゲの濃い青紫色の花が見られるのは東北地方までで、北海道では殆どが白色の花である。高山植物の世界では、道産個体の方が本州産より花色が濃いのが一般的なのに、この仲間での逆転現象は不思議なことではある。

理事・副学長 岡田 尚武

北大時報 ④ April 2009 No.661

平成 21 年 4 月発行

北海道大学総務部広報課

〒 060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/>